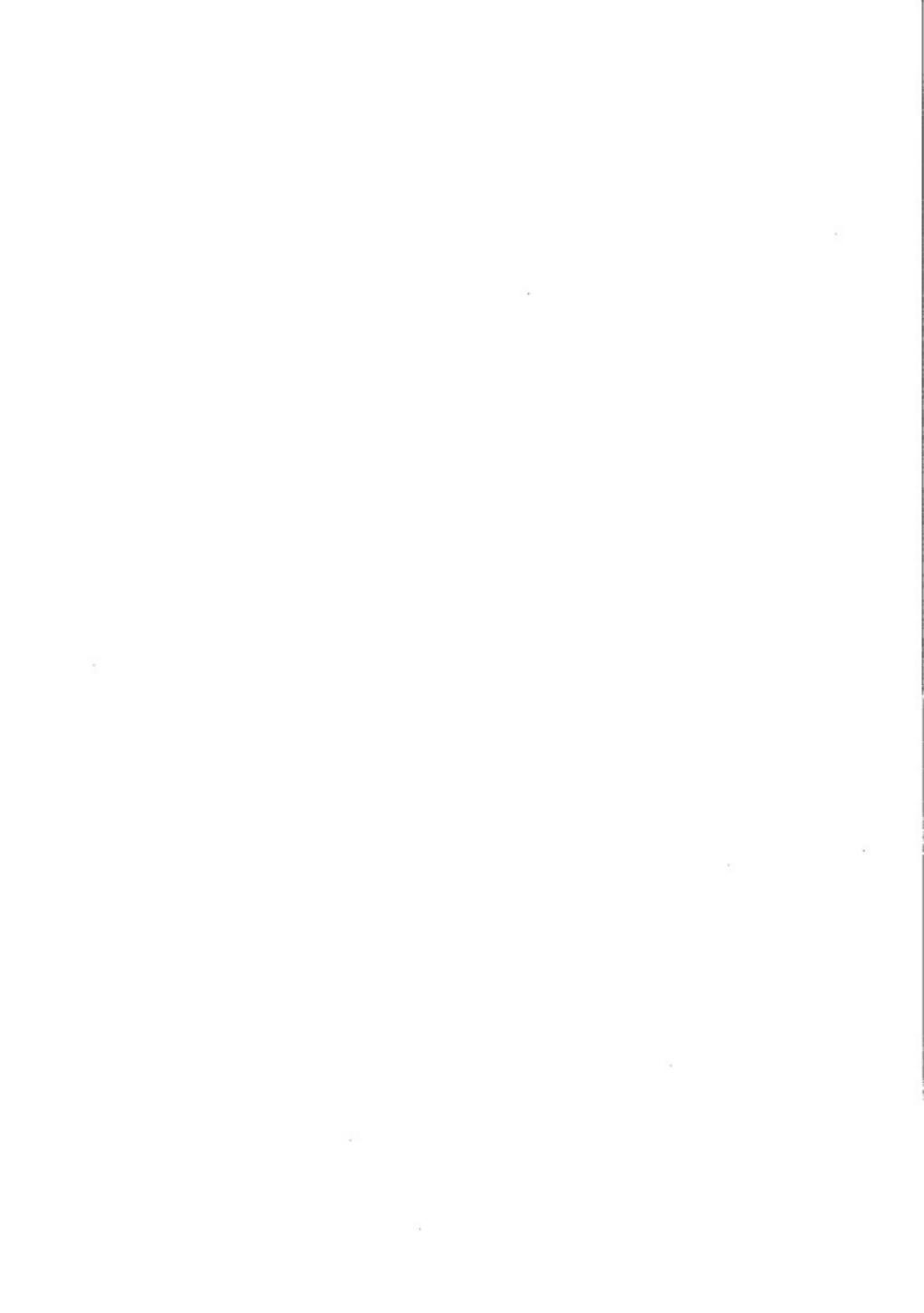


八尾市文化財調査報告59
平成20年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成20年度発掘調査報告書

2009年3月

八尾市教育委員会



はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、市域は生駒山地西麓から大阪平野東部にかけての範囲に広がっております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川の支流となる多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連續と遺跡が形成されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成20年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の周知の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設に伴う発掘調査や民間の各種事業の開発工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今年度の調査においては、弥生時代前期から近世に至るまで、幅広い時期の様々な遺跡や遺構の広がりを確認できる貴重な成果が得られました。

特に、飛鳥時代から奈良時代の遺構や瓦等を確認した高麗寺跡、飛鳥時代から平安時代の瓦が出土した東郷廃寺、中世寺院の存在を示す瓦が出土した中田遺跡など、市内の寺院の様相を知る上で貴重な資料が加わることとなりました。

これからは、埋蔵文化財の重要性を市民の方々をはじめとして、多くの人々に御理解いただき、地域の歴史資産として保存・活用していくことが文化財行政の重要な課題となります。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際して、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成21年3月

八尾市教育委員会
教育長 中原敏博

例　　言

1. 本書は、平成20年度の国庫補助事業(市内遺跡発掘調査)として、大阪府八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。
2. これらの調査は、八尾市教育委員会が平成20年度に(財)八尾市文化財調査研究会へ委託して実施したものである。
3. 本書には、平成20年度に実施した市内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及び遺構確認調査と埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査のうち、平成20年4月から12月までに実施した調査と、平成19年度に実施した平成20年1月から3月までの調査についても掲載している(掲載順序は遺跡名の五十音順となっている)。特に成果のあった調査については、その概要を掲載している。
また、平成19年度の国庫補助事業(市内遺跡発掘調査)で、(財)大阪市文化財協会へ委託して実施した保存処理業務の成果についても掲載している。
4. 調査した場所及び位置については、巻頭に一括して位置図を掲載している。
5. 本書の作成にあたっては、八尾市教育委員会　藤井淳弘、(財)八尾市文化財調査研究会　坪田真一・西村公助・樋口薰・河村恵理・木村健明・米井友美・菊井佳弥(現・奈良県立橿原考古学研究所)、(財)大阪市文化財協会　伊藤幸司、金澤雄太(大阪大学大学院)が執筆を行い、執筆分担は目次末に記した。
6. 本書に掲載している出土品及び図面は、埋蔵文化財の活用に資するため八尾市立埋蔵文化財調査センター(八尾市幸町四丁目58-2)において保管している。
7. 本書の編集は、八尾市教育委員会　生涯学習部文化財課　藤井が行った。

本文目次

はじめに

例言

I 平成19年度市内遺跡発掘調査報告（平成20年1月～3月）

1. 平成19年度1～3月発掘調査一覧表	1
2. 平成19年度発掘調査位置図	2～5
3. 市内遺跡発掘調査報告	6
1) 老原遺跡(2007-383)の調査	(米井) 6
2) 太田遺跡(2007-360)の調査	(坪田) 6
3) 恩智遺跡(2007-460)の調査	(米井) 7
4) 東郷遺跡(2007-344)の調査	(坪田) 8
5) 東郷遺跡(2007-414)の調査	(樋口) 8
6) 東郷遺跡(2007-517)の調査	(河村) 9
7) 中田遺跡(2007-290)の調査	(樋口) 10
8) 中田遺跡(2007-419)の調査	(樋口) 12
9) 中田遺跡(2007-502)の調査	(樋口) 13

II 平成20年度市内遺跡発掘調査報告（平成20年4月～12月）

1. 平成20年度4～12月発掘調査一覧表	15～18
2. 平成20年度発掘調査位置図	19～30
3. 市内遺跡発掘調査報告	31
1) 菅振遺跡(2008-40)の調査	(坪田) 31
2) 菅振遺跡(2008-323)の調査	(坪田・木村) 31
3) 久宝寺遺跡(2008-8)の調査	(樋口) 34
4) 久宝寺寺内町(2008-87)の調査	(米井) 34
5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査	(坪田・木村) 37
6) 小阪合遺跡(2008-117)の調査	(坪田) 39
7) 高麗寺跡(2008-14)の調査	(樋口) 40
8) 渋川廃寺(2008-217)の調査	(坪田・木村) 44
9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査	(坪田・藤井) 49
10) 東郷遺跡(2008-298)の調査	(坪田) 51
11) 東郷遺跡(2008-344)の調査	(坪田) 54
12) 東郷廃寺(2008-96)の調査	(樋口) 55
13) 中田遺跡(2008-378)の調査	(木村) 59
14) 西都遺跡(2008-298)の調査	(西村) 63
15) 八尾寺内町(2008-152)の調査	(木村) 64
16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査	(坪田) 65
17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)の調査	(木村) 65
18) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-237)の調査	(樋口) 66

III 平成19年度保存処理事業報告

1 保存処理事業の概要	(藤井) 69
2 金属製品の保存処理について	(伊藤) 69
3 小阪合遺跡第40次調査出土古代錢貨の出土状況について	(菊井) 79
4 郡川東塚古墳出土の馬具について	(藤井・金澤) 89

図版目次

- 図版1 3-1) 老原遺跡(2007-383)の調査
(調査区全景: 北から)
3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査
(1区遺構完掘状況: 西から)
3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査
(2区北壁: 南から)
3-3) 恩智遺跡(2007-460)の調査
(1区南壁: 北から)
- 図版2 3-4) 東郷遺跡(2007-344)の調査
(1区遺構完掘状況: 西から)
3-4) 東郷遺跡(2007-344)の調査
(2区北壁: 南から)
3-5) 東郷遺跡(2007-414)の調査
(調査地全景: 北東から)
3-5) 東郷遺跡(2007-414)の調査
(2区北壁: 南から)
- 図版3 3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査
(調査地風景: 南東から)
3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査
(3区西壁: 東から)
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(1区全景: 南から)
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(出土遺物)
- 図版4 3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(出土遺物)
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査
(1区北壁: 南から)
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査
(3区南壁: 北から)
3-9) 中田遺跡(2007-502)の調査
(1区北壁: 南から)
- 図版5 3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査
(調査区全景: 南から)
3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査
(4区西壁: 東から)
3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査
(第1面: 東から)
3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査
(西壁: 東から)
- 3-1) 老原遺跡(2007-383)の調査
(1区西壁: 東から)
3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査
(1区東壁: 西から)
3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査
(3区南壁: 北から)
3-3) 恩智遺跡(2007-460)の調査
(2区南壁: 北から)
3-4) 東郷遺跡(2007-344)の調査
(1区西壁: 東から)
3-4) 東郷遺跡(2007-344)の調査
(出土遺物)
3-5) 東郷遺跡(2007-414)の調査
(1区北壁: 南から)
3-5) 東郷遺跡(2007-414)の調査
(3区北壁: 南から)
3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査
(2区東壁: 西から)
3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査
(4区北壁: 南から)
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(1区北壁: 南から)
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(出土遺物)
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査
(出土遺物)
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査
(2区南壁: 北から)
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査
(出土遺物)
3-9) 中田遺跡(2007-502)の調査
(2区北壁: 南から)
3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査
(2区北壁: 南から)
3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査
(出土遺物)
3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査
(第3面: 東から)
3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査
(北壁: 南から)

- 図版6 3-2) 蓼振遺跡(2008-323)の調査
(出土遺物)
- 図版7 3-3) 久宝寺遺跡(2008-8)の調査
(周辺状況:南西から)
3-3) 久宝寺遺跡(2008-8)の調査
(7区西壁:東から)
3-4) 久宝寺寺内町(2008-87)の調査
(調査地全景:南西から)
3-4) 久宝寺寺内町(2008-87)の調査
(1区北壁:南から)
- 図版8 3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(第1面:南から)
3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(第2面:南から)
3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(第4面:南から)
3-6) 小阪合遺跡(2008-117)の調査
(1区西壁:東から)
- 図版9 3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(出土遺物1)
- 図版10 3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(出土遺物2)
- 図版11 3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(調査区全貌:南西から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(2区北壁:南から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(6区北壁:南から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(7区S P 1・2:北から)
- 図版12 3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(出土遺物1)
- 図版13 3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(出土遺物2)
- 図版14 3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(調査地全景:西から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(2区第1面:北から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(4区第1面:南から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(5区西壁:東から)
- 図版15 3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(出土遺物1)
- 3-3) 久宝寺遺跡(2008-8)の調査
(2区西壁:東から)
3-3) 久宝寺遺跡(2008-8)の調査
(8区西壁:東から)
3-4) 久宝寺寺内町(2008-87)の調査
(1区検出状況:南から)
3-4) 久宝寺寺内町(2008-87)の調査
(2区北壁:南から)
3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(第6層上面出土状況)
3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(第3面:南から)
3-5) 久宝寺寺内町(2008-137)の調査
(南壁:北から)
3-6) 小阪合遺跡(2008-117)の調査
(3区南壁:北から)
- 3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(1区北壁:南から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(3区北壁:南から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(7区S P 2:東から)
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査
(8区北壁:南から)
- 3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(1区西壁:東から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(3区第1面:北から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(4区北壁:南から)
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(7区西壁:東から)

- 図版16 3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査
(出土遺物2)
- 図版17 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(調査地近景:東から)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(2区南壁:北から)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(出土遺物)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(出土遺物)
- 図版18 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(調査地全景:西から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(2区S.K201:西から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(3区遺物出土状況:西から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(出土遺物)
- 図版19 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(出土遺物)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(調査区近景:南から)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(1区北壁:南から)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(2区東壁:西から)
- 図版20 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(調査地近景:西から)
- 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(2区瓦出土状況:北から)
- 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(調査地全景:南西から)
- 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(2区S.D2:北から)
- 図版21 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(出土遺物1)
- 図版22 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(出土遺物2)
- 図版23 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(出土遺物1)
- 図版24 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(出土遺物2)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(1区南壁:北から)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(出土遺物)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(出土遺物)
- 3-9) 成法寺遺跡(2008-256)の調査
(出土遺物)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(1区第1面:北から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(2区第1面:南から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(3区西壁:東から)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(出土遺物)
- 3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査
(出土遺物)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(1区第1面:西から)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(2区第1面:東から)
- 3-11) 東郷遺跡(2008-344)の調査
(2区北壁:南から)
- 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(2区南壁:北から)
- 3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査
(3区東壁:西から)
- 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(1区.S.D1:東から)
- 3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査
(2区東壁:西から)

- 図版25 3-14) 西郡遺跡(2008-289)の調査
(調査地全景:南東から)
3-15) 八尾寺内町(2008-152)の調査
(第1面:南から)
3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)
の調査(調査地全景:北から)
3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)
の調査(4区東壁:西から)
- 図版26 3-17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)
の調査(調査地全景:西から)
3-17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)
の調査(4区西壁:東から)
3-18) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-237)
の調査(調査地全景:東から)
3-18) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-237)
の調査(7区南壁:北から)
- 3-14) 西郡遺跡(2008-289)の調査
(北壁:南から)
3-15) 八尾寺内町(2008-152)の調査
(北壁:南から)
3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)
の調査(2区南壁:北から)
3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)
の調査(5区東壁:西から)
3-17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)
の調査(2区西壁:東から)
3-17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)
の調査(5区東壁:西から)
3-18) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-237)
の調査(1区南壁:北から)
3-18) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-237)
の調査(8区南壁:北から)

I 平成19年度市内遺跡発掘調査報告 (平成20年1月～3月)

1. 平成19年度1~3月発掘調査一覧表

遺跡名 (申請番号)	調査地	調査日	目的:対象 (調査種別)	調査方法(面積)	調査結果	担当者
老原遺跡 (2007-393)	北地1丁目143-3、144-1の一部 201-144-4、145-20-一部	1月7日	式耕作地:基礎 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	地盤不明の河川堆積物を基盤とした 中世～現代の水の耕作土を確認	橋口
老原遺跡 (2007-383)	老原4丁目81-2	1月9日	個人住宅:基礎 (遺構確認調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積18.75m ²)	詳細は3-1)に記載	米井
太田遺跡 (2007-349)	大里3丁目178番、181番1,173 甲1-2の一部、179番20-1部、 177番1の一部	2月6日	宅地辺縁:人孔 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 1.5-2.0mまで調査(調査面積12.0m ²)	詳細は3-2)に記載	坪田
太田川遺跡 (2007-366)	水跡1丁目78番1の一部、78番 2	1月15日	工場・基礎 (遺構確認調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積27.0m ²)	先史時代と推測される土壌化層を確認	橋口
黒智遺跡 (2007-460)	黒智中町1丁目6番の一部	3月14日	分譲住宅:洋舎 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積12.0m ²)	詳細は3-3)に記載	米井
木の本遺跡 (2007-454)	木の本2丁目8番地	2月6日	工場・人孔 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	遺構・遺物はなし	成海
木の本遺跡 (2007-424)	木の木1丁目12番	2月7日	個人住宅:基礎 (遺構確認)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積1.0m ²)	遺構・遺物はなし	米井
久保寺遺跡 (2007-455)	東久宝寺3丁目2番1	2月18日	共同住宅:基礎 (遺構確認調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積12.5m ²)	近世頃の井戸を1基発見	橋口
豊川遺跡 (2007-396)	豊川2丁目203、204	1月21日	分譲住宅:人孔 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mの調査区1ヶ所を深さ2.0- 3.0mまで調査(調査面積41.0m ²)	遺構・遺物はなし	橋口
豊川遺跡 (2007-394)	豊川2丁目222番	3月10日 6月19日	分譲住宅:地下水部分 (遺構確認調査)	2.5m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 5.0mの調査区1ヶ所を深さ2.5mまで 調査(調査面積25.0m ²)	古墳時代中頃の生活面を確認	成海 西村
高瀬遺跡 (2007-344)	木町7丁目15番1地	2月13日	共同住宅:基礎 (遺構確認調査)	3.5m×3.5mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積12.5m ²)	詳細は3-4)に記載	坪田
東郷遺跡 (2007-414)	北木町2丁目202-1、203-1、 204、205	3月2日	病院・浴槽 (遺構確認調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積27.0m ²)	詳細は3-5)に記載	橋口
東郷遺跡 (2007-517)	北木町2丁目16番1	3月27日 3月28日	分譲共同住宅:基礎 (遺構確認調査)	3.5m×3.5mの調査区3ヶ所を深さ 3.2-3.6mまで調査(調査面積75.5m ²)	詳細は3-6)に記載	西村
中田遺跡 (2007-290)	八尾木北3丁目12番11～14	1月17日	分譲住宅:人孔 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所、2.0m ×2.0m×1.1m、2.0m×1.5mの調査区1ヶ 所を深さ1.5-2.0mまで調査(調査面 積9.5m ²)	詳細は3-7)に記載	橋口
中田遺跡 (2007-419)	刑部3丁目82番3	2月4日	分譲住宅:基礎 (遺構確認調査)	2.0m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 1.5-2.0mまで調査(調査面積18.75m ²)	詳細は3-8)に記載	橋口
中田遺跡 (2007-502)	八尾木北3丁目134-1	3月13日	床跡付住居:基礎 (遺構確認調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積18.0m ²)	詳細は3-9)に記載	橋口
中田遺跡 (2007-522)	八尾木北6丁目12番1の一部	3月26日	個人住宅:基礎 (遺構確認)	2.0m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mの調査区1ヶ所を深さ2.0m まで調査(調査面積18.5m ²)	地盤不明の河川堆積物を基盤とした 中世以降の水田耕作土を確認	橋口
水越遺跡 (2007-421)	千原3丁目27番の一部	3月21日	分譲住宅: 基礎・浄化槽 (遺構確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所(基礎)、 3.0m×2.0mの調査区1ヶ所(浄化槽) を深さ1.5-2.0mまで調査(調査面 積6.5m ²)	本調査地が東高西低の谷底地形に位 置することを確認	橋口
八幡東遺跡 (2007-373)	若林町3丁目104番7	1月8日	個人住宅:基礎 (災害調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積6.25m ²)	古墳時代に遡る土壌化層の ほか、下段には水田耕作十が3枚以上 存在することを確認	橋口
矢作遺跡 (2007-453)	高木町7丁目48番地	2月15日	個人住宅:基礎 (遺構調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積4.0m ²)	遺構・遺物はなし	米井
山賀遺跡 (2007-490)	北庄4丁目49-7	3月12日	浴槽・基礎 (遺構確認調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積12.5m ²)	遺構・遺物はなし	米井
埋蔵文化財包蔵 地外 (2007-483)	八日野町8丁目41	3月11日	工場・施設場所: 基礎・浄化槽 (遺構調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所(基礎)、 2.0×2.0mの調査区1ヶ所(浄化槽)を 深さ2.0-3.0mまで調査(調査面積22.0m ²)	埋蔵善後復旧、生産地として利用	西村

2. 平成19年度発掘調査位置図



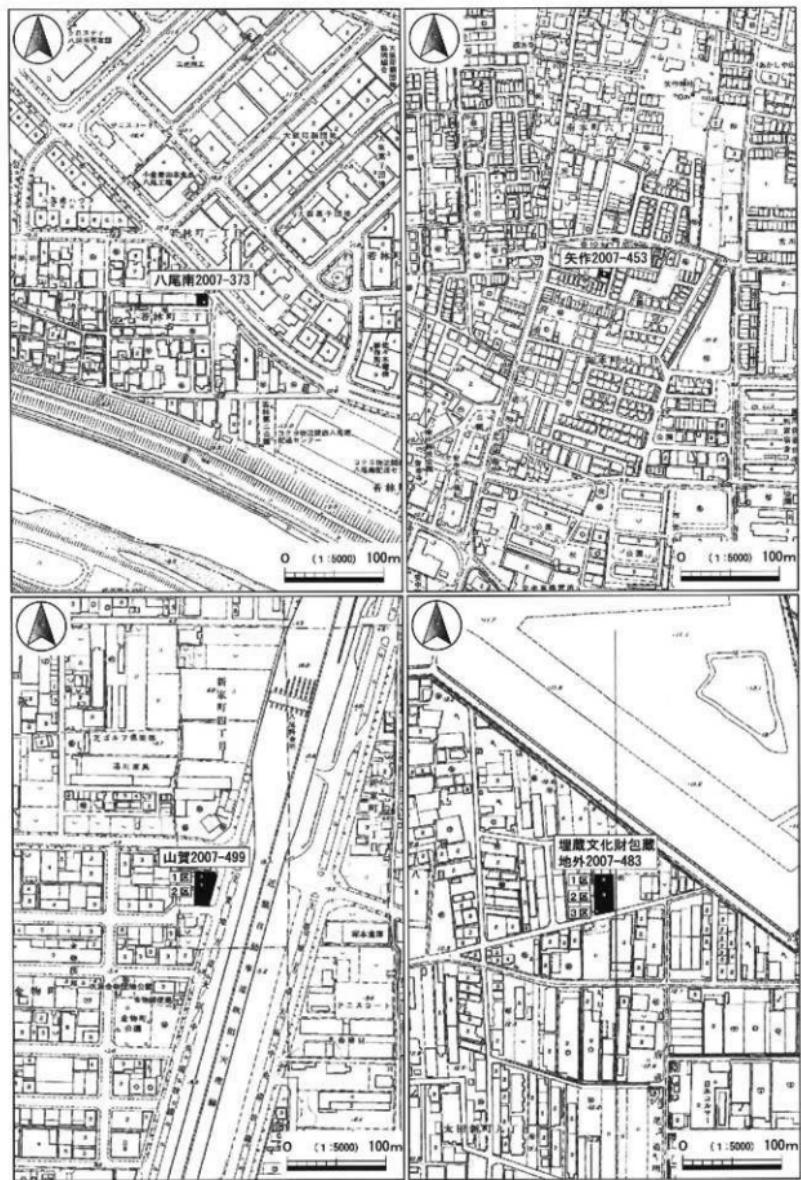
第1図



第2図



第3図



第4図

3. 市内遺跡発掘調査報告

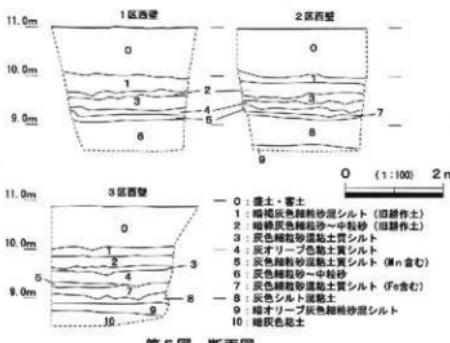
1) 老原遺跡(2007-383)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 2.5×2.5 mを3ヶ所、面積約 18.75m^2 について、現地表(10.6m前後)下2.5m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2,500地図記載の標高地(調査地北側を東西に伸びる市道中央:T.P.+10.6m)を使用した。

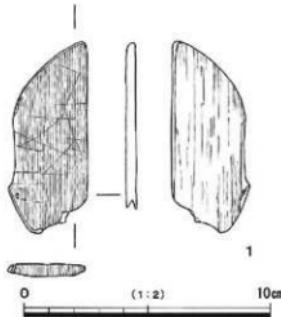
【地層】現地表下1.0m前後までは盛土(0層)である。以下1.5mの間において10層の層序を確認した。3~5層は土壤化層である。9層からは木製品が出土した。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。時期不明一板状木製品(1)。1は半月形の板で、小型の曲物底板の一部と考えられる。端部にやや斜め方向に貫通する径1mm以下の孔が2ヶ所認められ、底板を固定する釘孔と考えられる。板の片面には浅い直線状の切り込みが認められる。

(2)まとめ：今回の調査では、T.P.+10.0m以下に耕作土を主体とする地層の存在が確認された。



第5図 断面図



第6図 出土遺物実測図

2) 太田遺跡(2007-360)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 2.0×2.0 m、面積約 4m^2 3ヶ所について、現地表(11.6~12.0m)下1.5~2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、調査地北東約60m地点に位置する太田遺跡第8次調査で使用した仮BM:T.P.+12.381mである。

【地層】現地表下1.5~2.0mの間において21層の層序を確認した。2~4層は近世の耕作関連の地層であろう。5層は2・3区で認められた南北方向に広がる水成層である。6~8層は1区で認められた土壤化層である。8層は炭を含んでおり、遺構の可能性がある。9~11層は耕作土であろう。12層は1区で認められた水成層である。2・3区5層との対応は不明である。13・14層は1区で認められ、南に向かって下がっており遺構の可能性がある。3区15・16層はブロック状で、1・2区17層に対応する耕作土と考えられる。18・19層はブロック状で耕作土であろう。

【検出遺構】平安時代末～落込み1基(SO1)、時期不明一溝1条(SD1)、ピット1個(SP1)。いずれも1区6層上面で検出した。SO1は東西方向の南肩を検出した。深さ最大40cmを測り、埋土はブロック状の3層からなる。平安時代末頃までの土器類・須恵器・黒色土器・瓦器・平瓦片や石材が出土している。SD1は北東～南西方向に延び、SO1に削平される。幅約25cm・深さ約17cmを測る。

時期不明の須恵器片が出土している。SP1はS01底で検出したもので、構築面は不明であるが、7層あるいは10層上面が考えられよう。直徑約33cmの円形を成し、深さ18cmを測る。

(2)まとめ: 1区では周辺の調査成果と同様に、平安時代末頃の遺構を検出した。SP1・SD1は時期の遅い遺構であるが、西の第8次調査の成果から勘案して、古墳時代中期まで遡ることはないと考えられる。18層が古墳時代前期～中期に相当すると考えられる。



第7図 平・断面図

3) 恩智遺跡(2007-460)の調査

(1) 調査概要: 平面規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4.0m^2 1ヶ所について、現地表(11.3~11.5m前後)下2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地東部の恩智橋東詰道路上: 12.4m)を使用した。

[地層] 現地表下1.0m前後までは、現代の客土・盛土(0層)である。以下1.0mの間において9層の層序を確認した。4・8層は弥生時代中期の少量の土器片を、5層は多量の植物遺体を含む。5・6層は1区、7・8層は2区で認められた。2~8層は水成層であり、5・6層と7・8層は河川堆積の同時堆層と考えられる。9層(T.P.+9.4m前後)は西へ約50mの地点(第14次調査地)で確認された緑灰色シルト質粘土の土壤化層に相当すると思われ、弥生時代中期の生活面の可能性がある。

[検出遺構・出土遺物] 検出遺構なし。弥生時代～弥生土器甕(1・2)。1は1区4層、2は2区4層出土である。ともに底部で、内外面ともに摩滅を受けるが、2は外面の一部にタタキが認められる。

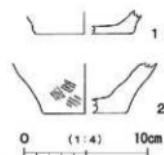
(2)まとめ: 旧耕土とその下の水成層、弥生時代中期の可能性がある土壤化層を確認した。

参考文献

- 鶴口一真 2004「恩智遺跡(第14次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告78』(財)八尾市文化財調査研究会



第8図 断面図

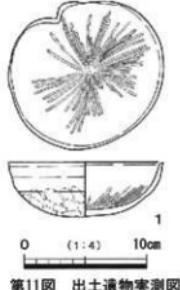
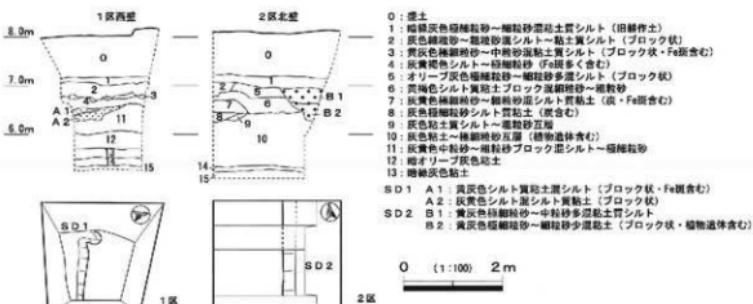


第9図 出土遺物実測図

4) 東郷遺跡(2007-344)の調査

(1) 調査概要：平面規模約3.5×3.5m、面積約12.25m² 2ヶ所について、現地表(T.P.+8.1m)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高の基準は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北東部に位置する市道交差点中央:T.P.+7.8m)である。

[地層] 現地表下90cmまでは盛土(0層)である。以下2.1mの間において13層の層序を確認した。2層はブロック状で淘汰不良な耕作土で、中世頃の土師器片を含む。時期は近世であろう。3・4層は1区で認められた。3層は部分的に認められ、周辺の調査成果から中世頃に相当する層位であろう。4層は水成層の可能性があるがやや撹拌が認められる。5~7層は2区で認められた。5層は水成層と思われ、6層は層相からみて整地層の可能性がある。7層は均質な層相で炭を含む。6層と同じく整地土か。8層以下は水成層である。14層は暗色を呈し、15層の土壤化部分の可能性がある。



5) 東郷遺跡(2007-414)の調査

(1) 調査概要：平面規模約3.0×3.0m、面積約9.0m² 3ヶ所について、現地表(T.P.+7.9m前後)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南東部に位置する市道交差点中央:T.P.+7.6m)である。

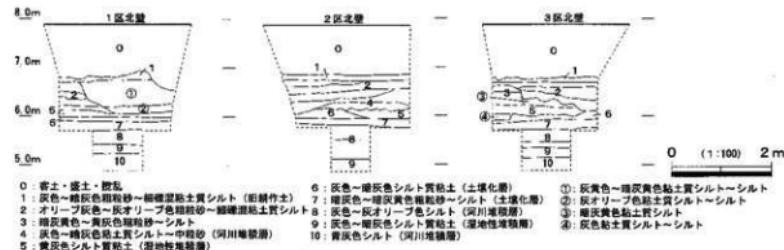
【地層】現地表下1.0~1.4m前後までは、盛土・擾乱(0層)である。以下1.6~2.0mの間において10層の基本層序を確認した。2層は2・3区で確認したグライ化の顕著な搅拌層である。3層は1・3区で確認した酸化の顕著な搅拌層である。島畑作土の可能性が考えられる。4層は2区で確認した河川堆積層である。ラミナ構造が発達し、下面では踏み込みによる変形構造も確認した。6・7層は土壤化層である。6層に比して7層は土壤化の進行が顕著である。9層は湿地性堆積層である。2・3区では、炭化物の混入が目立ち、層相も乱れることから、水田耕作土の可能性も考えられる。

【検出遺構・出土遺物】とともになし。

(2)まとめ:今回の調査では、6・7層が注目される。両層は、周辺の調査成果から概ね古墳時代初頭～前期に比定される土壤化層で、特に7層は層厚10~20cmを測り、安定した生活面を形成したことが推測される。ただし、今回の調査では、遺構は検出されておらず遺物の出土も少なかったことから、本調査地は居住域ではなく、墓域などとして利用されていた可能性を指摘しておきたい。

参考文献

- 西村公助 2005 「7東郷遺跡(2003-464)の調査」『八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書』八尾市文化財報告50 平成16年度国庫補助事業 八尾市教育委員会



第12図 断面図

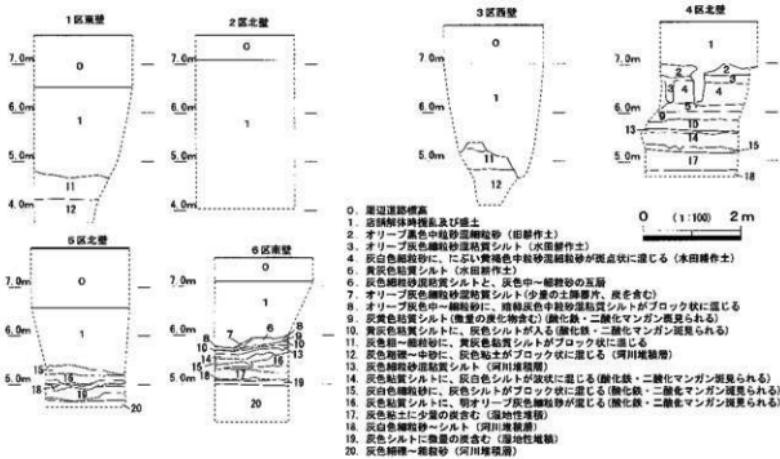
6) 東郷遺跡(2007-517)の調査

(1)調査概要:平面規模約3.0×3.0m、面積約9.0m² 6ヶ所について、現地表(7.6~7.9m前後)下3.2~3.6m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地東部を南北に伸びる道路中央:7.6m)を使用した。

【地層】現地表下0.9~3.6m前後までは、店舗解体時の擾乱及び盛土(0・1層)。以下現地表下1.8m前後までの0.8m間において18層の層序を確認した。6~8層は近世以降の溝状遺構埋土である。9・10層は島畠耕作土・盛土である。13・14層は土壤化の顕著な堆積土である。15・16層は酸化鉄・二酸化マンガン斑が顕著に見られる搅拌層である。

【検出遺構】近世以降・溝状遺構。6区で検出した。北西～南東方向に伸びるとと思われる。

【出土遺物】中世～上部器皿(1・2)とともに1区12層出土である。1は口縁部～体部の細片である。口縁部にやや強めのヨコナデ、底部外面に板ナデを施す。12世紀前半に比定できる。2は口縁部の細片で、口縁端部をつまみ上げる。内外面にナデを施す。12世紀後半に比定できる。



第13図 断面図



第14図 出土遺物実測図

(2)まとめ：今回の調査では、1・2区では河川堆積層(11・12層)が認められ、調査地西半部には流路が存在したものと推測できる。今回の調査では、遺構は希薄であったが、既往の調査成果から、古墳時代初頭～近世に比定できる作土層が連続して堆積していることが明らかとなった。

7) 中田遺跡(2007-290)の調査

(1)調査概要：平面規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4 m^2 2ヶ所について、現地表(12.3m前後)下1.5~2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南西部に位置する市道交差点中央:10.0m)である。なお、1区では調査区の拡張(1.0×1.5m)を行った。したがって、調査面積は 9.5 m^2 である。

【地層】現地表(12.3m)下1.5m前後までは、現代の整地に伴う客土・盛土、及び擾乱(0層)である。以下現地表下2.0m前後までの50cm間において6層の基本層序を確認した。4層は土師器や須恵器細片の混在する土壤化層である。1区では、上面(T.P.+8.6m)で溝1条(SD1)を検出した。

【検出遺構】古墳時代中期～溝1条(SD1)。

1区4層上面で検出した。概ね南東～北西方向に伸びる。規模は、長さ1.5m以上、幅1.5m、深さは30cmである。土師器細片のほか、ほぼ完形の須恵器壺(横臥状態で出土)や、滑石製管玉などが出土した。

【出土遺物】古墳時代中期～上削器把手(1)。1は上方にゆるやかに立ち上がる。中央はややくぼむ。

須恵器杯蓋(2・3・4・9)。2は天井部と口縁部境の稜が明瞭で他よりやや器高が高い。3・9は天井部と口縁部境の稜がわずかに残る程度となる。3は天井部に浅いヘラによる線が2条認められる。

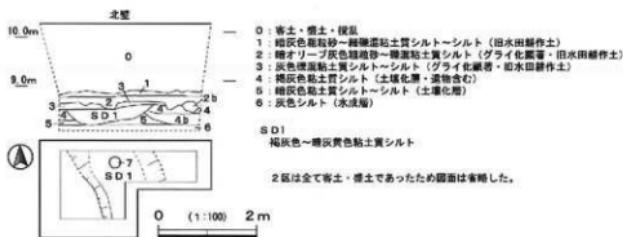
4は天井部と口縁部境の稜が認められない。

須恵器杯身(5)。5はたちあがりが内傾し、受部は水平にのびる。端部は丸く收める。

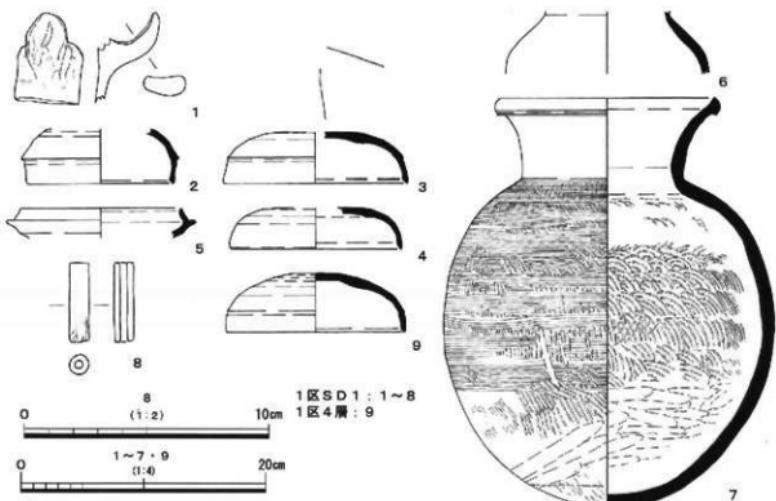
須恵器壺(6・7)。6は壺の肩部である。7は口縁端部が下方に肥厚し、凹線1条を施す。体部は縦位の平行線タタキを施した後、カキメを施す。底部はナデを施す。内面は同心円状タタキを施すが、底部はナデを施す。

管玉(8)。8は長さ3.3cm、直径0.8cmを測る。中央に直径0.4cmの穴が貫通する。

(2)まとめ：1区で検出したSD1は、出土遺物から6世紀前半(中村編年II-1~2)に帰属すると考えられる。出土遺物にはほぼ完形の須恵器壺があるほか、他の遺物も摩滅を受けていないため、大きく移動はしていないと考えられる。また管玉が出土したことから、周辺に当該期の古墳が存在した可能性が高い。



第15図 1区平・断面図



第16図 出土遺物実測図

8) 中田遺跡(2007-419)の調査

(1) 調査概要: 平面規模約 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、面積約 6.25m^2 3ヶ所について、現地表(10.6~10.9m前後)下 2.5m 前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成 1/2500 地図記載の標高値(調査地南西部に位置する市道の交差点中央: 11.0m)である。

【地層】 現地表(10.6~10.9m)下 $60\sim70\text{cm}$ 前後までは、現代の整地に伴う土客・盛土、及び擾乱(0層)である。以下現地表下 2.5m 前後までの1.8~1.9m間ににおいて7層の基本層序を確認した。2・3層には土師器、須恵器、瓦器の細片を含む。2区の4層上面(T.P.+9.8m)で中世頃の遺構(SK101)、5層上面(T.P.+9.6m)で弥生時代後期~古墳時代初頭頃の遺構(SK201)を検出した。

【検出遺構】 中世~土坑1基(SK101)、弥生時代後期~古墳時代初頭~土坑1基(SK201)。また断面観察においても遺構を確認した(SK101~103・201・202)。

SK101は東西幅70cm以上、南北長90cm以上、深さ約30cmを測る。SK201は東西幅1.0m以上、南北長30cm以上の方形または隅丸方形を呈する土坑と考えられる。深さは約30cmを測る。弥生時代後期~古墳時代初頭の遺物が少量出土した。

【出土遺物】 中世~黒色土器碗(1)。1はSK101出土である。断面三角形状の高台をもつ。土師器甕(2)。2は口縁端部が上方に肥厚し、面を成す。外面にタテハケを施す。

瓦器碗(3)。3は断面三角形状の高い高台をもつ。見込みにも密なミガキを施す。

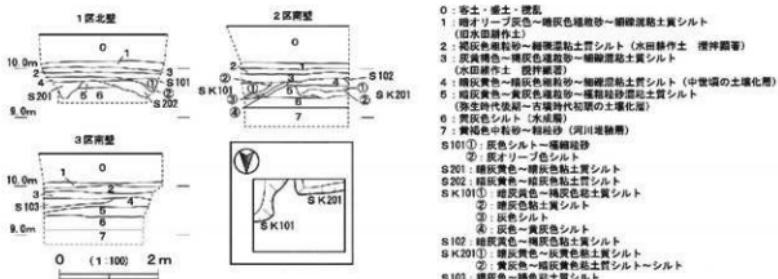
古墳時代初頭~土師器(4・5)。4・5は広口壺の口縁部である。ともに口縁端部を下方に拡張し、面を成す。5は端面に四線文3条を施す。

弥生時代後期~甕(6)。6は平底をもつ。外面に指頭圧痕が認められる。

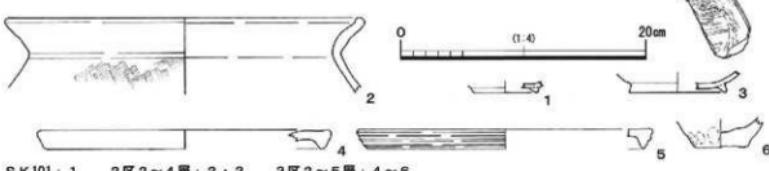
(2) まとめ: 今回の調査地周辺では、第17次・第38次・第45次が行われている。これらの調査では古墳時代や中世の遺構・遺物を確認しており、各時代を通して居住域として機能していたことが明らかになっている。今回の調査でも当該期の遺構の広がりを確認できたことは、大きな成果であった。

参考文献

- ・高藤千秋1994「『中田遺跡第17次調査』」(財)八尾市文化財調査研究会報告43」(財)八尾市文化財調査研究会
- ・樋口 駿2000「『X中田遺跡第38次調査』」(財)八尾市文化財調査研究会66」(財)八尾市文化財調査研究会
- ・樋口 駿2001「『I中田遺跡第45次調査』」(八尾市立埋蔵文化財調査センター報告2 平成12年度)八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会



第17図 平・断面図



第18図 出土遺物実測図

9) 中田遺跡(2007-502)の調査

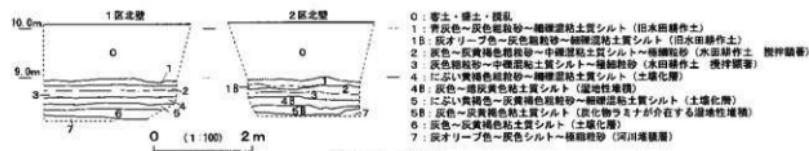
(1) 調査概要：平面規模約 3.0×3.0 m、面積約 $9.0m^2$ 2ヶ所について、現地表(T.P.+10.1m前後)下 $2.0m$ 前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南西部に位置する市道交差点中央:T.P.+10.0m)である。

【地層】 現地表下 $1.1\sim1.2m$ 前後までは、現代の整地に伴う客土・盛土、及び擾乱(0層)である。以下現地表下 $2.0m$ 前後までの $80\sim90cm$ において7層の基本層序を確認した。2・3層は1区では中世頃の遺物を含む。4層は1区では土壤化が進行し、6世紀前半～中頃の遺物を含むが、2区では湿地性の様相を示す。5層も4層と1区と2区で同様の状況を示す。また、1区では6世紀前半頃の遺物を疎らに含む。6層は7層の土壤化部分に相当する。古式土師器を少量含む。

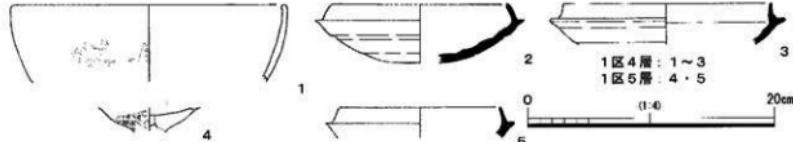
【検出遺構・出土遺物】 検出遺構はなし。古墳時代中期～上部器(1・4)。1は鉢である。口縁部が内湾し、端部は丸く收める。外面にタテハケを施す。4層出土。4は高杯である。杯部と柱状部は挿入付加法により接合される。外面にタテハケを施す。5層出土。

須恵器杯身(2・3・5)。2はたちあがりが内傾する。受部は水平に短く伸びる。口縁部・受部とも鋭く收める。3はたちあがりが上方に短く直立する。端部は丸く收める。受部は若干上外方に短く伸びる。口縁部・受部とも端部は丸く收める。底部外面に回転ハラケズリを施す。2・3は4層出土。中村編年II型式2段階に属する。5は口縁部が内傾しながら直線的に伸びる。受部は水平に短く伸びる。口縁部・受部とも端部は丸く收める。5層出土。中村編年II型式1段階に属する

(2)まとめ：今回の調査地は先述した中田2007-290調査地(3-7)に隣接する。この調査で検出した溝は、今回の調査の4層を構築基盤層とする遺構の可能性が高い。4層は1区では土壤化が進行しているが、2区では湿地性の様相を示す。したがって、土壤化の範囲は本調査地の西方に広がっている可能性が高い。一方、6層からは、古式土師器が出土した。本層は1区でのみ確認していることから、4層と同様に土壤化の範囲は本調査地の西方に広がっている可能性が高い。



第19図 断面図



第20図 出土遺物実測図

II 平成20年度市内遺跡発掘調査報告
(平成20年4月～12月)

1. 平成20年度4~12月発掘調査一覧表

遺跡名 (申請番号)	調査地	調査日	目的・対象 (調査種別)	調査方法(面積)	調査結果	担当者
神部遺跡 (2007-501)	東大字1丁目13番16	4月28日	個人住宅:基礎 (発掘確認調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ2.1mまで調査(調査面積4.0m ²)	河川堆積物を基盤とした上塗化層と中世以前の水面耕作土を確認	橋口
神部遺跡 (2008-223)	大字2丁目34番1	9月10日	分譲住宅:基礎 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積12.0m ²)	古墳時代前段河心層を確認	西村
神部遺跡 (2008-281)	大字3丁目22-6の一部	11月10日	分譲住宅:基礎 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	T.P.+2.2m附近で古墳時代前段の火山層を確認	木村
池島・福万寺遺跡 (2008-58)	福万寺町南4丁目46-13	5月23日	分譲住宅:基礎 (造営確認調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積6.25m ²)	T.P.-6.7~5.9mで田畠水耕作下、以下は河川堆積層・盆地性堆積物を確認	橋口
越後遺跡 (2007-143)	堀松町1丁目8番の一部	7月4日	個人住宅:基礎 (開発確認調査) (発掘確認調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ1.1~2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	河川堆積層を確認	木村
越後遺跡 (2008-278)	柳松町6丁目39番2、40番2、49番3	10月3日	共同住宅:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積9.0m ²)	T.P.+8.9mで近世初期の墓場を検出、以下は河川堆積層を確認	木井
太田遺跡 (2008-29)	太田新町3丁目188-2、189、190、195-2、196	6月17日	店舗:基礎・浄化槽 (造営確認調査)	1.6m×3.0mの調査区1ヶ所、4.5m×2.0mの調査区1ヶ所、3.0m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ3.8mまで調査(調査面積27.0m ²)	T.P.+9.5mと9.0m付近で、緑色帯を確認	橋口
太田遺跡 (2007-500)	太田3丁目194-6、197-198-1の一部、196-2	7月16日 7月17日	特別養護老人 ホーム:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ2.6mまで調査(調査面積9.0m ²)	中世以降の陶罐を1枚(横川)	西村
太田川遺跡 (2008-50)	西高安町2丁目1番1,2,3,5、10番1,3の一部	1月28日	倉庫:浄化槽 (造営確認調査)	2.0m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ2.8mまで調査(調査面積5.0m ²)	遺構・遺物はなし	木村
無智遺跡 (2007-528)	吾妻町1丁目35番	4月21日	共同住宅:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区2ヶ所を深さ3.0mまで調査(調査面積9.0m ²)	河川堆積層を確認	木村
恩智遺跡 (2006-37)	吾妻町2丁目13番	5月14日	共同住宅:基礎 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所(基礎)、3.0m×3.0mの調査区1ヶ所(浄化槽)を深さ1.6~2.0mまで調査(調査面積21.0m ²)	T.P.+26.6~26.8mで水田耕作上、下位には扇状地堆積物を確認	橋口
恩智遺跡 (2006-233)	吾妻町4丁目116番地	11月26日	個人住宅:ボックス カルバート・浄化槽 (造営確認)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所、1.0m×2.8mの調査区1ヶ所を深さ2.5mまで調査(調査面積6.0m ²)	調査坑が谷地形に位置することを確認	木村
鬼井遺跡 (2008-368)	鬼井町1丁目1,16番-1~35、17の一部、54-1,26-1,36	12月19日	共同住宅:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区2ヶ所深さ2.0mまで調査(調査面積18.0m ²)	近世廻設段と考えられる河川堆積を確認	木村
鬼井遺跡 (2008-378)	鬼井3丁目50番、51番、76番、77番	12月19日	分譲住宅:人孔部分 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ1.8mまで調査(調査面積12.0m ²)	中世以降の耕作跡、北坑を確認	木村
鬼井遺跡 (2008-40)	鬼井町2丁目9番6の一部、90番-90番8の一部	6月1日	分譲住宅:人孔 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区4ヶ所を深さ1.5mまで調査(調査面積16.0m ²)	詳細は3-1)に記載	坪田
鬼井遺跡 (2008-66)	鬼井町3丁目51-95、1-2、-3、97の各一部	6月30日	分譲住宅:基礎 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積12.0m ²)	調査地は各時代を経て、生垣城として利用されていた可能性が高い	坪田
鬼井遺跡 (2006-323)	鬼井町2丁目21-1の一部	11月6日	個人住宅:基礎 (発掘調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積6.25m ²)	詳細は3-2)に記載	坪田
木の本遺跡 (2006-35)	木の本6丁目13番61	1月30日	個人住宅:基礎 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ2.3mまで調査(調査面積4.0m ²)	遺構・遺物はなし	木井
久宝寺遺跡 (2007-529)	南久宝寺1丁目33番地	4月10日	工場:基礎 (造営確認調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ1.5~2.0mまで調査(調査面積18.75m ²)	河川堆積層を確認	西村
久宝寺遺跡 (2008-40)	北鬼井町3丁目204-1	4月16日 4月18日	工場:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区4ヶ所を深さ3.0mまで調査(調査面積72.0m ²)	詳細は3-3)に記載	橋口
久宝寺遺跡 (2007-367)	北久宝寺3丁目68番-69番	4月23日	分譲住宅:人孔 (造営確認調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	奈良~平安時代の土壌化層と、それ以後の水田耕作土を確認	木井
久宝寺遺跡 (2008-91)	北鬼井町3丁目205-1	6月4日	工場:基礎 (造営確認調査)	3.0m×3.0mの調査区4ヶ所を深さ2.5mまで調査(調査面積36.0m ²)	T.P.-6.2m付近で植物遺体を多量に含む埋立地堆積層を確認	木村

調査名 (申請番号)	調査地	調査日	目的・対象 (調査種別)	調査方法(面積)	調査結果	担当者
久宝寺遺跡 (2008-124)	久宝寺6丁目22	6月25日	共同住宅; 基礎・土木技術(発掘調査)	2.0m×3.0mの調査区3ヶ所(基礎)を 深さ3.6mまで、2.0m×3.0mの調査区1ヶ所(水戸町技術)を深さ2.0mまで 調査(調査面積22.0m ²)	T.P.+0.7~7.2m以下で 瓦片と土成層が埋蔵	木村
久宝寺遺跡 (2007-509)	久宝寺2丁目49番2	7月3日	分譲住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積6.0m ²)	T.P.+5.7m以下で古墳時代以前に 比較される水戸技術を確認	岡口
久宝寺遺跡 (2008-246)	東久宝寺1丁目34番1	10月7日 10月8日	工場・倉庫区分 トラッククレーン (発掘調査)	2.5m×2.5mの調査区4ヶ所を深さ 3.5mまで調査(調査面積25.0m ²)	T.P.+7.1~7.5mで中世~近世の 耕作土、その以下に河川堆積層を確認	坪田
久宝寺遺跡 (2008-246)	北久宝寺1丁目50の一部	10月16日	個人住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積2.5m ²)	T.P.+5.8m以下で古墳時代以前に 比較する可能性の可能性を確認	米井
久宝寺遺跡 (2008-277)	北久宝寺3丁目39-1番の一部 44番の一部	11月5日	共同住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積6.0m ²)	中世以降の耕作土を複数、T.P.+5.5m 以下は水戸技術を認める	木村
久宝寺遺跡 (2008-317)	北島井町1丁目6番2	11月6日	工場・基礎 (発掘調査)	4.0m×4.0mの調査区2ヶ所を深さ 4.0mまで調査(調査面積16.0m ²)	T.P.+7.7~7.8mで古墳時代以前に 比較できる耕作土を確認、T.P.+7.2m 以下は鉄道性堆積層を確認	坪田
久宝寺内町 (2008-87)	久宝寺6丁目68番-69番の 一部	6月16日	共同住宅;基礎 (発掘調査)	2.5m×3.0mの調査区2ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積6.0m ²)	詳細は3-4)に記載	木村
久宝寺内町 (2008-137)	久宝寺3丁目18番	8月7日 8月9日	個人住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 1.6mまで調査(調査面積4.0m ²)	詳細は3-5)に記載	坪田
葛川遺跡 (2008-52)	敷地:今2丁目18,25,26,27	6月19日	分譲住宅;人孔・基礎 (発掘調査)	2.5m×2.5mの調査区2ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積6.25m ²)	T.P.-11.9~12.4mで鉄水戸技術を 確認	木村
葛川遺跡 (2008-72)	萩美町2丁目30番	6月11日	個人住宅;浄化槽 (発掘調査)	2.0m×1.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積2.0m ²)	T.P.-11.9~12.4mで鉄水戸技術を 確認	木村
葛川遺跡 (2008-113)	敷地:今1丁目39の一部	7月14日	個人住宅;浄化槽 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	泊水戸技術(T.P.+14.1~14.2m) 以下は、漁網と水戸技術が重複	坪田
葛川遺跡 (2008-249)	馬込3丁目94,95,96, 97-3,101,102-1,103-1, -3,127-1,-3	9月17日	分譲住宅;人孔 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積6.0m ²)	本調査地は小規模な谷地形に位置する ことを利用して	木村
葛川遺跡 (2008-255)	馬込1丁目168番の一部	9月18日	個人住宅;浄化槽 (発掘調査)	1.0m×2.7mの調査区1ヶ所を深さ 1.0mまで調査(調査面積2.7m ²)	T.P.+24.8~25.7mにおいて土壌化層 を確認	岡口
小阪合遺跡 (2008-31)	寄山町4丁目30番,39番,37番	4月25日	店舗・軒垂柱 (発掘地盤調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 1.3mまで調査(調査面積4.0m ²)	漁網・漁物なし	坪田
小阪合遺跡 (2008-117)	寄山町4丁目109番~113番	7月2日	店舗・基礎 (発掘地盤調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積6.25m ²)	詳細は3-6)に記載	坪田
小阪合遺跡 (2008-212)	志忠町5丁目1-2番,3番の 一部	10月3日	共同住宅;基礎 (発掘地盤調査)	2.0m×3.0mの調査区2ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積6.0m ²)	T.P.+6.9mで磚状を検出	木村
小阪合遺跡 (2008-302)	吉山町4丁目207番	11月26日	分譲住宅;基礎 (発掘地盤調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	T.P.+17.3mで磚状の落込みを確認	木村
高麗寺寺跡 (2008-14)	高351-12丁目5番	7月30日 7月31日	分譲住宅;人孔 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 2.2mまで調査(調査面積4.0m ²)	詳細は3-7)に記載	岡口
高麗寺寺跡 (2008-219)	高351-12丁目5番12	8月27日	個人住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×4.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	T.P.+8.5~8.6mで古代の土壌化層を、 T.P.+8.6m付近で漁網地盤を確認	坪田
高麗寺寺跡 (2008-217)	春日町1丁目11番1の一部	9月1日~ 9月8日	店舗・基礎 (発掘地盤調査)	3.0m×3.0mの調査区2ヶ所を深さ1.0m~9.0mの 調査区2ヶ所を深さ0.5~4.0mまで 調査(調査面積12.0m ²)	詳細は3-6)に記載	坪田
高法寺遺跡 (2008-14)	高尖町1丁目47番10,47番16の 一部	6月23日	専用住宅;基礎 (発掘調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積4.0m ²)	奈良時代とそれ以前の土壌化層を確認	坪田
成塙中遺跡 (2008-200)	高美町1丁目50-21	8月20日	分譲住宅;基礎 (発掘地盤調査)	1.8m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.1mまで調査(調査面積9.0m ²)	T.P.+7.0~7.7mにおいて、古墳時代~ 中世の漁網包層を検出	木村

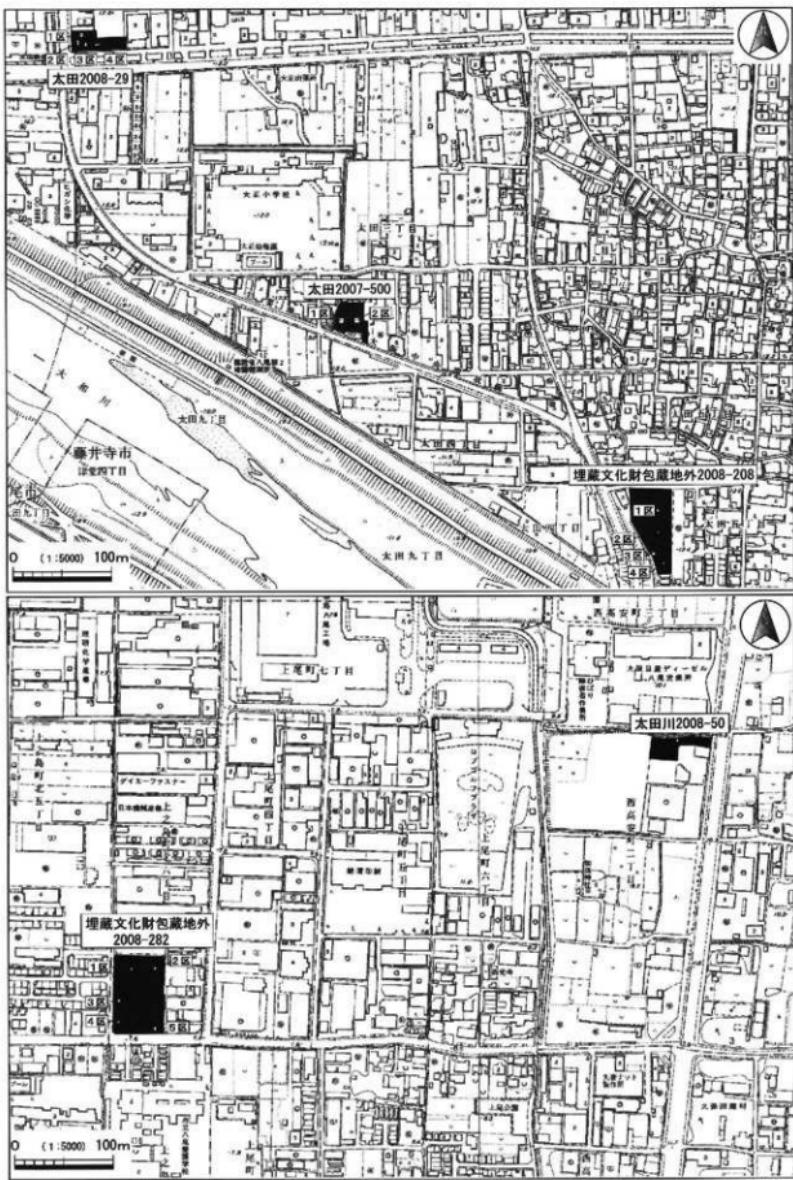
調査名 (申請番号)	調査地	調査日	目的・対象 (調査種別)	調査方法(面積)	調査結果	担当者
成仏道跡 (2008-256)	向水町1丁目2番4,5,6,7の 内、8番、11番、12番の22戸 +里1,3,4	4月20日 (追跡調査)	分譲住宅:人気・ 基盤(追跡調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 1.5mまで調査(調査面積8.00m ²)	詳細は3-9)に記載	坪口
成仏寺遺跡 (2006-287)	北山町二丁目26番の一部、 21番1	11月27日	個人住宅:基礎 (追跡調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積6.25m ²)	T.P.-10.6m以下で日光側面の可視性 がある方に既存住戸を確認	内村
神宮寺遺跡 (2007-510)	神宮寺4丁目7番1の一部	4月11日	分譲住宅:基礎 (追跡調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積6.25m ²)	古世以降の整堤層と、土に何川 堆積層を確認	米井
太子堂遺跡 (2008-44)	南太子堂1丁目40-1a, 40-6	5月22日	分譲住宅:基礎 (追跡調査)	2.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積6.0m ²)	中世初期の生垣地として利用されて いたことを確認。T.P.-8.7m以下で 水底層を確認	坪口
大正橋遺跡 (2008-6)	太田8丁目79番1の一部	4月14日	個人住宅:基礎 (実測調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.0m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積11.25m ²)	調査・追跡はなし。	木村
大正橋遺跡 (2008-18)	太田8丁目40番の一部	4月28日	個人住宅:基礎 (実測調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	基礎・遺物はなし	内村
日野中遺跡 (2008-43)	川中1丁目218番～221番 まで	5月13日	個人住宅:基礎 (実測調査)	2.0m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積5.0m ²)	T.P.-9.3mまで生垣地として利用され ていたことを確認。以下は水底層を 確認	木村
日野中遺跡 (2008-105)	川中1丁目236番1-233番5	6月30日	分譲住宅:人気 (追跡調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 1.7mまで調査(調査面積12.0m ²)	旧水田耕地上を含む2箇の上埴層、 T.P.-9.3m以下は何川堆積層を確認	木村
高安古墳群 (2008-255)	高安6丁目282番1	9月22日	分譲住宅:化粧槽 (追跡調査)	2.5m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	今回の調査が各別に位置すること を確認	木村
高安古墳群 (2008-281)	神中5丁目19番1	10月10日	個人住宅:化粧槽 (実測調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	堆山を削り出して造成された洋式の 耕作土を確認	坪口
東郷遺跡 (2008-296)	光明1丁目55	11月20日 (実測調査)	分譲住宅:基礎 (追跡調査)	3.0m×3.0mの調査区3ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積9.0m ²)	詳細は3-10)に記載	坪田
東郷遺跡 (2008-344)	光明2丁目32	11月26日	分譲住宅:基礎 (追跡調査)	3.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積9.0m ²)	詳細は3-11)に記載	坪田
黒瀬遺寺 (2008-98)	板ヶ丘2丁目6番	6月6日	個人住宅:基礎 (実測調査)	3.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 4.0mまで調査区1ヶ所、3.0m×3.0mの 調査区1ヶ所を深さ1.5mまで調査 (調査面積9.0m ²)	詳細は3-12)に記載	坪口
中田遺跡 (2007-514)	羽庭4丁目130	4月13日	分譲住宅:基礎 (実測調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.1mまで調査(調査面積4.0m ²)	何川堆積物を基礎とする木田耕作十を 確認	木村
中田遺跡 (2008-278)	中田4丁目127番2, 128番1, 128番4	12月8日	分譲住宅:人気・部分 (実測強度質)	2.5m×2.5mの調査区2ヶ所×2.0m×1.0m の調査区1ヶ所、5.5×3.0mの調査区 1ヶ所、3.8×1.0mの調査区1ヶ所を 深さ2.0mまで調査(調査面積8.05m ²)	詳細は3-13)に記載	木村
西暮遺跡 (2008-289)	村の2丁目72の一部	10月15日	個人住宅:基礎 (実測調査)	2.5m×2.5mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積6.25m ²)	詳細は3-14)に記載	西村
水越遺跡 (2008-265)	山加川1番1の一部	4月16日	分譲住宅:化粧槽 (追跡調査)	3.0m×1.6mの調査区1ヶ所を深さ 1.8mまで調査(調査面積4.8m ²)	時期不詳の礫を1糸斜川	米井
水越遺跡 (2008-144)	木野5丁目18番の一部-19番	7月17日	個人住宅:化粧槽 (実測調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	調査地北側を西流する小沢川の脇に 何川(N.R.1)を挿出	坪口
美園遺跡 (2008-86)	美園町4丁目4番3	6月30日	分譲住宅:人気・苦鉢 (追跡調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0~2.5mまで調査(調査面積12.0m ²)	T.P.15.2~5.5mで古墳時代、T.P.5.5 ~8.7mで平安時代以前に相当する 地層を確認	西村
美園遺跡 (2008-71)	美園町4丁目7番2の一部	7月3日	分譲住宅:人気 (追跡調査)	2.0m×2.0mの調査区2ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積8.0m ²)	寄り・廻り層とトド、崩れと崩壊される 落込みを確認	木村
美園遺跡 (2008-227)	美園町3丁目70-1の一部	9月9日	個人住宅:基礎 (実測調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	中世以前に形成された地層を確認	木村
宮町遺跡 (2008-148)	宮町1丁目67-3	7月4日	分譲住宅:基礎 (追跡調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 1.8mまで調査(調査面積4.0m ²)	T.P.+6.4m以上は何川堆積層を確認	米井

遺跡名 (申請番号)	調査地	調査日	目的:対象 (調査種別)	調査方法(面積)	調査結果	担当者
八尾寺内蔵 (2008-152)	本町2丁目23番2	8月12日	個人住宅:从縁 (周辺調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 1.6mまで調査(調査面積4.0m ²)	詳細は3-5)に記載	木村
矢作遺跡 (2008-38)	美濃町4丁目23番2	6月7日	分譲住宅:人孔・管路 (委託測量・測定)	2.0m×2.0mの調査区5ヶ所を深さ 2.5~2.9mまで調査(調査面積20.0m ²)	古代の土塙化層とそれ以降の水田 焼け土を確認	橋口
矢作遺跡 (2008-176)	高岡町3丁目34番4	8月26日	個人住宅:从縁 (周辺調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	T.P.-8.4m以降、IR水田耕作上と 山側以降の水田耕作土を確認	木村
矢作遺跡 (2009-251)	高岡町4丁目123-6	9月12日	分譲住宅:基礎 (床構造・解剖)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	古時代を通して生産として利用 されていたことが判明	橋口
矢作遺跡 (2009-241)	本町7丁目17番6の一部	9月16日	個人住宅:基礎 (周辺調査)	2.0m×2.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積4.0m ²)	古時代を通して生産として利用 されていたことが判明	橋口
山賀遺跡 (2009-290)	新原町7丁目10番1-新原町 八丁目47番2、47番の一部、 48番1、19番、30番、31番6、 33番16、33番17、33番20	12月1日	工場:出水貯留 貯水槽 (造営跡・周辺調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所を深さ 2.0mまで調査(調査面積12.0m ²)	堆積・遺物なし	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2007-524)	福万寺町1丁目58番3号4蔵	7月25日	分譲住宅:古水槽 (周辺調査)	3.0m×3.0mの調査区1ヶ所を深さ 2.9mまで調査(調査面積9.0m ²)	操作T.(T.P.+4.8~7.0m)以下は、 油槽と水槽層が堆積	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-381)	新原町7丁目12番の一部、 12番+13番、13番の一部、 13番+14番	12月2日 12月3日	農業構造:基礎 (試掘調査)	2.5m×2.5mの調査区5ヶ所を深さ 2.0mまで、3.5m×3.5mの調査区 1ヶ所を深さ3.2mまで調査 (調査面積13.5m ²)	詳細は3-16)に記載	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-205)	大田町5丁目119番+120番、 2-201番	9月1日	分譲住宅:人孔・ 防災水槽 (試掘調査)	2.0m×2.0mの調査区3ヶ所(人孔)、 3.0m×3.0mの調査区1ヶ所(防災水槽) を深さ1.8~3.0mまで調査 (調査面積12.0m ²)	T.P.-10.8~11.0mで古墳時代後期 以降の黑色火土層を確認	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-326)	高岡町3丁目14番9-15番、 16番	11月17日	分譲住宅:人孔部分 (試掘調査)	2.5m×2.5mの調査区3ヶ所を深さ 2.5mまで調査(調査面積18.75m ²)	T.P.-10.7m以下で河川堆積を確認	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-185)	高岡町4丁目2番2,1,98番、 88番2,92番,93番,94番2・ 207丁目137番、31番3,5,1, 29番,40番,41番,42番	6月17日	工場:蓄電 (試掘調査)	3.0m×3.0mの調査区5ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積18.0m ²)	詳細は3-17)に記載	木村
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-237)	老原町9丁目12,72,72-1,-2, T3,107-2,111,112	9月8日~ 9月10日	下塙-企楽:基礎 (試掘調査)	4.0m×4.0mの調査区1ヶ所を深さ 3.0mまで調査(調査面積16.0m ²)	詳細は3-18)に記載	橋口
埋蔵文化財 包蔵地外 (2008-282)	上之助町北6丁目19番3,5, 39番の一部、3,24番1	10月30日	倉庫-水槽:从縁- 周囲的区分 (試掘調査)	3.0m×3.0mの調査区4ヶ所、2.5m ×2.5mの調査区4ヶ所を深さ2.5mまで 調査(調査面積34.0m ²)	中世~近世頃と考えられる耕作土層、 及び弘法の門川を確認	坪田

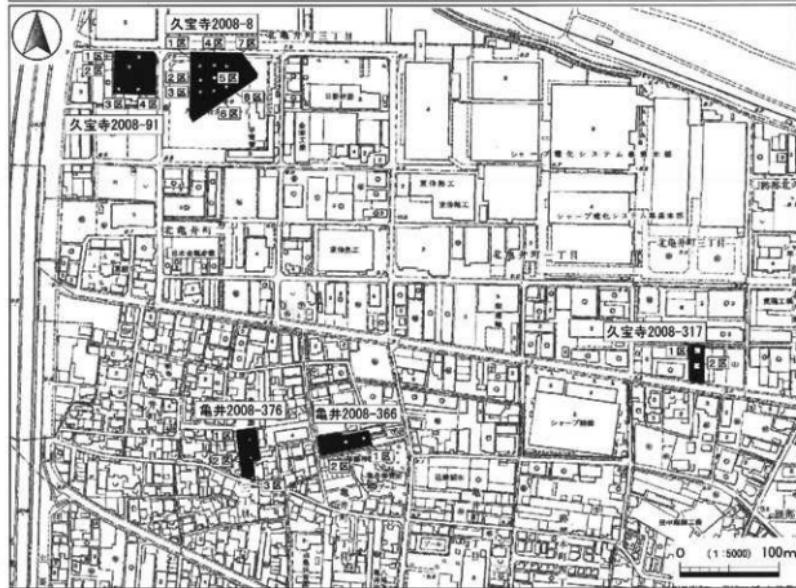
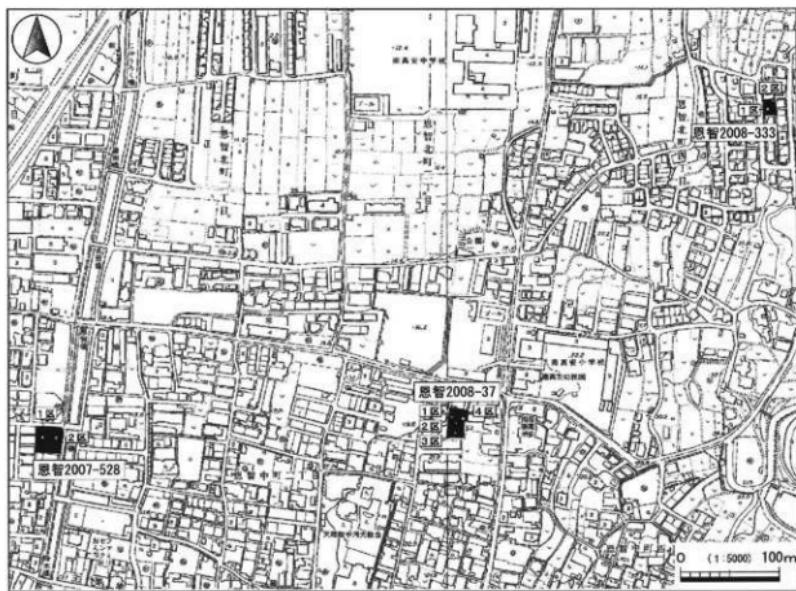
2. 平成20年度 4~12月発掘調査位置図



第21図



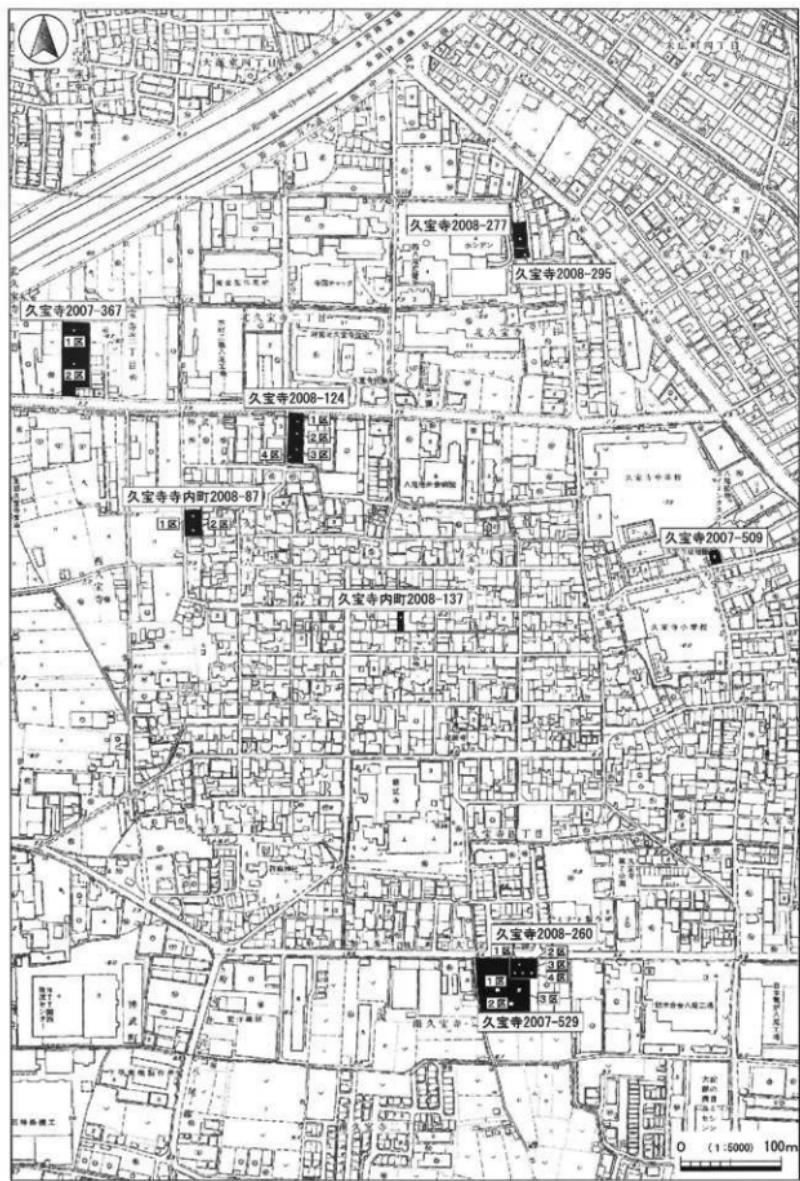
第22図



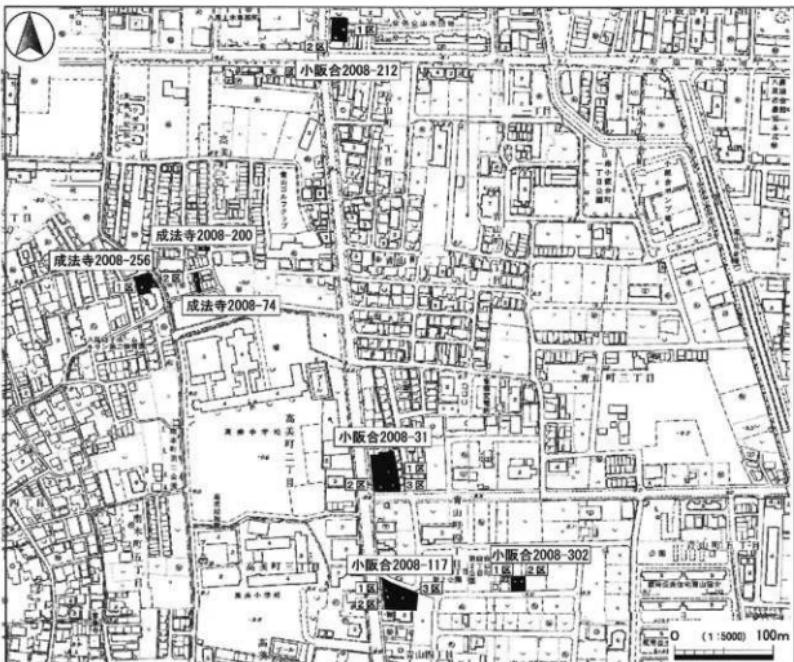
第23図



第24図



第25図



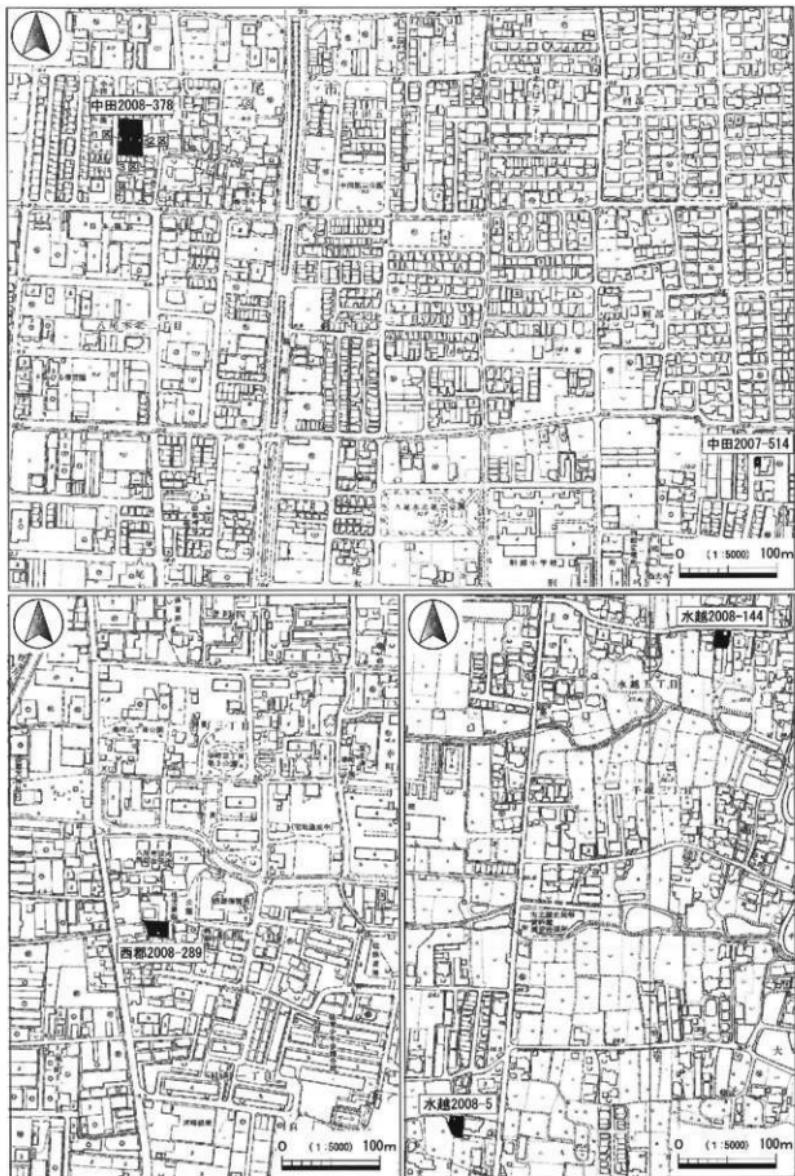
第26図



第27図



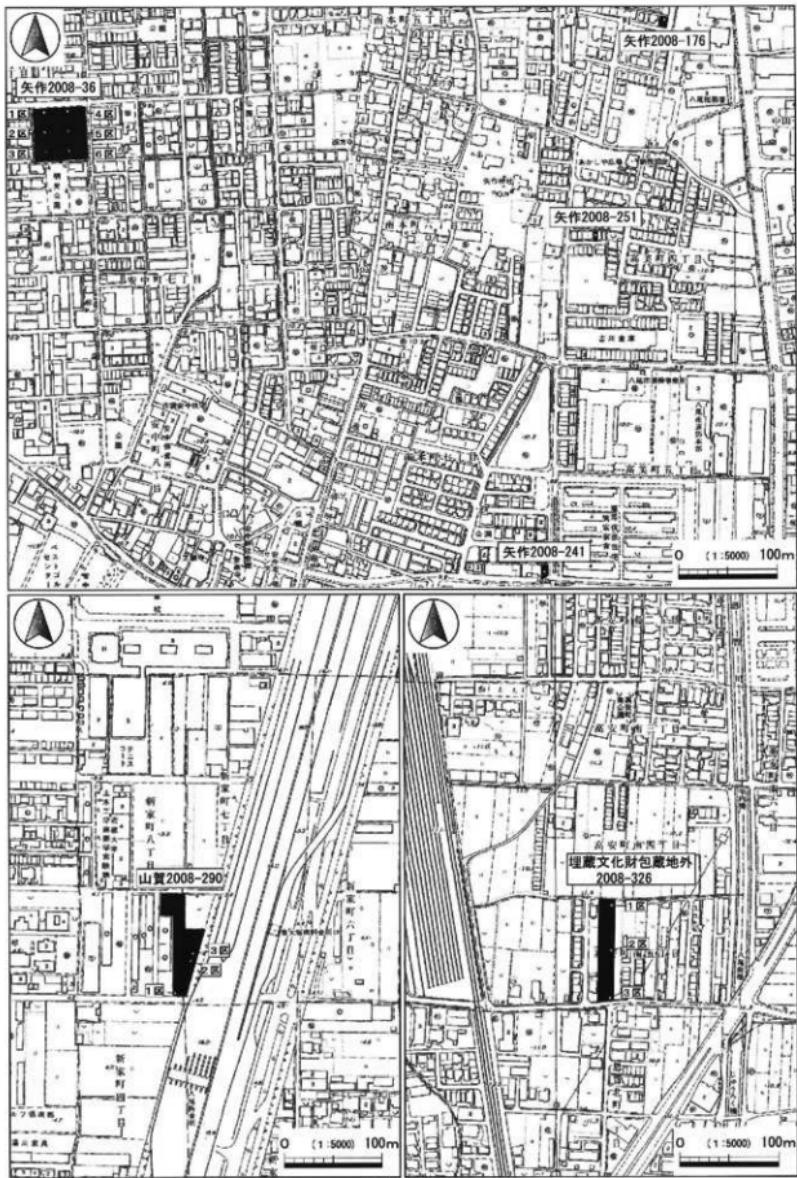
第28図



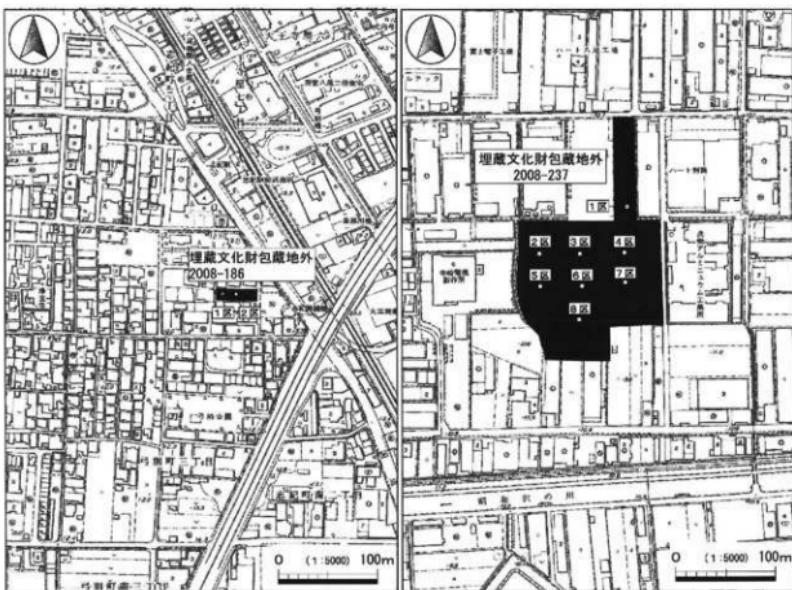
第29図



第30図



第31図



第32図

3. 市内遺跡発掘調査報告

1) 萱振遺跡(2008-40)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4.0m^2 4ヶ所について、現地表(T.P.+7.1m前後)下 1.5m 前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成 1/2500 地図記載の標高値(調査地南東部に位置する交差点中央:T.P.+7.0m)である。

【地層】現地表下 $0.8\sim 1.0\text{m}$ は、盛土・擾乱(0層)である。以下 0.7m の間において4層の基本層序を確認した。2層は搅拌の著しい耕作土で、2-1~3層に細分できる。3層は固く締まっており整地層と考えられる層で4区でのみ確認できた。2・3層には土師器細片を含む。3層から近世磁器が出土しており、2層は近世以降の耕作土である。4層(T.P.+5.7~5.9m)以下は河川堆積層である。

【検出遺構】中世一落込み1基(SO1)。

SO1は4区4層上面(T.P.+5.8m)で検出した。南側に落ち込んでいる。深さ30cmを測り、埋土はブロック状の2層から成る。遺物は中世頃までの土師器・瓦器を含む。

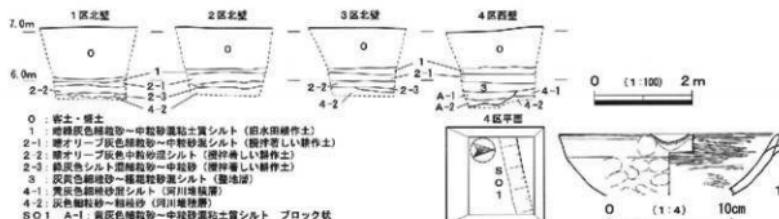
【出土遺物】中世一瓦器鉢(1)。

1はSO1出土の片口を有する瓦器鉢である。内面に密なミガキを施す。

(2)まとめ：今回の調査では、近世以降の水田耕作土と、中世頃の落込みを検出した。南東約150mに位置する第2次調査では鎌倉時代の生産関連遺構を検出しており、今回検出した落込みも同時期のものと思われる。第2次調査で検出した古墳時代前期の居住域に関する遺構は今回検出されなかった。

参考文献

・西村公助1990『萱振遺跡第2次調査』『萱振遺跡発掘調査概要報告』(財)八尾市文化財研究会報告20 (財)八尾市文化財調査研究会



第33図 平面・断面図

第34図 出土遺物実測図

2) 萱振遺跡(2008-323)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、面積約 6.25m^2 1ヶ所について、現地表(T.P.+6.2m前後)下 2.0m 前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成 1/2500 地図記載の標高値(調査地北西部に位置する市道中央:T.P.+6.0m)である。

【地層】現地表下 $0.3\sim 0.4\text{m}$ は、盛土・擾乱(0層)である。以下 1.7m の間において8層の基本層序を確認した。1層はブロック状で、整地層ないし耕作土であろう。上面(T.P.+5.8m)で第1面を検出した。2・3層は水田201の耕作土(T.P.+5.1~5.5m)、4・5層も搅拌された耕作土で、5層(T.P.+5.0~5.2m)が水田301の耕作土である。E1層は杭等の影響であろう。6層(T.P.+4.8~5.0m)はやや搅拌

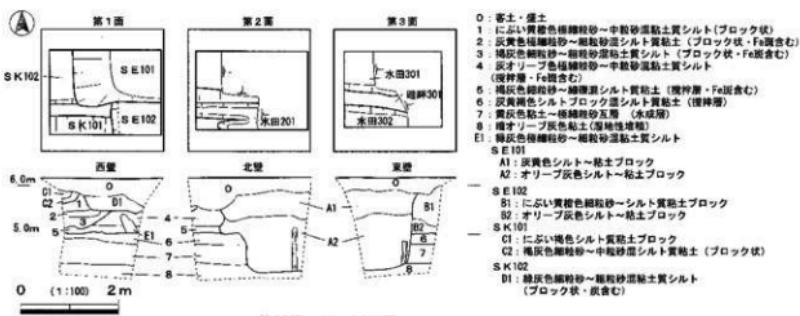
されている7層の土壌化部分で、耕作土の可能性がある。7・8層(T.P.+4.8m以下)は水成層である。

【検出遺構】近世一井戸2基(S E101・102)、土坑2基(S K101・102)、水田1箇(水田201)。中世一水田2箇(水田301・302)、畦畔1条(畦畔301)。

S E101・102、S K101・102は第1面で検出した。S E101は一边1.8m以上の方形の掘方をもち、断面逆台形を呈し、深さ約1.7mを測る。井戸枠は角の杭のみ遺存していた。S K102を切る。S E102は深さ約1.0mを測る。S K101は掘方北辺の一部を検出したもので、深さ30cm以上で南側に落ち込む。東側はS E102に切られる。S K102は南辺の一部を検出した。深さ約32cmを測る。東側はS E101に切られる。いずれの遺構からも18世紀以降の陶磁器・土師器・瓦片が出土している。

水田201は第2面で検出した。東西方向に展開し、耕作土下面で東西方向の耕作溝を検出した。耕作土(3層)から17世紀頃の陶磁器・土師器・瓦片が出土している。

水田301・302、畦畔301は第3面で検出した。畦畔301は東西方向に伸び、幅約30cm・高さ約5cmを測る。耕作土(5層)から土師器片が出土している。



第35図 平・断面図

【出土遺物】近世-陶磁器・土師器。

S E101(1~5) 1・2は堺焼擂鉢である。ともに描目は1条につき幅2.5cm・8本である。1は片口部分が残存し、片口部内面に扇形の中に「上」の字が入るスタンプを施す。3は信楽焼窯、4は土師器焼窯である。5は大谷焼窯である。全面に鉄釉を施す。口縁端部は内外面に拡張し、上部が面をなす。体部に黒色釉を斑点状に掛ける。

S E102(6) 6は唐津焼鉢である。内面見込みに砂目が2ヶ所認められる。上部に圓線2条と花形の文様を施す。外面は高台端部を除いて黒色釉を掛ける。

S E103(7) 7は青磁染付碗である。内面見込みには二十圓線内に菊文、高台内面に渦福を描く。

S K102(8) 8は土師器皿である。ほぼ丸底を呈する。口縁端部に5ヶ所煤が付着しており、灯明皿として使用されたのであろう。

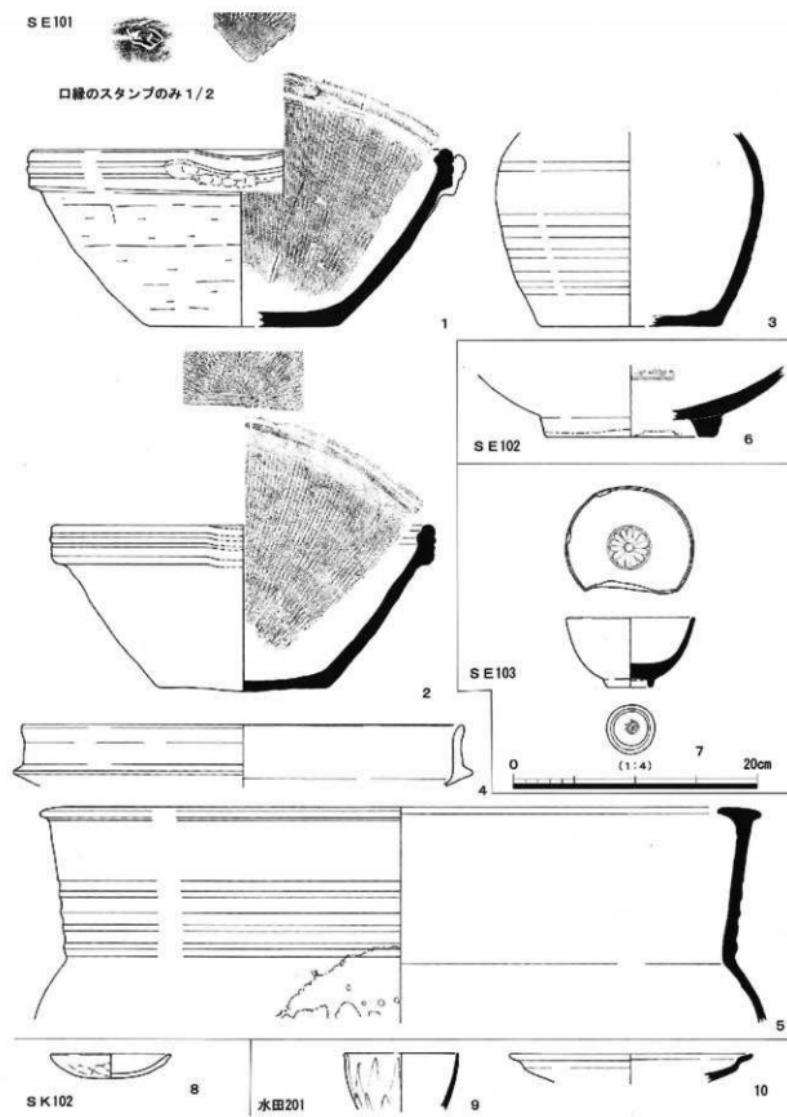
水田201(9・10) 9は染付碗である。外面に一重網目文を描く。10は皿である。口縁端部が外方へ屈曲して広がる。内面に文様の一部と思われる吹墨が施されている。

(2)まとめ: 今回の調査では第1・2面で近世の遺構面を確認した。第1面は18世紀以降に比定されるが、井戸等が居住域と生産域のいずれに伴うものかは不明である。第2面は17世紀頃の生産域である。

調査地は戦国時代末期に恵光寺を中心に成立したとされる萱振坂塗集落および、萱振坂推定地に位置する。第3面が当該期の遺構面の可能性があるが、生産域であり、関連する遺構は検出されなかつた。

参考文献

- ・西村公助1990『萱振坂跡第2次調査』『立根灘跡発掘調査報告書』(財)八尾市文化財調査研究会報告20 (4月)八尾市文化財調査研究会



第36図 出土遺物実測図

3)久宝寺遺跡(2008-8)の調査

(1)調査概要：平面規模約 $3.0 \times 3.0\text{m}$ 、面積約 9.0m^2 の8ヶ所について、現地表(T.P.+8.3~8.7m前後)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は第61次調査で使用した3級基準点No.1ポイント(調査地の南東に位置する市道中央:T.P.+8.308m)である。

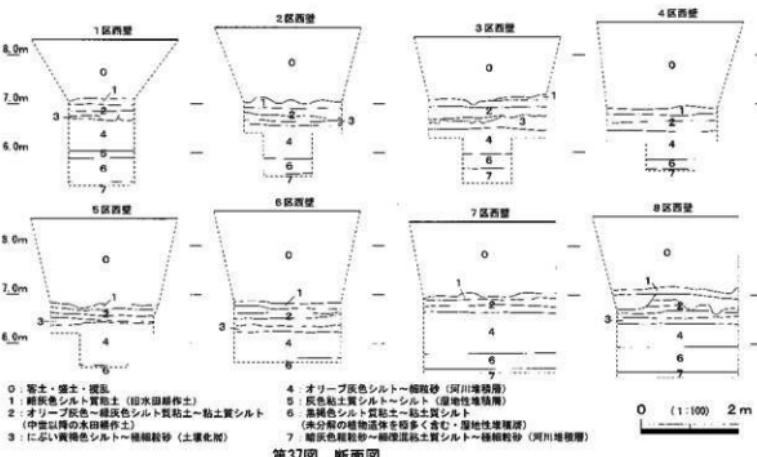
【地層】現地表下1.2~1.8m前後までは、盛土・擾乱(0層)である。以下1.2~1.8mの間において7層の基本層序を確認した。3層は4層の土壤化部分で、鉄分の沈着が顕著である。4層はラミナ構造の発達した河川堆積層である。6層は植物遺体を多く含み黒褐色を呈する湿地性堆積である。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構・出土遺物ともになし。

(2)まとめ：今回の調査地の周囲を調査しており(第25次調査)、弥生時代後期以降の遺構・遺物を確認している。特に北西方向に位置する7調査区では占墳時代初頭後半~前期前半の居住城に伴う遺構を検出している。今回の調査は、掘削深度が当該期の地層まで達しなかった調査区も多く、不明瞭な点は残るが遺物の出土が皆無であったことから、調査地一帯が当該期に居住城として利用されていた可能性は低く、低湿な地形に位置したことが予測される。

参考文献

- 坪田真一他2006「久宝寺遺跡第25次調査」(久宝寺遺跡)(財)八尾市文化財調査研究会報告88(財)八尾市文化財調査研究会



第37図 断面図

4)久宝寺寺内町(2008-87)の調査

(1)調査概要：平面規模約 $2.5 \times 3.0\text{m}$ 、面積約 7.5m^2 の2ヶ所について、現地表(T.P.+7.9m前後)下2.3m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地西部を南北に伸びる市道中央:T.P.+7.9m)である。

【地層】現地表下0.3~0.4m前後までは、客土・盛土(0層)である。以下1.7~2.0mの間において14層の基本層序を確認した。1~3層は近世以降の土壤化層(T.P.+6.7~7.5m)である。近世以降の陶磁

器・瓦片が多く含む。4～13層(T.P.+6.2～7.0m)は水成堆積層である。4層と4'層はよく似るが、4層はFe斑、4'層はMn斑を多く含む。8層は植物遺体を多く含む。

【検出遺構】近世一溝状遺構(1条)。南北方向の溝状遺構(T.P.+6.5m前後)を検出した。平面的に確認したのは1区のみだが、断面で2区でも延長部分の存在を確認した。



第38回 平面・断面・復元図

【出土遺物】近世一磁器(1～12)・瓦質土器(13)・陶器(14)・棲瓦(15)・漆膜、古墳時代中期一土師器(16)、弥生時代後期一弥生土器(17・18)。

漆膜は溝状遺構の1区5層下面東側で出土した赤色の漆膜である。機械掘削中に拂土から検出したため、詳しい出土状況は不明である。漆器の一部と思われるが、木質は遺存しておらず、表面の漆のみが遺存した状態であり、詳細は不明である。

磁器(1～12)。いずれも肥前系磁器である。1・3・6～10は碗、4は筒形碗、2・11・12は皿、5は鉢である。残存状況が良好でないものが多いが、文様の詳細は不明であるが内外面とも無文のものは8・9のみで、他は草花など何らかの文様を描く。2は幅広の蛇の目形高台をもつ。3は高台内に溝幅を書く。5は外縁に青磁釉を施す。口縁内面と内面見込みに文様を描く。見込みは帆掛船を描いている。高台は蛇の目形高台で、高台内に二重方形枠を伴う溝幅を書く。10は広東碗である。外面に黒味を帯びた染付けで菖蒲を描く。11は口縁部が屈曲しており、多角形を呈するようである。12は芙蓉手の皿である。18世紀後半～19世紀前半に比定できる。

瓦質土器(13)。13は瓦質土器鉢の底部である。外面にタテハケを施す。

陶器(14)。14は唐津焼の施釉陶器皿である。内面見込みに砂目の痕跡が2ヶ所に認められる。

棲瓦(15)。15はほぼ全体の形状を窺えるものである。

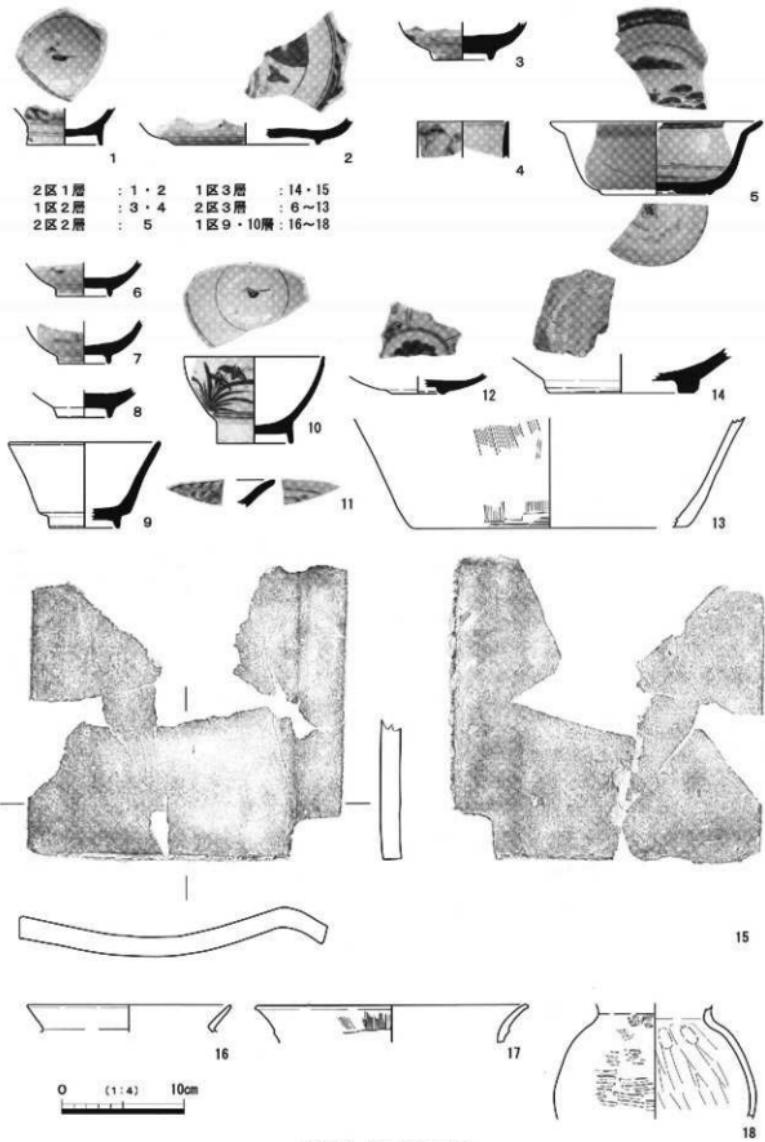
土師器(16)。16は堀の口縁部である。生駒西麓産の胎土をもつ。古墳時代中期に比定できる。

弥生土器(17・18)。17は甕口縁部、18は体部である。2点とも生駒西麓産の胎土をもつ。弥生時代後期に比定できる。

(2)まとめ：今回の調査では、南北方向の溝状遺構1条を検出した。調査地は久宝寺寺内町の北西部であり、明治～大正時代の地籍図によると塙となっている地点である。そのため、溝状遺構は塙の一部である可能性が高い。

参考文献

・桜井敏雄・大原一志 1988『寺内町の基本計画に関する研究』八尾市教育委員会



第39図 出土遺物実測図

5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査

(1)調査概要：平面規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4.0m^2 1ヶ所について、現地表(T.P.+8.4m前後)下 1.6m 前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地東部に位置する交差点中央:T.P.+8.2m)である。

【地層】現地表下 0.3m 前後までは、客土・盛土(0層)である。以下 1.3m の間において13層の基本層序を確認した。1～10層は近世の盛土・整地に伴う層位である。1～3・5層は固く締まる整地層である。4層は固く締まる整地層で上面は火を受けている。6～8層は炭・焼土を多く含むブロック状の層相で、火災後の整地層である。8層上面は火を受けている。9・10層は炭・焼土は含まれないがブロック状であり、同じく整地層であろう。

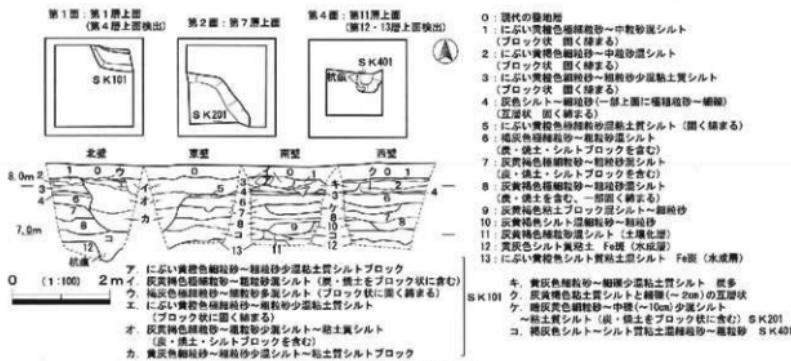
【検出遺構】近世一坑3基(SK101・201・401)。

SK101は第1面(1層上面・T.P.+8.2m)で検出した。東西90cm以上・南北55cm以上・深さ約1.1mを測る。埋土は炭・焼土を多く含むブロック状である。瀬戸美濃・唐津焼・土師器・屋瓦が出土した。

SK201は第2面(7層上面・T.P.+7.6m)で検出した。東西1.3m以上・南北1.05m以上・深さ約20cmを測る。埋土は炭・焼土を多く含むブロック状である。瀬戸美濃・志野・唐津・備前焼・中国製白磁・青磁・土師器・瓦器・屋瓦が出土した。また北西部では平瓦や備前焼片を敷いた状況を確認した。

第3面(8層上面・T.P.+7.4m)では遺構は検出していないが、北側は火を受けており生活面であったと考えられる。

SK401は第4面(11層上面・T.P.+7.1m)で検出した。東西約50cm・南北50cm以上・深さ約40cmを測る。埋土はブロック状である。掘方の南傾斜部及び北壁内で径10cm程度の杭痕が見られる。なお検出部分は、南西部の11層の高まりから北東部に向かって落ち込む大規模な遺構の一部の可能性もある。上部器皿釜片が出土した。



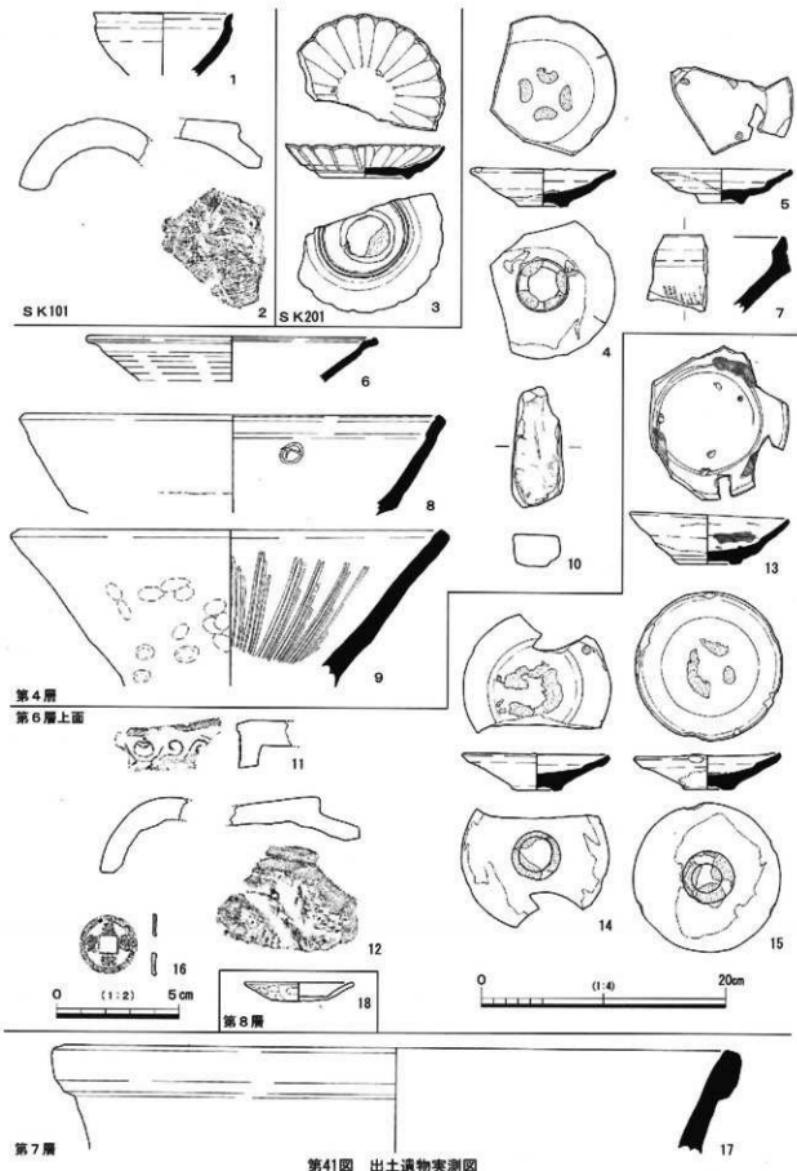
第40図 平面・断面図

【出土遺物】各遺構からのはか、4～6層から瀬戸美濃・唐津・備前・丹波焼、土師器、屋瓦、7層から備前焼、中国製白磁、瓦器、屋瓦、8～10層から土師器、瓦器が出土した。

近世-SK101(1・2) 1は瀬戸美濃系の天目茶碗である。高台周辺の外面のみ露胎で、全体に鉄釉を掛ける。2は丸瓦である。玉縁の凸面側は段をもち、凹面側はなだらかである。側縁は2面に削る。

SK201(3) 3は志野焼菊皿である。高台内面も含め、全面に施釉する。高台内面に重ね焼きの痕跡、内面見込みにハリ跡が2個認められる。

第4層(4～10) 4～6は唐津焼皿である。4・5は高台周辺のみ露胎である。4は口縁部の3ヶ所を



第41図 出土遺物実測図

内側に押さえる。内面見込みと高台に砂目が4個づつ認められる。高台には回転糸切り痕跡も認められる。5は内面見込みに胎土目が3ヶ所認められる。胴部内面に段をもつ。4・5はI-2期頃と考えられる。6は残存部に全面施釉する。胴部が丸曲して口縁部に至るものである。II期頃と考えられる。7は備前焼擂鉢である。口縁部は上方に拡張し、外面に凹線2条を施す。内面は内傾して面を成す。擂日は8条残存する。8は備前焼盤である。内面に丸に一を引いたような印をつける。口縁端部は内面に段をもつ。9は丹波波焼擂鉢である。擂日は4条1組で、7組確認できる。10は砥石である。一面のみを使用し、使用面は平滑である。

6層上面(11~16) 11は軒平瓦である。瓦当文様は宝珠唐草文である。凹面に煤が濃く付着する。12は丸瓦である。玉縁の凸面側は段をもち、凹面側はなだらかである。側縁は2面に而取りを施す。13~15は唐津焼皿である。いずれもI-2期頃と考えられる。13は胎土が浅黄色を呈し、透明釉を掛ける。胴部に線状の鉄絵を3ヶ所に施す。内面見込みにハリ跡が3個認められる。14・15は高台周辺のみ露胎である。口縁部の3ヶ所を内側に押さえる。また内面見込みと高台に砂目が認められる。高台には回転糸切り痕跡も認められる。16は銅錢である。鋸がひどく、銭名は判読できないが、寛永通寶であろう。

7層(17) 17は備前焼窯である。口縁部に土縁をもつ。

中世~8層(18) 18は土師器皿である。口縁部は緩やかに広がり、端部は丸く取れる。

(2)まとめ: 今回の調査では、焼土層・整地層が繰り返して堆積する久宝寺寺内町特有の様相が顕著に認められた。出土遺物や焼土層の存在から、第1~4面の時期を比定すると、最下位の焼土層(8層)に覆われる第4面が寺内町成立期~「石山合戦」期(天正5年(1577))、第3面が16世紀末、第2面が16世紀末~17世紀初頭、第1面が17世紀代以後と考えられる。

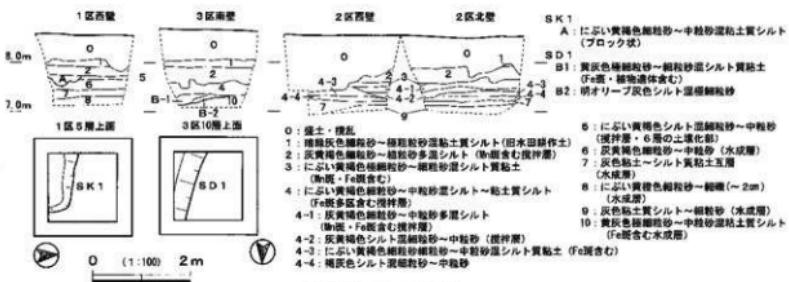
参考文献

・九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の羅年」

6)小阪合遺跡(2008-117)の調査

(1)調査の概要: 平面規模約2.5×2.5m、面積約6.25m² 1ヶ所(2区)、2.0×2.0m、面積約4.0m² 2ヶ所(1・3区)について、現地表(T.P.+8.6~8.7m前後)下1.5~1.6m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南東に位置する市道中央:T.P.+9.0m)である。

【地層】現地表下約0.6mは、盛土・擾乱(0層)で、2区南半部は擾乱が1.2mまで及んでいる。以下1.0mの間において10層の基本層序を確認した。3層は2区でのみ認められたが、整地層と思われる。4層は2・3区で認められた耕作土と思われる擾乱層で下面に凹凸が認められる。2区では層相の違いから4枚に分層できる。8~10層は水成層(T.P.+7.2~7.3m)で、1区では砂礫層、2・3区では粘土質シル



第42図 平・断面図

ト～細粒砂となっており、1区付近に流心を持つ河川堆積層であろう。

【検出遺構】中世頃～耕作溝、時期不明～土坑1基(SK1)、溝1条(SD1)。

1・3区2層下面(T.P.+7.6~7.7m)で南北方向の耕作溝を確認した。

SK1は1区5層上面(T.P.+7.7m)で検出した。検出部分で南北0.6m、東西1.2m、深さ25cmを測る。埋土はブロック状で、時期不明の土師器片が出土した。SD1は3区10層上面(T.P.+7.4m)で検出した北東～南西方向の溝である。検出長1.5m、幅0.6m以上、深さ25cmを測る。埋土は自然堆積層である。遺物は出土していない。

【出土遺物】2層は中世頃までの土師器・須恵器・瓦器、4層は平安時代の土師器の他、2・3区で円筒埴輪片(1・2)が出土している。3区7層は弥生時代後期の土器、時期不明の土師器を含む。

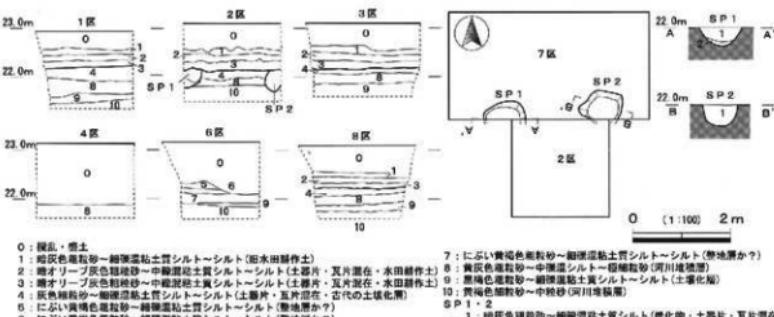
2区-1は磨耗の為調整不明。突帯は高めである。3区-2は須恵質で非常に硬質である。調整は外面ナデでヨコハケがわずかに残る。内面は斜方向のナデである。胎土中には3mmまでの砂粒を多く含む。突帯径38cm程度に復元されるが小片の為明確でない。1はIII～IV期、2はIV期に比定される。

(2)まとめ:今回の調査では、古代～中世頃の水田耕作土の他、時期不明の土坑・溝を確認した。北側の東西道路部の調査では古墳時代中期の方墳を検出しておらず、SD1が周溝となる可能性はある。ただし、埴輪片は耕作土からの出土であり明確ではない。

7)高麗寺跡(2008-14)の調査

(1)調査概要:平面規模約2.0×2.0m、面積約4.0m²6ヶ所について、現地表(T.P.+22.9~23.5m前後)下1.5m前後までを調査した。さらに遺構の広がりを確認するため、2区の北側(7区)と、2区と3区の間(8区)に調査区を追加して設定した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北部を東に伸びる市道T字路中央:T.P.+24.3m)である。

【地層】現地表下30~50cm前後までは、客土・盛土・擾乱(0層)である。以下1.0~1.2m間ににおいて10層の基本層序を確認した。4層は1~3・7・8区で確認した土壤化層(T.P.+22.0~22.2m)である。この内、1・2・7区では古代の土器や瓦片を多く含む。また2・7区では、本層上面から切り込まれ



第44図 北壁断面図・平面図

る柱穴を2個(S P 1・2)検出した。5～7層は、6区で確認した整地層の可能性が考えられる硬く締まった地層である。

【検出遺構】古代一柱穴2個(S P 1・2)。

2・7区の4層上面(T.P.+22.0～22.2m)において検出した。平面形状はともに東西に長い隅丸方形を呈する。規模は、長辺約80cm、短辺40cm以上、深さ30cmを測る。断面形状は深い楕円形を呈する。2段暗文の施された土師器杯や碗が出土しており、概ね奈良時代前半に帰属する。

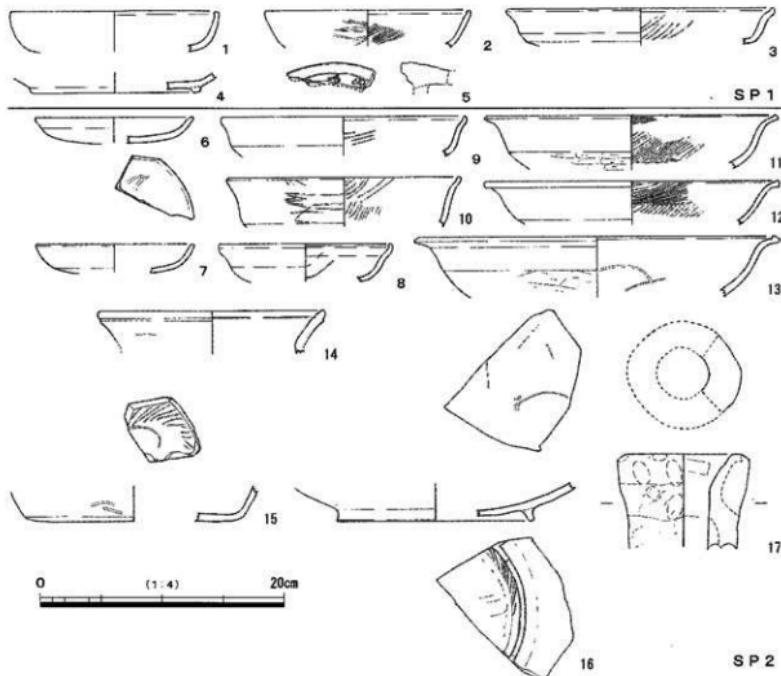
【出土遺物】奈良時代前期～中期

S P 1出土遺物—土師器(1～4)・軒丸瓦(5)

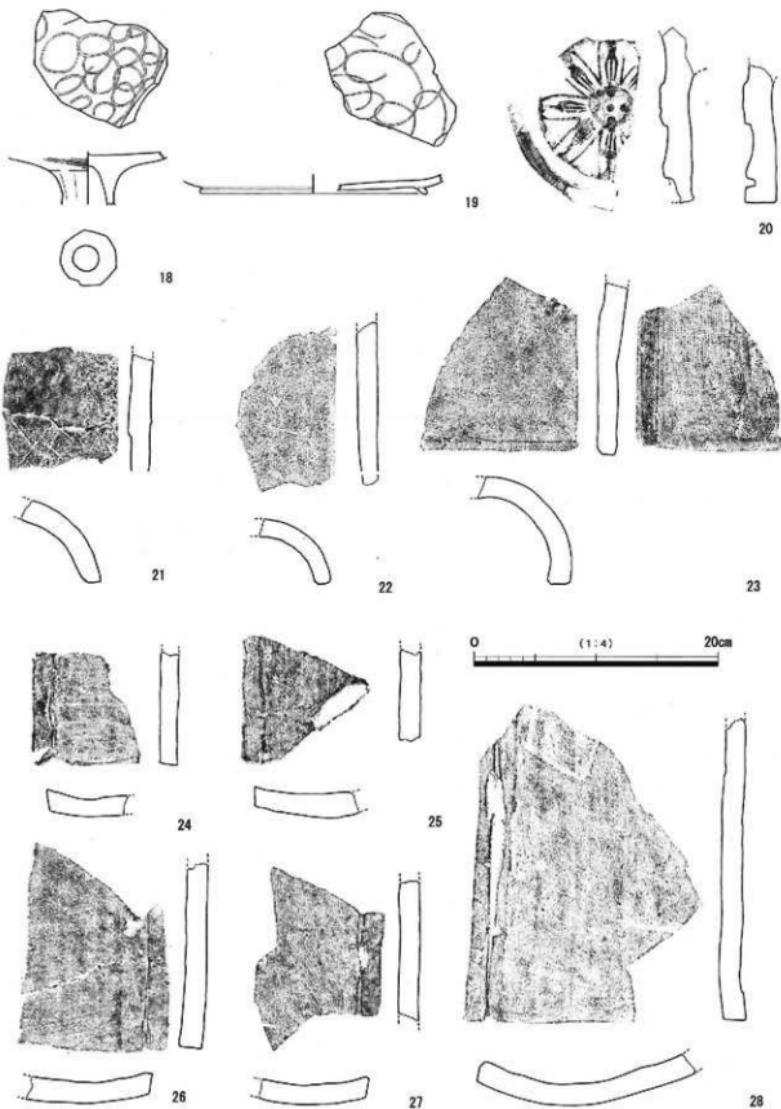
1～3は杯Aである。口縁端部が内側に丸く肥厚する個体群で、2・3の口縁部内面には1段の放射状暗文を施す。4は器種不明の高台部である。内・外面を回転ナデで仕上げた後、逆台形の高台を貼り付けている。5は外区に三角錐状の珠文を配した軒丸瓦である。外縁は直立縁で、瓦当裏面頂部には丸瓦部が若干遺存している。

S P 2出土遺物—土師器(6～17)

6・7は皿Aである。6は灯明皿の可能性が高い。破断面には2次焼成痕が見える。7は口縁部が横位ナデ、底部が未調整の個体である。8～12は杯である。口縁端部は、若干内湾する個体(8)、小さく外反する個体(9・10)、大きく外反する個体(11・12)に分類できる。一方底部の調整は、未調整の個体(8・9)と横位ケズリを施す個体(10～12)がある。いずれも口縁部内面に2段の放射状暗文を施す。13は盤



第45図 出土遺物実測図(1)



第46図 出土遺物実測図（2）

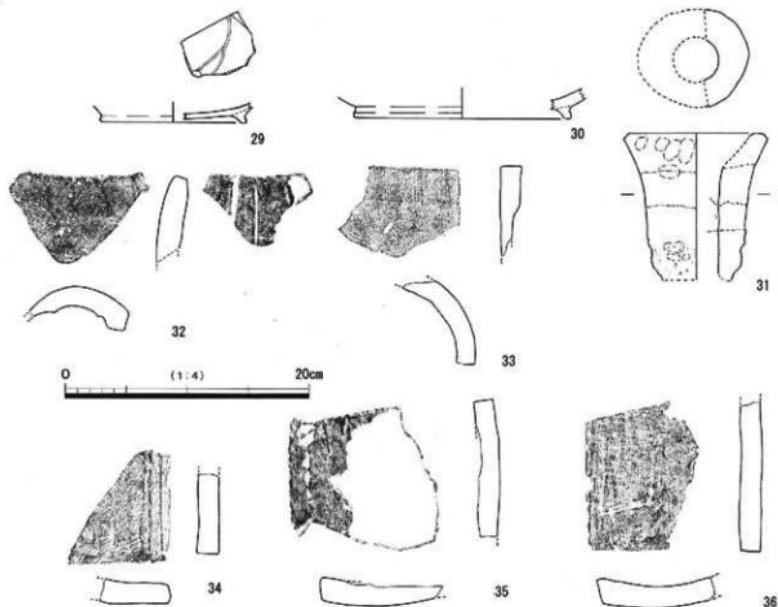
である。復元口径は29.1cmで、見込み部には螺旋状暗文を施す。14は壺と推測される。口縁端部内・外面には沈線が1条加えられる。15は杯Aと推測される。口縁部内面には放射状暗文、見込み部には螺旋状暗文を施す。16は器種不明の高台部である。15同様、口縁部内面には放射状暗文、見込み部には螺旋状暗文を施す。17は輪羽口である。指頭成形後ナデ調整を行う個体で、外面には多数の亀裂が認められる。羽口先端部分には黒色のガラス質が付着していた。

3層内出土遺物—土師器 (18・19)、軒丸瓦 (20・21)、丸瓦 (22・23)、平瓦 (24~28)

飛鳥時代後半～奈良時代後半に比定される遺物が出土した。18・19は土師器である。18は縦位ケズリにより面取りした柱状部を有する高杯で、杯部内面には螺旋状暗文を施す。19は高台部である。見込み部には螺旋状暗文を施す。20・21は軒丸瓦である。この内20は単弁8弁蓮華文軒丸瓦(復元瓦当径17.0cm、瓦当厚2.4cm)である。中房は径3.5cmで、1+4の蓮子を配置する。周縁は素文の直立縁である。教興寺跡第1次調査で出土した軒丸瓦II b類に類似する個体で、7世紀第4四半期に帰属する。21は丸瓦部広端面付近の細片である。凹・凸面広端縁～広端面には、瓦当接合時の接合強化のための『X』字状のキザミを加えている。側面は縦位ケズリ。22・23は丸瓦である。いずれも凹面に布目痕、凸面に繩目タタキ後縦位ナデが見える。22の側面には分割破面が残る。24～28は平瓦である。凹面は布目痕をナデで消し、凸面は斜位に繩目タタキを施した後、部分的にナデを行う。側面は縦位ケズリ。28の凹面広端縁には部分的に横位ケズリを行う。

4層内出土遺物—土師器 (29~31)、丸瓦 (32・33)、平瓦 (34~36)

概ね奈良時代前半に位置付けられる遺物が出土した。この内8点(29~36)を図化した。29～31は土師器である。29・30はハの字に開く逆台形状の高台部で、29の見込み部には螺旋状暗文を施す。31は17と同じ特徴を有する輪羽口である。32・33は丸瓦である。いずれも狭端面付近の細片で、狭端



第47図 出土遺物実測図 (3)

面は横位ケズリ、側面は縦位ケズリを行う。34～36は半瓦である。凹面には布目痕が見える。側縁は縦位ケズリを施す。凸面は綱目タタキ後部分的に横位ナデ(35)や縦位ナデ(36)を行う。側面は縦位ケズリである。

(2)まとめ: 今回の調査では、古代の土壤化層である4層と、4層上面より構築された2個の柱穴が特筆される。この内4層は、概ねT.P.+22.0～22.2mで認められる地層で、1・2・7区では、土師器や須恵器、瓦の細片を多く含む。遺物の特徴から、奈良時代前半に形成された地層と推測される。一方柱穴は、平面形状が長辺で約80cmを測る隅丸方形を呈すること、東西方向に配置されることなどの特徴から、規格性の高い建物の存在を彷彿させる。今回の調査地は、高麗寺跡推定地の中央北に位置することから、東西方向に展開する講堂の柱痕跡の可能性が考えられる。また、3層(水山耕作土)からは、7世紀第4四半期の軒丸瓦(20)が出土した。遺構に伴うものではないが、高麗寺跡の創建時期を考える上で貴重な成果として注目される。

8) 渋川廃寺(2008-217)の調査

(1) 調査の概要: 平面規模約3.0×3.0m-2箇所、約4.0×4.0m-3箇所、約2.0×9.0m-2箇所の計7箇所について、現地表(T.P.+9.6～9.9m前後)下3.0～4.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南東部に位置する交差点中央:T.P.+9.6m)である。

【地層】 調査区が広範間に亘るため、おおまかに9層の基本層序を設定した。現地表面の標高は西部がT.P.+9.6m、東部が9.9mを測り東部が高い。1層は旧耕作土であり、近世の島畑部分ではT.P.+8.8m、水田部分ではT.P.+8.3～8.6mに認められる。2層は近世、3層は中世頃の耕作上層と考えられる(T.P.+7.9～8.6m)。5層はMn斑を多く含み土壌化が著しく、4区では平安時代後期遺構面のベースとなる(T.P.+8.2～7.6m)。7層は弥生時代末～古墳時代前期の遺物包含層である。炭を含み、ブロック状を示す部分もある。3区のみ古墳時代前期(布留式新柵)に比定される。また1～3・6区では上下2層以上に分層されることから、層中に数枚の遺構面が存在するものと考えられる(T.P.+6.6～7.2m)。8層は水成層であるが、7区では下部が暗色を呈しており、遺物包含層の可能性がある。

【検出遺構】 近世一耕作溝1条(S D201)・土坑1基(S K201)、中世一耕作閑連溝5条(S D202・203・401～403)・土坑1基(S K401)・ピット2個(S P301・302)、古代-自然河川1本(N R501)、古墳時代初頭-ピット1個(S P701)、弥生時代前期-土坑1基(S K701)。

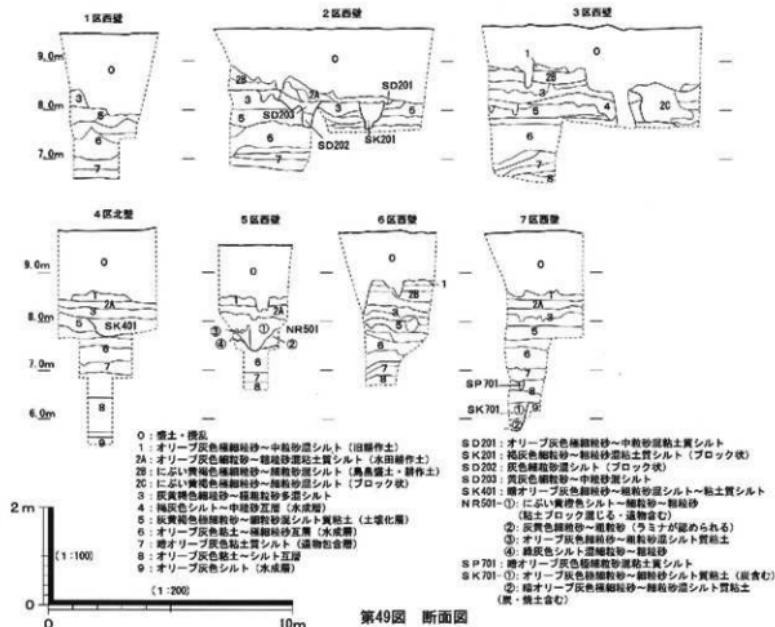
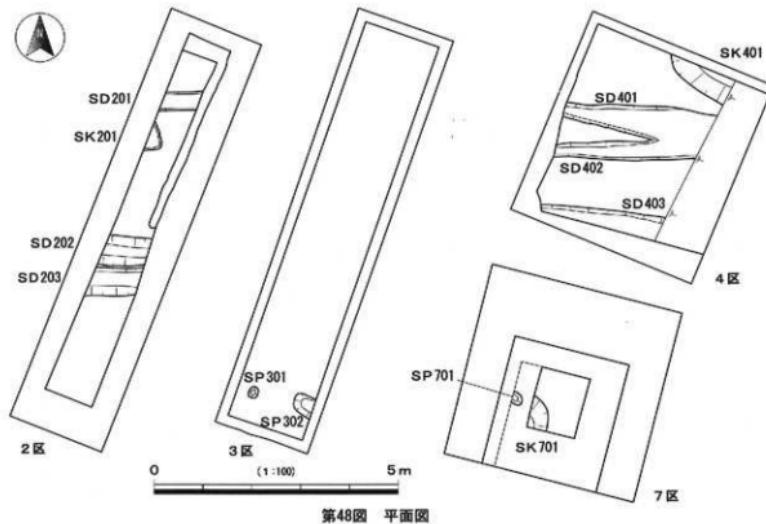
S D201・S K201は2区2A層下面で検出した。S D201は幅約45cm・深さ8cmを測る。6世紀代の土師器・須恵器が出土した。S K201は一边60cm以上の平面方形を呈すると思われ、深さ56cmを測る。平瓦・丸瓦・土師器片が出土した。

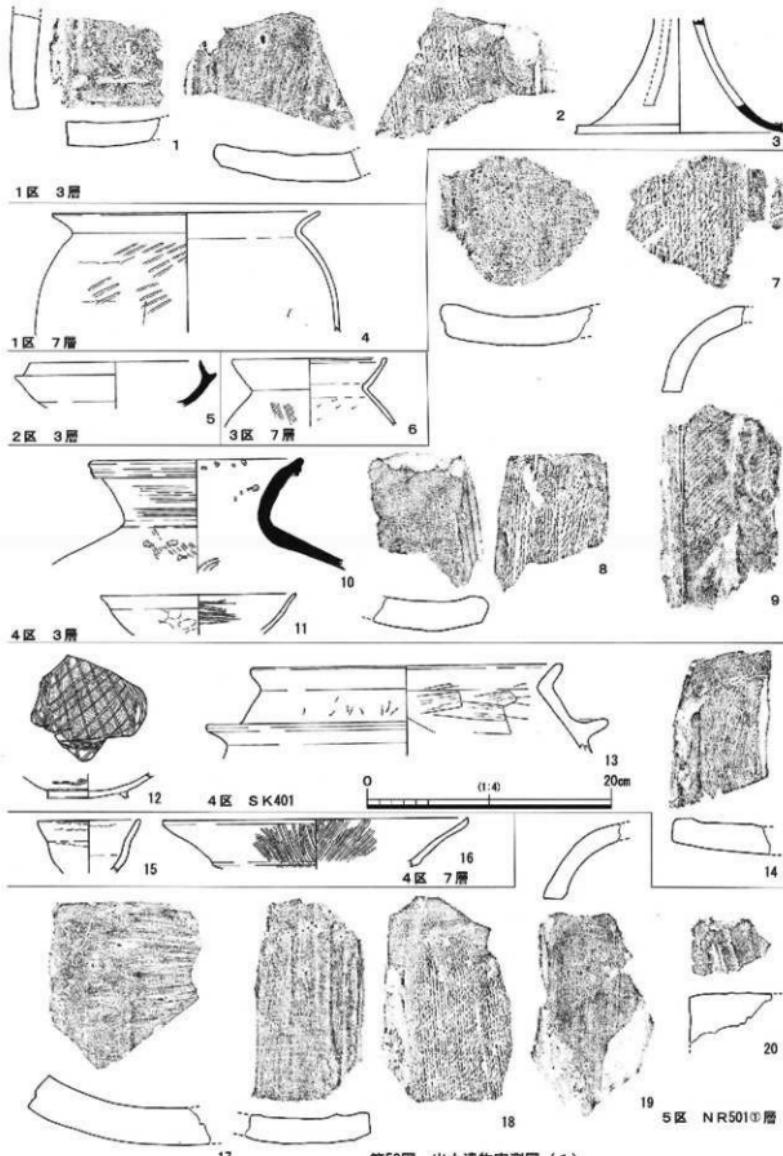
S D202・203は2区3層上面で検出した。ともに幅約60cmで、深さはS D202が45cm、S D203が10cmを測る。平瓦・丸瓦、6世紀代の土師器・須恵器が出土した。

S D401～403・S K401は4区5層上面で検出した。S D401～403は幅25～60cm・深さ約15cmを測り、S D401・402は東部で合流する。平瓦・丸瓦が出土した。S K401は南北60cm以上・東西1.4m以上・深さ35cmを測る。平瓦・丸瓦の他、12世紀後半の瓦器焼や土師器羽釜が出土した。S D401～403と一連の耕作閑連の土坑と思われる。

S P301・302は3区5層上面で検出した。S P301は26×20cmの楕円形を呈し、断面逆台形で深さ8cmを測る。S P302は12×40cm以上の楕円形を呈し、断面逆台形で深さ30cmを測る。ともに遺物は山上していない。

N R501は5区6層上面で検出した。5区全体を含んでおり、検出部分で深さ80cmを測る。最終的な埋土はブロック状を呈しており人為的に埋められている。この埋土からは平瓦・平安時代前期の土師器・6世紀代の須恵器が出土しており、平安時代前期に埋められたと考えられる。本調査区は、既往の調査





第50図 出土遺物実測図（1）

で北西—南東方向に流れる奈良時代の自然河川の存在が推定されている地点であり、この河川に相当すると考えられる。

S P701は7区8層上面で検出した。検出部分で東西18cm・南北22cm・深さ22cmを測る。庄内式期の小形甕が出土した。

S K701は7区9層上面で検出した。円形を呈する十坑の一一部と考えられ、検出部分で東西40cm・南北65cm・深さ60cmを測る。埋土は炭・焼土を多く含む。弥生時代前期後半の土器や石器が出土した。

【出土遺物】3層出土遺物—平瓦(1・2・7・8)・丸瓦(9)・須恵器(3・5・10)・瓦器(11)。

1・2・7・8は平瓦である。1は1類(瓦の分類は坪山・金親(2004)に従う。以下同)で、側縁は分割破面を残す。2は壺類で、側縁は2面に削る。凸面側を幅5cmでナデ、縄タタキを消す。7はVII類で、胎上に砂粒を多く含む。側縁は段を成す。8はVIII類で、側縁は2面に削り、凹面側角を面取りする。凹面の狭端を2.5~4.5cmナデ、布目痕を消す。9は丸瓦である。広端側のため分類不能で、凸面はナデ、凹面は布目痕が認められる。側縁は削っていない。

3・5・10は須恵器である。3は高杯である。長方形透かし孔を3方向に穿つ。5は杯身である。T K10型式に相当する。10は甕である。口縁端部を下方に拡張する。体部外面及び、口縁部内面に濃く自然釉が掛かる。11は瓦器碗である。内面のみ粗いミガキを施す。和泉型III-3期頃である。

7層出土遺物—土師器(4・6・15・16・21~28・31)。

壺(23~25)。23・24は広口壺である。口縁端部を下方に拡張し、面を成す。25は直口壺である。

甕(4・6・15・22・27・28・31)。4は外面に右上がりリタタキを施す。外面に煤が付着する。6は口縁端部が拡張して内傾する布留甕である。外面及び口縁部内面の一部に煤が付着する。15はミニチュア甕である。22は体部外表面ともナデ調整を施す。27は口縁端部をつまみ上げ、28は丸く收める。31は外面に粗いタタキを施す。口縁端部は面を成す。27・28・31は外面に煤が濃く付着する。

鉢(26)。26は小型鉢で、口縁端部は僅かに外反する。

高杯(16・21・29)。16・21は有稜高杯である。ともに口縁端部が面を成し、16は内外面とも密な縱位ミガキを施す。とともに庄内式古段階新相である。29は脚部である。短い中実の脚柱部と大きく聞く裾部をもつ。裾部に直径9.9cmの円孔を3方向に穿つ。

8層出土遺物—土師器(30)。

30は甕である。口縁端部は僅かに上方につまみ上げる。外面及び口縁部内面に煤が付着する。

S K401—瓦器(12)・土師質土器(13)・平瓦(14)。

12は瓦器碗である。断面台形を呈する高台をもつ。内面見込みは密なミガキの後に格子状暗文を施す。13は土師質羽釜である。口縁部が「く」の字状に外反し、銚の先端部を丸く納める森島分類A型式である。外面に煤が付着する。14は平瓦である。VII類で凸面は縄タタキをナデ消し、凹面は狭端で3cm、側縁で2cmナデ、布目を消す。狭端面は内傾する面を成す。

N R501—平瓦(17・18)・丸瓦(19)・埠(20)。

17・18は平瓦である。17は1類で、側縁は、分割破面を残す。凹面に煤が付着する。18はVII類で、凸面の側縁を幅1.0cmで、縄タタキをナデ消す。19は丸瓦である。側縁部のみのため分類不能。凸面はナデ、凹面は布目圧痕が認められる。凹面側の側縁を面取りする。20は埠である。2面が残存する。

S P701—土師器(32)。

32は小型甕である。底平をもち、口縁部は短く外反する。外面に煤が付着する。

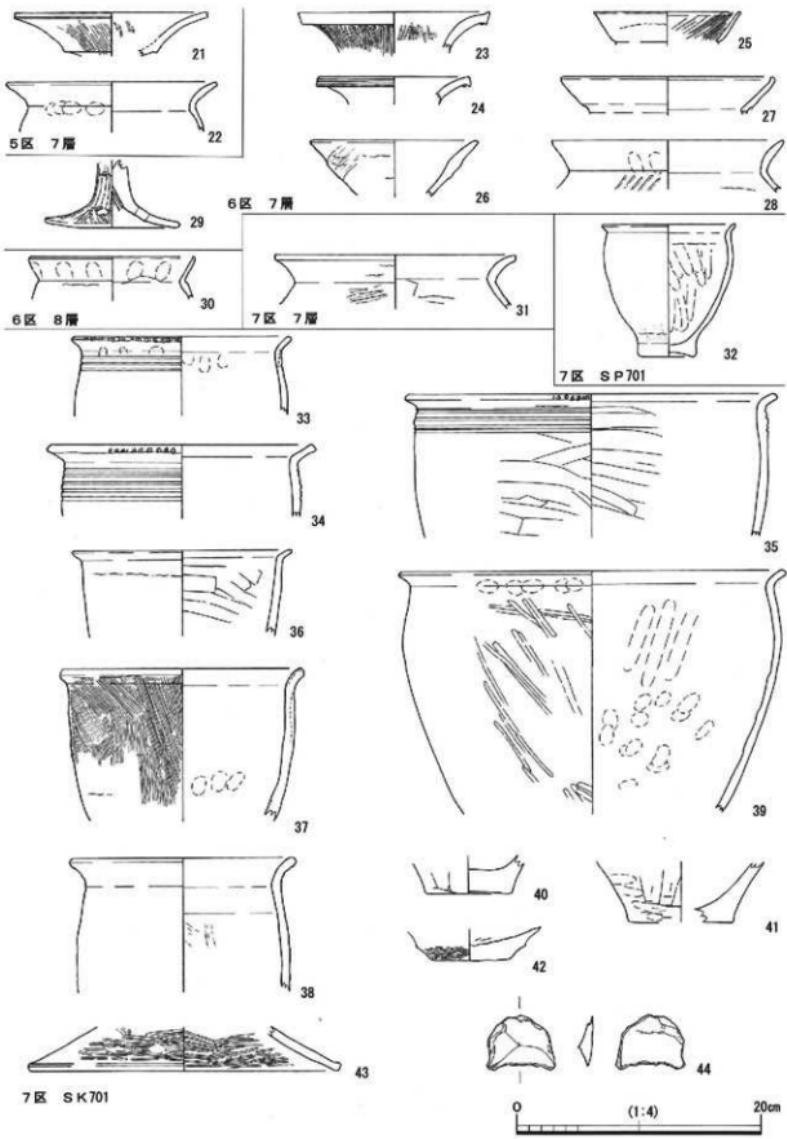
S K701—弥生上器(前期)(33~43)・石器(44)。

甕(33~41)。33~35はいずれも口縁端部に刻み目、体部に3~4条のヘラ彫沈線を施す。36~39は無文である。37のみ外面にタテハケを施す。40・41は平底の底部で、40は接合面で体部が剥離する。

甕(42)。42は底部で、外面は接合面で剥離する。

蓋(43)。43は「ハ」の字状にひらく器形である。内外面に横位ミガキを施す。

石器(44)。44はサヌカイト製石器である。上部に自然面が残り、下端に刃部調整をおこなう。



第51図 出土遺物実測図（2）

(2)まとめ：調査では中世～近世(3層上面)、平安時代後期(5層上面)、古墳時代初頭(8層上面)、弥生時代前期(9層上面)の集落・生産関連遺構の他、弥生時代～古墳時代前期の遺物包含層(7層)を検出した。

調査地は渋川廃寺の推定寺域南側にあたるが、渋川廃寺関連の遺構は検出されなかつた。しかし、いずれの調査区からも瓦が出土しており、特に1・4区からの出土が多い。主に中世～近世の耕作土から出土しているため、飛鳥～奈良時代の遺構は後世の耕作によって削平されたと考えられる。また古墳時代後期の土器も散見されることから、この時期の集落も当地に存在した可能性が高い。

弥生時代～古墳時代前期の遺物包含層は調査地全域に広がっており、7区では弥生時代前期の遺構を検出した。南の跡部遺跡で確認されている当該期の集落域が北へも広がっていることが確認できた。

参考文献

- ・坪田真一、金城尚夫 2003『渋川廃寺 第2次・第3次調査』(財)八尾市文化財調査研究会報告79 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 1992「XⅢ 游郭遺跡第6次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告34 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 1997「III 路面遺跡(第15次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告38』(財)八尾市文化財調査研究会

9)成法寺遺跡(2008-256)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 2.0×2.0 m、面積約 $4.0m^2$ 2ヶ所について、現地表(T.P.+8.6m前後)下1.6m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北西部に位置する交差点中央:T.P.+8.3m)である。

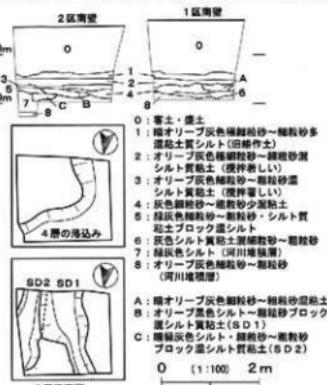
【地層】現地表下0.9～1.1mは、客土・盛土(0層)である。以下0.6mの間において8層の基本層序を確認した。2・3層は攪拌の著しい耕作土である(T.P.+7.3～7.5m)。3層は2区でのみ認められた。4層は2区において南東部から北・西への落込み埋土として捉えた層で、1区では調査区全体に認められた(T.P.+7.1～7.4m)。Fe班を含み耕作土の可能性がある。2～4層の時期は出土遺物から中世頃に比定される。5層は2区、6層は1区で認められた上壤化層(T.P.+7.1～7.3m)である。7層以下は水成層(T.P.+7.2m以下)で河川堆積層である。2区7層上面は攪拌され土壤化する。

【検出遺構】中世以降・耕作溝1条(A)、弥生時代後期～古墳時代初頭・溝2条(SD1・2)。

耕作溝は1区4層上面(T.P.+7.4m)で検出した南北方向のものである。SD1は2区5層上面(T.P.+7.3m)

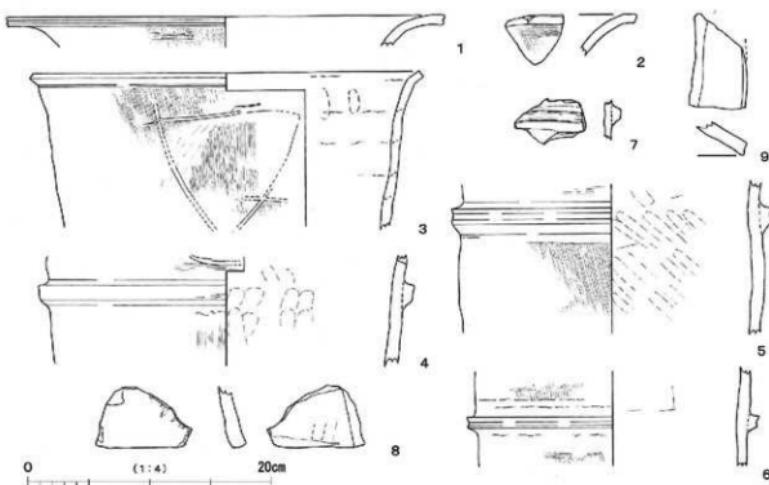
で検出した。幅約1.0m・深さ約20cmを測る。弥生時代後期～古墳時代初頭の土器片が少量出土した。SD2は7層上面(T.P.+7.2m)で検出した。幅約70cm・深さ約15cmを測る。弥生時代後期の土器片が少量出土した。いずれも土器は細片で、時期は明確ではない。

(市教委立会調査) 東西方向の管轄中央部分で、遺構確認調査の4層に対応する層の直下にあたる地表下1.2m付近に、暗灰色砂混シルト層が、幅50cmで南東に向かって見られた。この底付近に円筒埴輪等の破片が集中して出土していた。既に掘削を終えていたため、土層壁面での観察であったが、5層をベ



第52図 平面・断面図

ース層として、10cm前後の深さの断面皿状のやや東向きに振れる南北方向の溝状遺構であったと考えられる。古墳の周溝にするには、幅が短いため、判然としないが、周溝底の一部であった可能性がある。2区の4層の落ち込みが同じく古墳の周溝の可能性があり、同一の古墳の周溝内の遺物で、おそらくは方墳が存在していた可能性が高い。



第53図 出土遺物実測図

【出土遺物】 2・3層からは上師器・須恵器・瓦器・瓦片が出土した。2区4層からは土師器・須恵器・瓦器片の他、朝顔形埴輪1点が出土している。

古墳時代中期一埴輪。

1は、2区4層から出土した朝顔形埴輪の笠部の口縁で、外面は、タテ方向のハケが見られ、口縁付近はヨコナデである。外面は特にベンガラによる赤彩が残っている。

2～9は、立会調査で出土した埴輪である。2は、朝顔形埴輪の笠部の口縁の破片で、摩耗が激しいものの、外面のハケ部分に赤彩がわずかに残る。3～8は円筒埴輪である。3は、円筒埴輪の最上段の部分で、口縁付近が残る。器壁はやや薄く、淡白色を呈す。外面調整は、タテハケである。内面は、粘土帶の痕跡を残す。口縁端部は外反する。復元口径は、約32cmで、口縁と突縁間の距離は、少なくとも13cm以上あったと考えられる。外面のヘラ記号の線刻は、四辺の「#」、ないし三辺の「△」に近いものと考えられる。4は、体部の破片で、B種ヨコハケと考えられるが、静止痕は確認できなかった。円形のスカシ孔であったことがわかる。5は、底部～2段目の部位と考えられ、底部の外面調整はタテハケ、2段目は、B種ヨコハケと考えられるが、摩耗が著しい。4・5は、別個体であるが、ともに淡灰色を呈す。6・7は、体部の破片で、タテハケの後、ヨコハケを施すが、静止痕は確認できなかった。ともに黄褐色を呈す。8は、底部の小片で、外面調整は不明である。淡灰色を呈す。9は、破片資料ながら、蓋形埴輪の笠部につく張り出しの短い笠縁の破片と考えられ、笠部本体から剥離した痕跡を残す。内外面とも丁寧なナデを施し、外面に線刻等は確認できなかった。

出土した埴輪は、わずかであったが、円筒埴輪は、比較的まとまった資料であった。すべて無黒斑であり、焼成は土師質である。外面調整は、タテハケを主体とするが、静止痕は不明ながら、ヨコハケ調整のものが見られる。底部の調整は、ヨコハケが省略されている。突縁は、突出度も高く、太くしっかり

りしたものが多く、台形を主体としている。わずかにM字形を呈するものがあり、統一感はない。以上の特徴から、川西編年IV期の円筒埴輪であるが、突帯等の形状にばらつきのあることから、古墳時代中期の中でもやや後出する時期の可能性が高い。

(2)まとめ：今回の調査では、中世以降の水田耕作土と、2区では弥生時代後期～古墳時代初頭頃の溝2条を検出した。南東約50mの第12・14次調査でも弥生時代後期の遺構が確認されており、この一帯は弥生時代後期墳に埋没する河川の自然堤防上に位置すると考えられる。また2区4層からは朝顔形埴輪が出土した。4層は中世頃の堆積層であるが、落込みのラインは直角に屈曲しており、方墳の角部であった可能性がある。

本調査地の南東約60mの地点の成法寺遺跡第14次調査で出土した円筒埴輪と比較すると、第14次調査の埴輪が、主に須恵質焼成で、B種ヨコハケを主体としていることから、本資料が後出するようである。しかし、明確な時期差は判然とせず、ほぼ同時期の絶巣に納まるものと考えられる。また、第14次調査の北側に隣接する第12次調査でも包含層から円筒埴輪が出土している。これらは、同一の古墳群内で使用された埴輪の一部である可能性が高い。

調査地の南方の矢作遺跡第2次調査や本書掲載の6) 小阪合遺跡(2008-117)の調査でも、古墳時代中期～後期の円筒埴輪や形象埴輪が出土している。市内の平野部では、小河川の流域に点在した古墳時代中期から後期にかけての集落域のブロックごとに、埴輪を持ついくつかの小方墳で構成される古墳群が付随していたと考えられる。破片資料とはいえ、埴輪の出土は、該域の成法寺、矢作、小阪合遺跡の南北に連なる範囲に点在していた墓域を想定する上で、興味深い資料となった。

なお本項の執筆は、調査概要：坪山・藤井(立会調査分)、出土遺物：藤井、まとめ：坪山・藤井が行った。

参考文献

- ・森海佳子 1989「II 矢作遺跡(第2次調査)」『八尾市埋蔵文化財調査報告書－平成元年度－』財団法人八尾市文化財調査研究会報告22
- ・坪田真一 1994「IX 成法寺遺跡第12次調査」『(財)八尾市文化財調査研究会報告42』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則 1996「III 成法寺遺跡(第14次調査)」『成法寺遺跡』(財)八尾市文化財調査研究会報告51』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・河村忠雄 2008「矢作遺跡 第7次調査」『(財)八尾市文化財調査研究会報告120』

10 東郷遺跡(2008-298)の調査

(1)調査概要：平面規模約3.0×3.0m、面積9 m² 3ヶ所について、現地表(T.P. +7.0～7.3m前後)下2.5～2.7m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北部交差点中央：T.P. +7.5m)である。

【地層】現地表面の標高は北部がT.P. +7.0m、南部が7.3mを測り南部が高い。現地表下0.7～1.4mは盛上・擾乱(0層)である。以下1.8mの間において12層の基本層序を確認した。なお1区では擾乱が深く及んでおり、1～10層は存在しない。1層は3区でのみ遺存しており、中世頃の耕作闊疊層と思われる。2層は水成層で、一時的な冠水の痕跡であろう(T.P. +6.3～6.4m)。3～8層は古墳時代前期の遺物包含層で、概ね3～7層(T.P. +6.1～6.3m)が布留式期古棺、8層(T.P. +5.9～6.1m)が庄内式期に比定される。3区8層中では上器集積を検出した。9層以下(T.P. +5.9m以下)は水成層で、上部は擾拌され土壌化する。9～11層はシルトを基調とし、12層は細粒砂～粗粒砂である。

【検出遺構】古墳時代初頭～前期一坑7基(S K201～207)、ピット1個(S P301)・時期不明ピット1個(S P101)、落込み1基(S O101)。

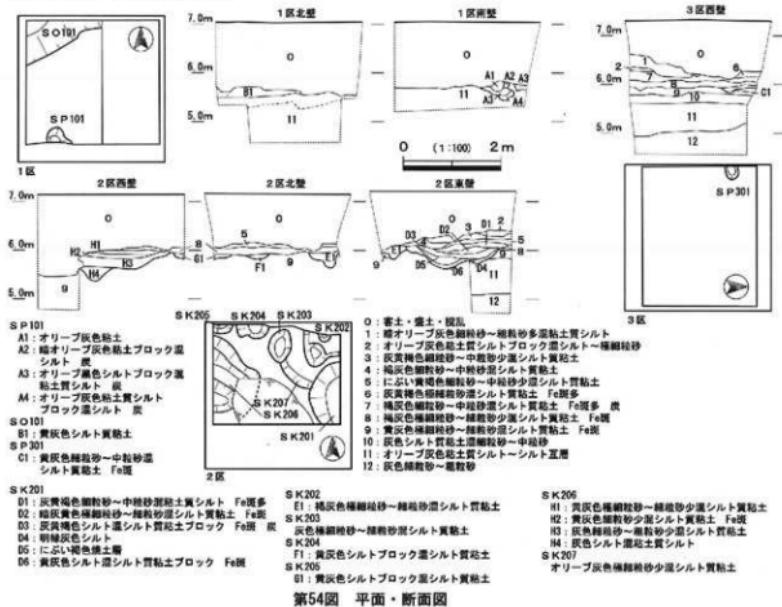
S K201は2区8層上面(T.P. +6.1m)で検出した。直径2.1m以上の円形を呈すると考えられ、深さ約50cmを測る。埋土中に炭を多く含み、厚い焼土層が認められる。布留式期古棺の土器が多く出土した。

S K202～207は2区9層上面(T.P. +5.9～6.0m)で検出した。S K202は検出部の規模が0.7×0.7m、

深さ約30cmを測る。底部の2箇所にピット状の落込みが認められ、柱穴の可能性がある。SK203は70×45cmの楕円形を呈し、断面逆台形で深さ約12cmを測る。SK204・205は深さ10cm程度を測る。SK206は検出部の規模は1.8×0.9m、深さ約60cmを測る。下層から庄内式期古相の土器が出土した他、最下部からは木製鈎(8)が出土した。SK207は深さ15cm程度を測る。

SP301は3区9層上面(T.P.+5.9~6.0m)で検出した。規模は30×25cm、深さ約10cmを測る。

SP101は平面不定形で深さ40cm以上を測る。埋土中に炭が多く含む。SO101は11層中の自然堆積と思われる北への落込みである。

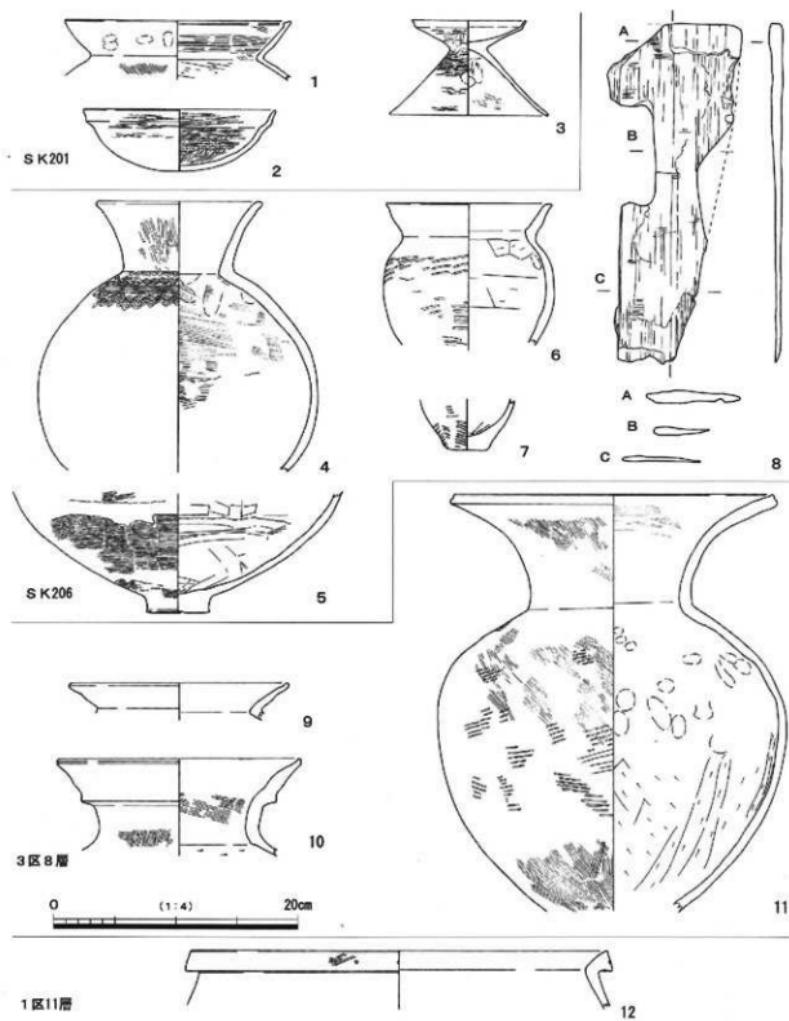


【出土遺物】2区SK201-1は布留式甌で、外側調整はハケである。有段鉢(2)・小形器台(3)はヘラミガキ調整の精製品である。これらは古墳時代前期初頭(布留式期古相)に比定される。2区SK206-4は加飾された直口甌で、肩部に櫛描波状文・直線文を巡らせる。5は甌底部で、外側調整はタタキである。6はV様式系甌、7も小形のV様式系甌あるいは鉢であろう。8は長方形の枘穴を有する組合せ鉢である。9はV様式系甌、10は庄内式甌で、生駒西麓産の胎土である。11は複合口縁甌である。12は広口甌で、口縁端部を小さくつまみ上げる。底体外面はタタキ後ハケで、底部に黒斑を有する。形態的に東部四国からの搬入と考えられる。1区11層-12は弥生土器甌で、口縁端部外面に刺突文を施す。ローリングされ消耗が著しい。河内第IV様式に比定される。

(2)まとめ:今回の調査では周辺で確認されている古墳時代初頭(庄内式期)、前期(布留式期)の2面の遺構面を確認した。遺構は2区で密に認められたが、3区でも土器集積をはじめとして包含層中の遺物量は豊富であり、生活面は全域に広がっているものと考えられる。

参考文献

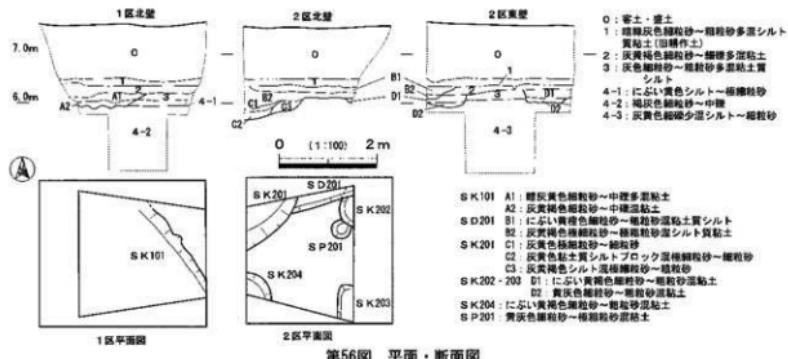
- 高萩千秋 1989「I東部流域第16次調査」『昭和63年度八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会



第55図 出土遺物実測図

11) 東郷遺跡(2008-344)の調査

(1) 調査概要：平面規模約3.0×3.0m、面積9.0m² 2ヶ所について、現地表(T.P.+7.6m前後)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北東部交差点中央:T.P.+7.5m)である。



【地層】現地表下1.1mは客土・盛土(0層)である。以下1.9mの間ににおいて4層の基本層序を確認した。2・3層(T.P.+6.05~6.4m)は細粒砂・細礫が多く含み、硬く締まっており整地層と考えられる。2層は中世頃、3層は奈良時代頃に比定される。4層は水成層である。

【検出構造】中世頃一坑1基(S K201)・溝1条(S D201)、奈良時代一坑4基(S K101・S K202~204)・ピット1個(S P201)。

S K201・S D201は2区2層上面(T.P.+6.35m)で検出した。S K201は掘方が弧状を呈し、深さ約45cmを測る。埋土は底部付近がブロック状、上部は水成層が認められ、最上部にはS D201埋土が落ち込む。素掘り井戸の可能性がある。S D201は東西方向に伸び、西側はS K201に接続する。幅60cm以上・深さ約25cmを割り、埋土はブロック状の2層から成る。

S K101は1区3層上面(T.P.+6.2m)で検出した。北西→南東方向の肩から南西に落ち込む1坑で、深さ約35cmを測り、底部には起伏が認められる。埋土はブロック状の2層から成る。奈良時代の土師器・須恵器が少量出土した。

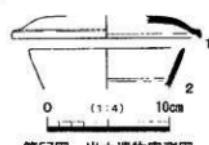
S K202~204・S P201は2区3層上面(T.P.+6.2~6.3m)で検出した。S K202は掘方が弧状を呈し、北側はS D201に切られる。深さ約25cmを測り、埋土はブロック状の2層から成る。時期不明の土師器・須恵器が出土した。S K203は検出部が方形掘方の北西角部にあたると想われ、深さ約28cmを測る。奈良時代の土師器・須恵器が少量出土した。S K204は掘方が弧状を呈し、深さ約20cmを測る。S P201は円形を呈し、北側はS K202に切られる。直径約40cm・深さ12cmを測る。

【出土遺物】1区SK101出土の須恵器(1・2)を図化した。1は杯蓋、2は杯身で、共にやや焼成不良である。奈良時代に比定される。

(2)まとめ：今回の調査では周辺で確認されている整地層を確認し、中世頃と奈良時代の遺構を検出した。中世頃のS K201・S D201は耕作関連構造の可能性が高い。奈良時代の遺構は北側や東側で検出されている居住域が調査地まで広がっていると考えられる。

参考文献

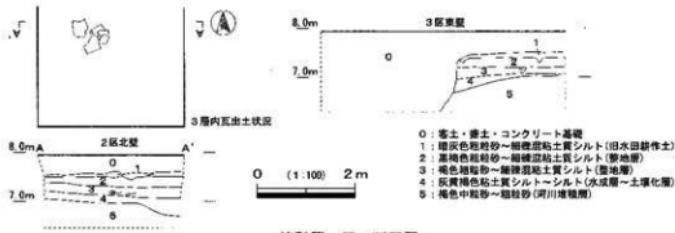
- ・西村公助「2006年IV 東郷遺跡第62次発掘(TG2003-62)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告90』(財)八尾市文化財調査研究会



第57図 出土遺物実測図

12) 東郷廃寺(2008-96)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $3.0 \times 3.0\text{m}$ 、面積約 9.0m^2 1ヶ所(1区)、平面規模約 $3.0 \times 4.0\text{m}$ 、面積約 12.0m^2 1ヶ所(2区)、平面規模約 $3.0 \times 5.0\text{m}$ 、面積約 15.0m^2 1ヶ所(3区)の計3ヶ所について、現地表(T.P.-7.95m前後)下1.5m前後までを調査した(ただし1区はコンクリート基礎が残存していたため調査できなかった)。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南西部に位置する府道T字路中央:T.P.+7.8m)である。



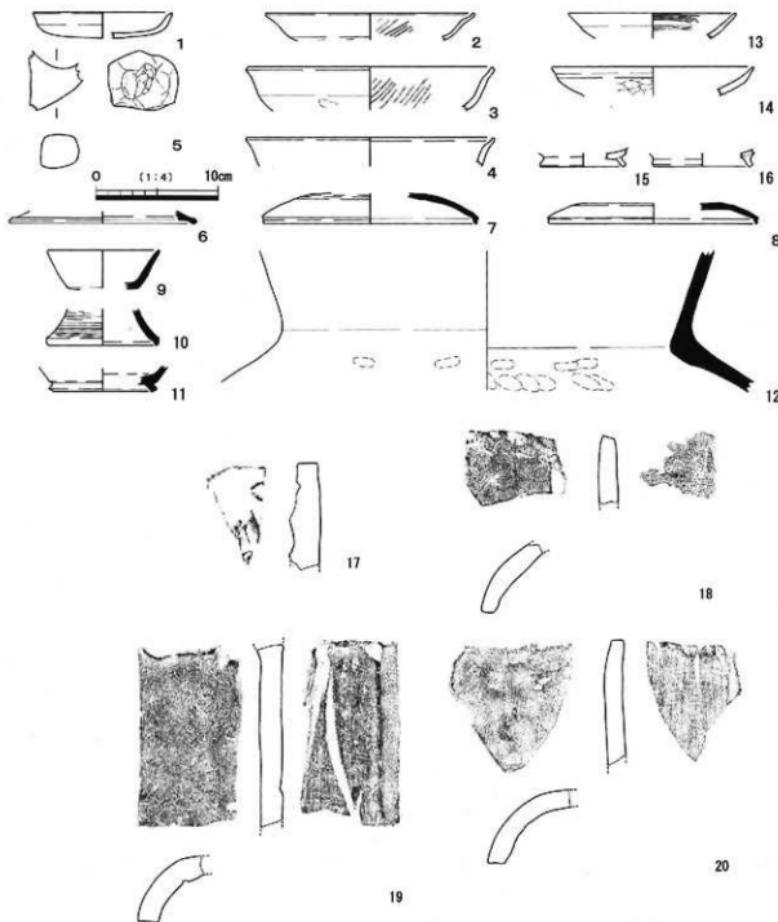
第58図 平・断面図

【地層】現地表下40cm前後(部分的には現地表下1.5m以上)までは、盛土・攪乱(0層)である。以下1.1m間において5層の基本層序を確認した。2・3層は土師器や須恵器、古代瓦を包含する整地層である。4層は粘土質シルト～シルト優勢の水成層である。3区では土壌化が進行していた。

【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。古代一土師器(1～5)・須恵器(6～12)・瓦(17～29)、中世一瓦器碗(13～16)。

2・3区の2・3層内より、古代～中世によく土師器や須恵器、古代瓦がコンテナ3箱分出土した。1～5は土師器である。1は皿で、内・外面ともにナデ調整で仕上げる。2は牛角状の把手である。3～5は杯である。調整は横位ナデが主体であるが、3は体部下位～底部に横位ケズリを施す。4の内面には、放射状にミガキを行った可能性が高い。6～12は須恵器である。この内6～8は杯蓋である。6は口縁端部内面付近にかえりを有する個体で、かえりは口縁端部より下方に伸びる。7・8は口縁端部を下方に拡張する個体で、天井部が若干丸みを持つ個体(7)と、扁平な個体(8)に区分できる。9は杯で、底部外面の回転ヘラケズリ以外は回転ナデを施す。10は低脚高杯の脚部と推測される。外面上にはカキ目を施す。11はハの字状の高台を有する盃、12は大型の甕である。13～16は瓦器碗である。この内13は内面に横位ミガキを密に施す個体である。15・16は高台部。いずれもハの字状に開く高台を持つ。17は軒丸瓦。細片のため詳細は不明であるが、瓦当厚は比較的薄い。18～20は丸瓦。いずれも狭端部付近の細片で、凹面には布目痕が残る他、外面上には網目タタキ後ナデ調整を行う。狭端面や側面は縦位ケズリを施す。21～29は平瓦。21～23は凸面有軸綾杉文タタキ平瓦の広端面付近細片である。凹面には糸切り痕が認められる。この内23の側面には分割破面が残り、桶巻作りであることが分かる。凸面のタタキ原体には範傷が認められ、二種類のタタキ原体を用いていたことが明らかになった。この内22は、これまでに東郷廃寺や渡川廃寺で出土した個体と同一原体である(樋口2007)が、21は異なる。7世紀中葉～8世紀初頭の所産である。24～29は凸面綾日タタキ平瓦である。凹面には糸切り痕や布目痕が認められる。この内25の側面には凹面から連続する布目痕が確認できたことから、製作技法が一枚作りであることが明らかになった。一方26は、側面に分割破面が見えることから、桶巻作りであることが分かる。

(2)まとめ：今回の調査地周辺では、北西約50mの地点で市教委による調査(猪1995)が行われ、6～10世紀の寺院に関する可能性の高い溝や小穴を検出し、東郷廃寺の存在を肯定する成果を得た。今回の調査でも、2・3層整地層内より土師器や須恵器とともに凸面綾日タタキ平瓦や、凸面有軸綾杉文タタキ平瓦が出土した。この結果、当該期の寺院遺構が検出される可能性の高い範囲が、南東にも広が

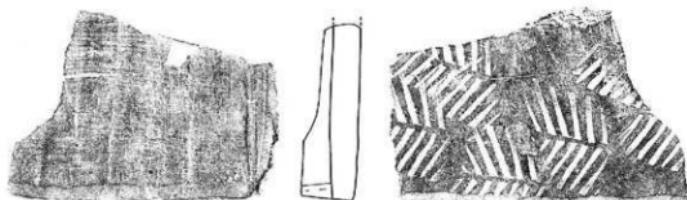


第59図 出土遺物実測図（1）

ることが明らかになった。一方、今回の調査でも、伽藍配置や建立氏族の解明については、明らかにする成果を得ることはできなかった。しかしながら、凸面有軸綾杉文タタキ平瓦の製作技法や范傷の存在からは、波川廃寺や淡路島志筑廃寺との密接な関係が推測（種口2007）できる。当平瓦が東郷廃寺の抱える多くの問題を解決に導く鍵となる可能性を指摘しておきたい。

参考文献

- ・種口 喜 2007「古代中期内と淡路島-瓦からみた交流」『河内どんこう』№82 NPO法人やまと文化協会
- ・道 杰 1995「第4節 出土瓦について」『東郷廃寺発掘調査報告』八尾市文化財記要7』八尾市教育委員会



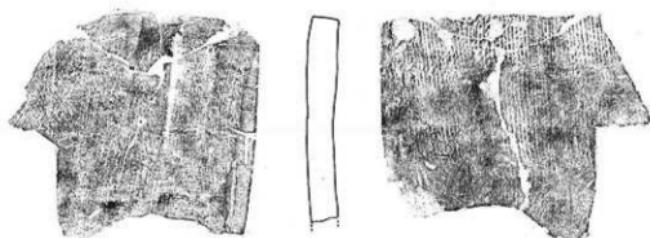
21



22

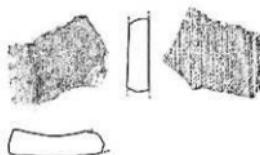


23

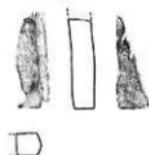


24

0 (1:4) 20cm

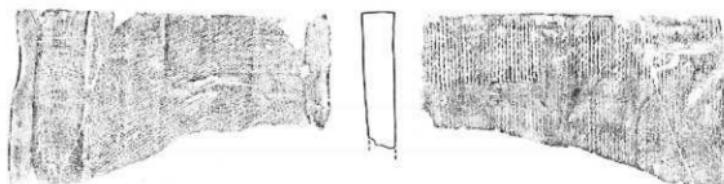


25

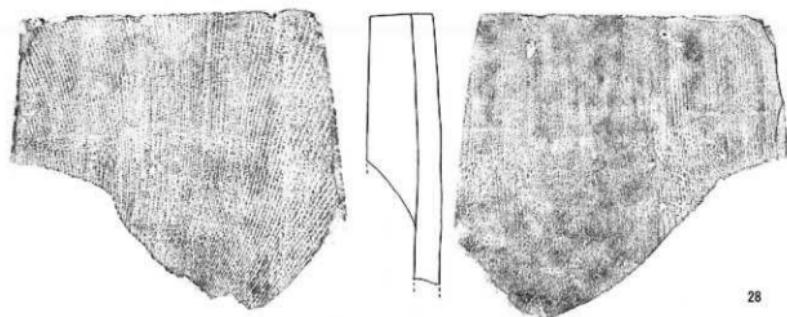


26

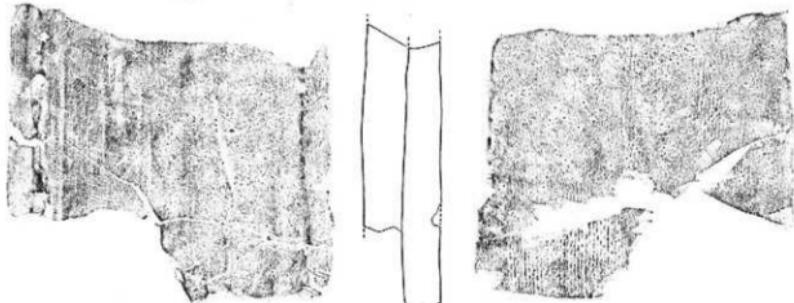
第60図 出土遺物実測図（2）



27



28



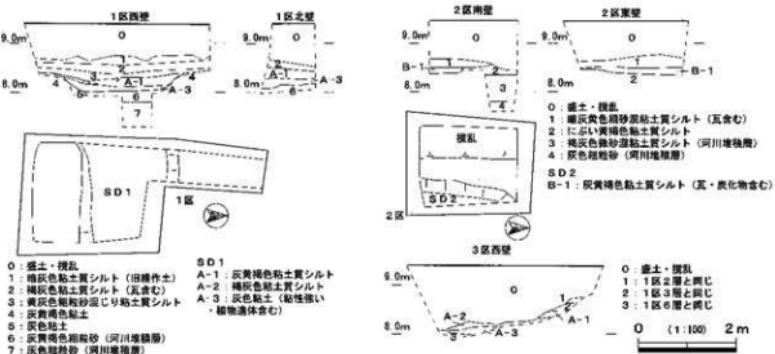
29



第61図 出土遺物実測図（3）

13) 中田遺跡(2008-378)の調査

(1) 調査概要: 平面規模約 $2.5 \times 2.9m$ (更に $2.0 \times 1.0m$ の拡張部が付属)面積 $9.25m^2$ 1ヶ所(1区)、 $2.5 \times 2.0m$ 、面積約 $5.0m^2$ 1ヶ所(2区)、 $3.8 \times 1.0m$ 、面積 $3.8m^2$ 1ヶ所(3区)の計3ヶ所について、現地表(T.P.+9.4m前後)下 $2.0m$ 前後までを調査した。なお当調査は本来 $2.0 \times 2.0m$ 、2ヶ所であったが、遺構を検出したため、調査区の拡張・追加を行い、前述の状況となった。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地西側の中田第一公園内:T.P.+9.6m)である。



第62図 断面図

【地層】現地表下 $0.6\sim0.8m$ まで盛土・擾乱(0層)である。ただし2区西側や3区など建物が建つていた部分は $1.3m$ 前後まで擾乱が及ぶ。1区では0層以下 $1.4m$ の間で7層の層序を確認した。2・3層及びSD 1埋土上層(A1)は多くの瓦片を包含する。4層は遺構のベース面(T.P.+8.4m)となる灰黄褐色粘土層である。2区は0層以下 $1.2m$ の間で4層の層序を確認した。1層は瓦を含む包含層で、1区の2層と対応する可能性がある。2層は遺構のベース面(T.P.+8.5m)となるシルト層で、1区の4層と対応する。3区は1区で検出したSD 1の延長を確認するために設定した調査区である。擾乱が深かつたが、かろうじてSD 1の底(A1~A3層)を確認し、当地点より東にSD 1が続くことを確認した。

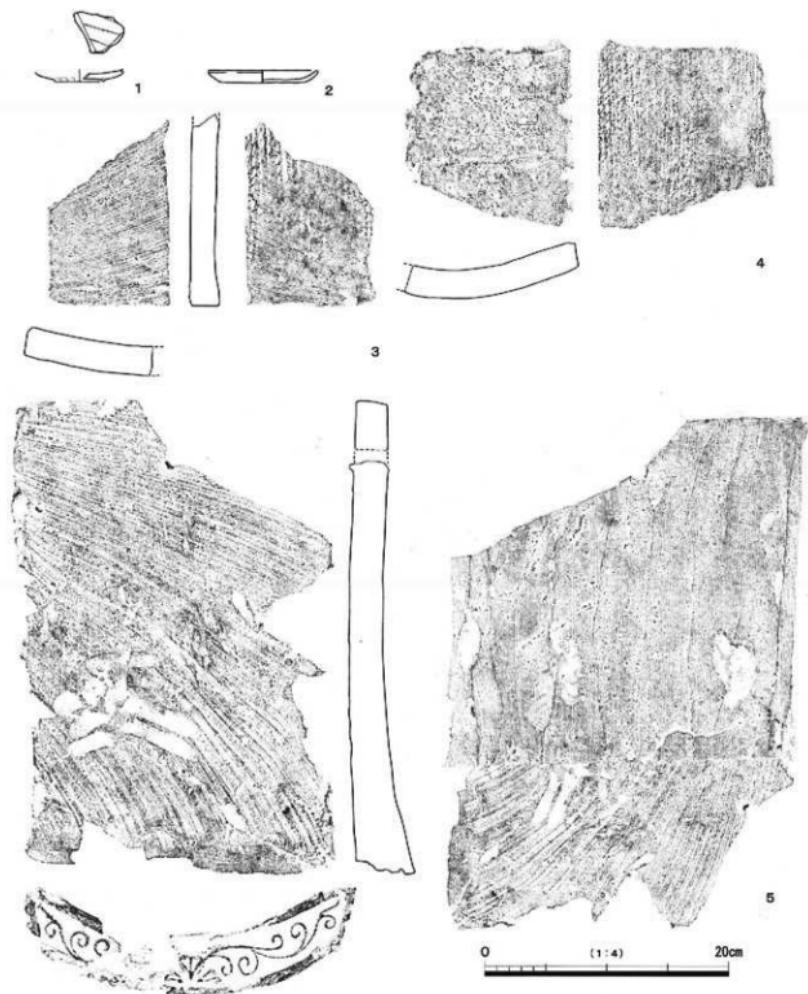
【検出遺構】中世一溝2条(SD 1・2)。

SD 1は1・3区で検出した東西方向の溝である。幅2.2m・深さ30cmを測り、両調査区を縫いだ総延長は13m以上となる。埋土は1区で2層、3区で3層に分かれる。A1層は粘質シルト層で、多くの瓦・若干の土器を包含する。A2・3層は粘性の強い粘土層で、植物遺体を含む。溝の開削後、緩やかに埋没していった時期があったようである。SD 2は2区で検出した南北方向の溝で、長さ $2.0m$ 以上・幅50cm以上・深さ15cmを測る。検出部分ではSD 1より浅いが瓦を含むなどの状態が似ており、互いに関連する遺構と考えられる。

【出土遺物】中世一瓦器・上師器・陶器・須恵質土器・上師質土器・瓦質土器・瓦。

1区2・3層一瓦器(1)、上師器(2)、瓦(3~6)。

1は瓦器柄である。断面三角形状の低い高台をもつ。内部見込みに平行線状暗文を施す。炭素が吸着しておらず、器表面は灰白色を呈する。2は上師器皿である。3・4は平瓦である。3は両面にコピキAが認められ、凸面は綿タタキ痕が一部残る。4は凹面に布目痕が認められ、凸面に綿タタキを施す。5は軒平瓦である。瓦当文様の中心飾りは半裁菊花文で、両側に唐草文を描く。狭端部中央の端から5cmの位置に直径1cmの釘穴を1個穿つ。また、狭端部凹面側の端から4cmの位置に、外側へ斜め方向に穿たれた直径0.6cmの穴も認められる。凹面側はコピキAと布目痕が認められ、凸面側はナデを施す。

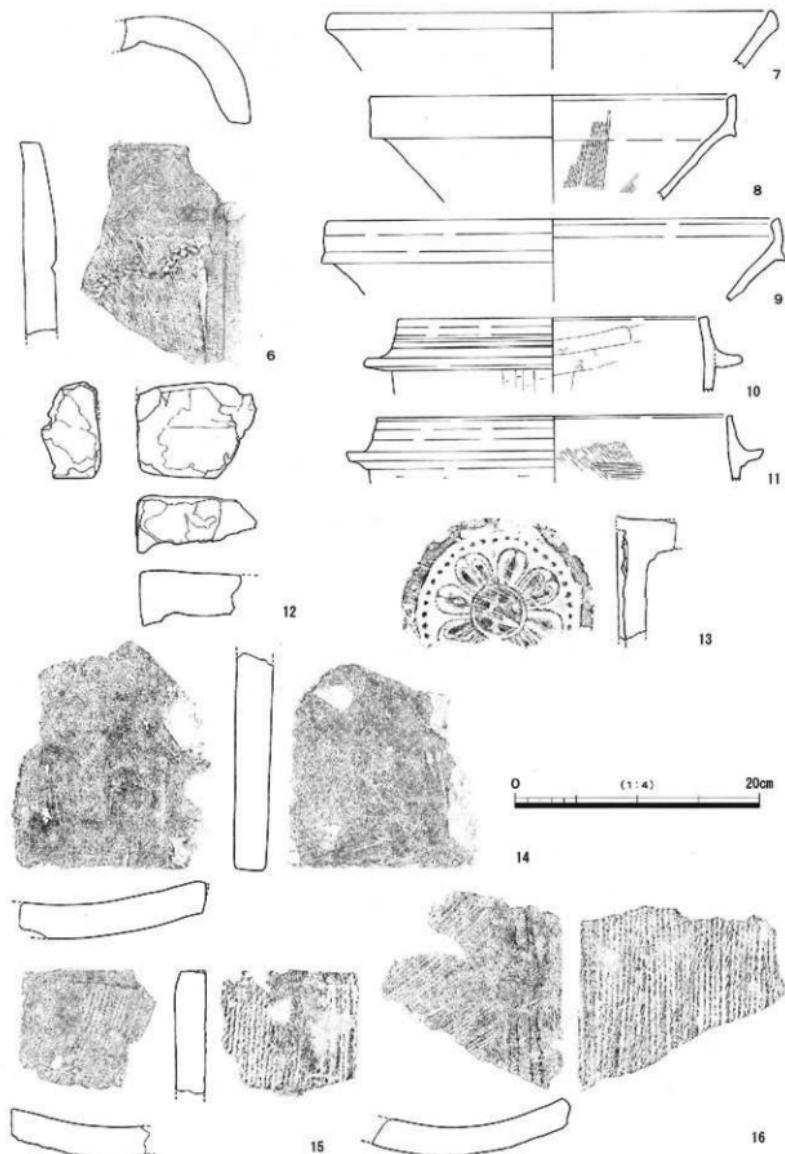


第63図 出土遺物実測図（1）

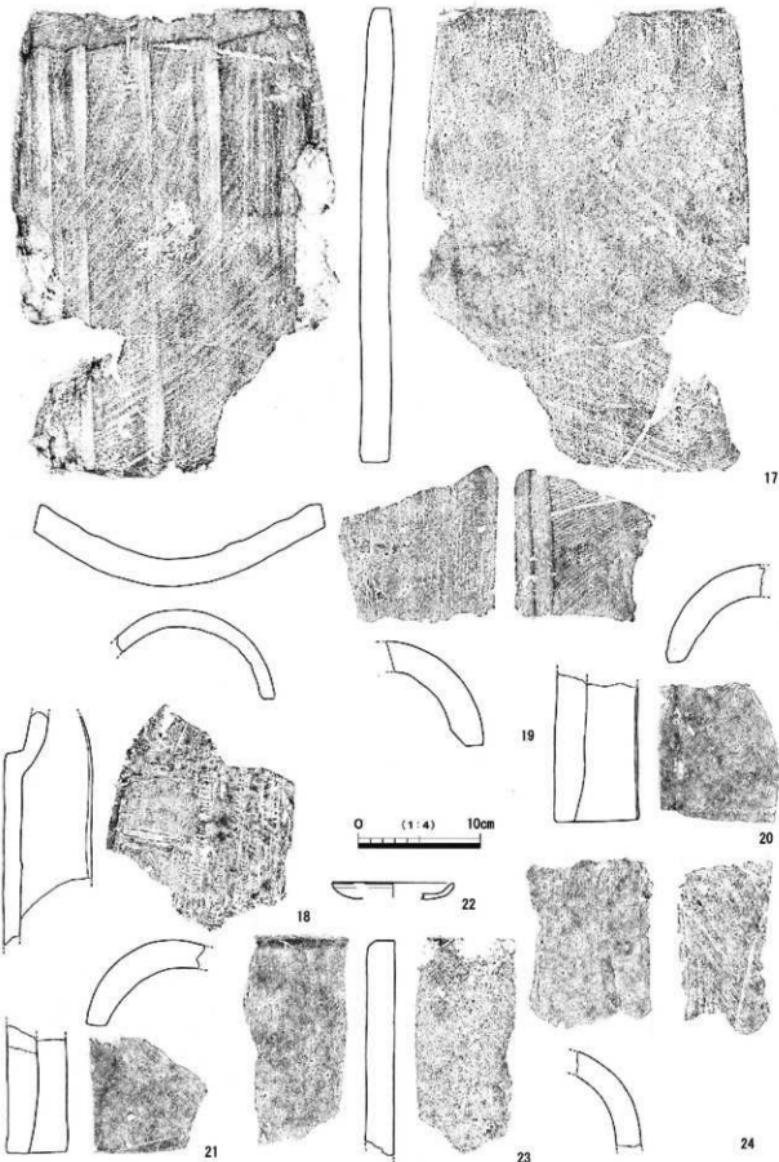
側面は凹面側に面取りを施す。6は丸瓦である。凹面に吊り紐痕と布目痕が認められる。吊り紐の上側は布目痕が認められる。凹面の側面・広端面及び凸面は全体にナデを施す。

SD 1-須恵質土器(7)、備前焼(8・9)、土師質土器(10)、瓦質土器(11)、瓦(12~21)。

7は東播系鉢である。口縁端部を上方に拡張する。端部外面に輪がかかる。第Ⅱ期第2段階に相当する。8・9は備前焼播鉢である。8は口縁部を上下に拡張する。播目は10条1単位(幅3.3cm)が2組残存する。9は播目は残存しない。口縁部に沈線状のくぼみをもつ。10・11は羽釜である。10は土師質、



第64図 出土遺物実測図



第65図 出土遺物実測図

11は瓦質である。しかし、器形・調整は共通しており、口縁部外面に3条の回線を施し、体部はケズリを施す。鍔は短く水平に延びる。森島分類のF型式に分類できる。8～11は15世紀後半頃に比定できる。12は壺である。瓦質焼成である。3面が残存する。各面ともナデを施す。裏面にユビナデを施しており、中空の壺であったのか、接合した部分から剥離した可能性がある。13は軒丸瓦である。瓦当文様は単弁複弁八葉蓮華文で、周間に珠文をもつ。芯は摩滅が進んでいるよう、文様が蓮子などは不鮮明になっている。凸面はナデを施し、凹面に布目痕が認められる。14～17は平瓦である。14は両面にコビキAがわずかに認められる。15は凹面狭端部に面取りを施す。凹面にコビキAと布目痕が認められ、凸面に繩タキを施す。16は凹面にコビキAと布目痕が認められ、凸面に繩タキを施す。17は凹面にコビキA・布目痕・模骨痕が認められる。凸面に繩タキを施す。凹面狭端部に面取りを施す。18～21は丸瓦である。18は玉縁が一部残存する。凹面に布目痕が認められる。凸面はナデを施す。19は凹面にコビキAと布目痕が認められ、凸面にナデを施す。凹面側の側面に面取りを施す。20・21は凹面にコビキAと布目痕が認められ、凹面の側面・広端面及び凸面は全体にナデを施す。

その他凶化できなかったが、白磁四耳壺の小片が出土している。

S D 2 - 上土器皿(22)、瓦(23・24)。

22は土師器皿である。口縁端部はわずかにつまみ上げる。23は平瓦である。凹面はナデを施し、端部は凹面側を丸く面取りを施す。凸面は離れ砂が多量に付着する。24は丸瓦である。凹面はコビキAと布目痕が認められる。凸面はナデを施す。

(2)まとめ：今回の調査では東西方向と南北方向の溝それぞれ1条を検出した。溝は区画溝として掘削された可能性があり、溝の中に多くの瓦を含むことから、周辺に瓦葺きの建物が存在した可能性が高い。調査地の字が「寺ノ内」であり、瓦の出土と併せて考えると、この場所には寺院が存在していたと考えられる。出土遺物の年代から12世紀後半～13世紀初頭頃に建てられ、15世紀後半頃に廃絶したと考えられる。周辺で溝の延長や関連する遺構を確認できれば、その実態が明らかとなってくるであろう。

参考文献

- ・森島義雄1990「中村内の羽釜」『中近世土器の基礎研究VI』日本中世土器研究会
- ・日本中世土器研究会1995『概説 中世の土器・陶器』真駒社
- ・市本芳三「第3章 日岡庄道跡出土瓦の分析」『日岡庄道跡』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- ・重根弘2002「第4章 まとめ」『近古窯跡』岡山県教育委員会
- ・福 善2002「IV 小田道跡第48水調査 3. 2)中河内における中村集落の成立と変遷」『(財)八尾市文化財調査研究会報告73』(財)八尾市文化財調査研究会

14) 西郡遺跡(2008 - 289)の調査

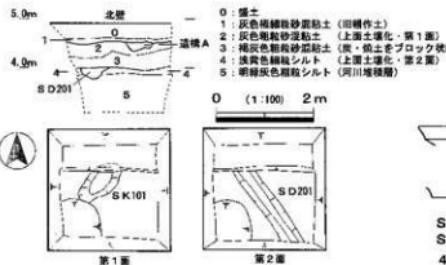
(1)調査概要：平面規模約2.5×2.5m、面積約6.25m²について、現地表(T.P.+4.9m前後)下1.8m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南東側道路上：T.P.+5.9m)である。

【地層】現地表下30cmまでは盛土(0層)である。以下1.5mの間において5層の基本層序を確認した。2層上面は土壤化している。中世～近世の遺構を検出した(第1面・T.P.+4.5m)。3層はブロック状に炭・焼上を含む。4層上面は土壤化している。古代の遺構を検出した(第2面・T.P.+4.0m)。

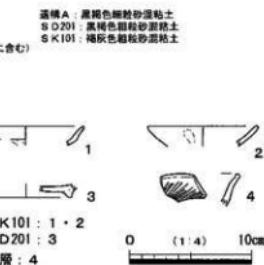
【検出遺構】中世～近世一十坑1基(S K101)。不明造構1基(造構A)。古代一溝1条(S D201)。

S K101は平面形状が梢円形を呈し、長径1.0m・短径60cm・深さ15cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。中世後半頃の土師器小皿(1・2)が出土した。造構Aは壁面で確認した。深さ20cmを測る。

S D201は南東～北西に直線に伸び、幅40cmを測る。断面形状は逆台形で深さ20cmを測る。古代の



第66図 平・断面図



第67図 出土遺物実測図

土師器碗(3)が出土した。

【出土遺物】中世-土師器小皿(1・2)、古代-土師器碗(3)・土師器皿(4)。

1は口縁部が外反し、尖りぎみに丸く收める。口縁部内外面にヨコナデ、底部内外面にユビナデを施す。2は口縁部が内湾し、丸く收める。口縁部内外面にユビナデを施す。3は「ハ」の字にひらく断面逆台形の貼り付け高台をもつ。底部内外面はユビナデを施す。4は口縁部がゆるやかに外反する。端部は内側に丸くつまみ出す。口縁部内面はヨコナデ後、放射状暗文を施す。外面はヨコナデを施す。

(2)まとめ: 今回の調査では中世～近世および古代の遺構を確認した。北東30mの地点に萱振遺跡第16次調査地が位置する。この調査では古墳時代初頭後半～近世に至るまでの遺構・遺物を検出しており、今回の成果により集落城が南側に広がっていることが判明した。

参考文献

・原田昌則2007「1 萱振遺跡第16次調査」「(財)八尾市文化財調査研究会報告95」「(財)八尾市文化財調査研究会」

15)八尾寺内町(2008-152)の調査

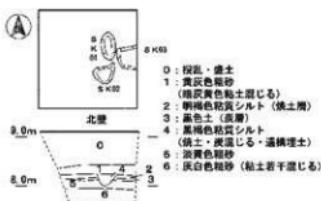
(1)調査概要: 平面規模約2.0×2.0m、面積約4.0m² 1ヶ所について、現地表(T.P.+9.1m前後)下1.8m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地南側を東西に伸びる山道中央:T.P.+9.2m)である。

【地層】現地表下70cm前後までは盛土(0層)である。以下80cmの間において6層の基本層序を確認した。2層は厚さ6cmの焼土層(T.P.+8.2m)、3層は厚さ5cm程の炭層(T.P.+8.14m)である。検出は3層を除去した段階で行ったが、断面観察により、遺構の切り込み面は2層上面と判明した。

【検出遺構・出土遺物】近世-土坑3基(S K01～03)。

S K01～03は、幅30～50cm程度・深さ20cm程度の土坑で、埋土に炭・焼土を多く含む。壁面でも同様の遺構を確認した。2・3層は火災とそれに伴う整地層と考えられ、近世の八尾寺内町に関連する遺構と考えられる。今回の調査では遺物は出土していない。

(2)まとめ: 今回の調査では、地表下1.0m(T.P.-8.2m)で焼土層・炭層を検出し、これを切り込む遺構を確認した。断面でも同様の遺構を確認しており、周辺に同様の遺構が広がっていると考えられる。



第68図 平面・断面図

16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、面積 6.25m^2 6ヶ所、約 $3.5 \times 3.5\text{m}$ 、面積 12.25m^2 1ヶ所の計7ヶ所について、現地表(T.P.+10.1~10.3m)下2.2~3.5mまでを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北東部に位置する交差点中央:T.P.+10.0m)である。

【地層】現地表下1.2m前後までは盛土(0層)である。以下2.3mの間において7層の基本層序を確認した。1層は旧耕作土である(T.P.+8.7~9.1m)。1・3・5・6区で確認できた。2層(T.P.+8.5~8.9m)は搅拌されており近世頃の耕作土であろう。3層以下(T.P.+8.5~8.7m以下)は水成層である。3層の細粒砂～中砂層は河川堆積で、6区で最も深く(T.P.+8.1m)、一時期の流心付近にあたると考えられる。7区では浅くなっているため、概ね南北方向の流向と考えられる。この河川の河床となる4層は粘性の強い粘土層で、最大層厚は3区で約1.0mを測る。以下は砂・粘土の互層状堆積が続く。

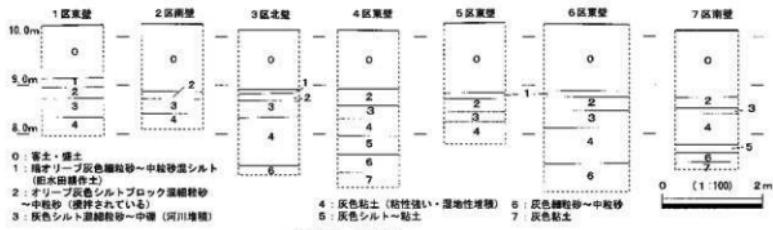
【検出遺構・出土遺物】ともになし。

(2)まとめ：調査では近世頃と考えられる耕作土層、及びそれ以下の河川堆積を確認した。3層の河川は、北側・東側の調査地で確認されている古墳時代後期～古代の河川に相当すると考えられる。

東側の植松南遺跡第1次調査ではT.P.+7.0mで古墳時代前期、T.P.+8.0mで古墳時代後期以降、T.P.+8.7mで奈良時代の遺構を検出しているが、これらの集落域は当地までは広がらないと考えられる。

参考文献

- 森木めぐみ 1998「4. 植松南遺跡第1次調査」『平成9年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会



第69図 断面図

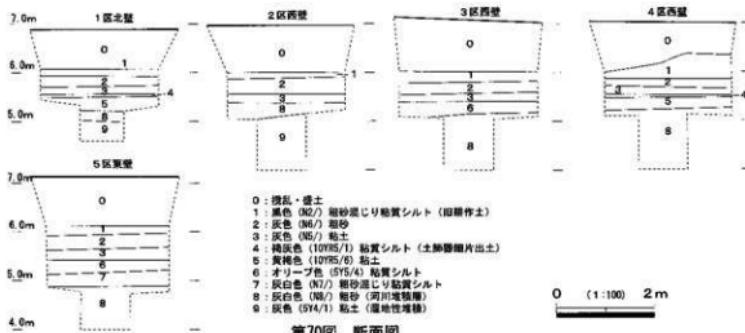
17) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-95)の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $3.0 \times 3.0\text{m}$ 、面積約 9.0m^2 5ヶ所について、現地表(T.P.+7.0m前後)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地東部を南北に伸びる府道中央:T.P.+6.8m)である。

【地層】現地表下0.9~1.0m前後までは、客土・盛土(0層)である。以下2.1~2.0m間において9層の基本層序を確認した。4層(T.P.+5.6m前後)は摩滅した土器類の細片を含み、5層は安定した山を形成していたと考えられる粘土層である。4・5層は調査地北側の1・4区、6層は3・5区、7層は5区で確認した。9層は調査地西部の1・2区で確認したが、3~5区では8層の堆積が厚く確認していない。

【検出遺構・出土遺物】ともになし。

(2)まとめ：今回の調査地は美園遺跡・宮町遺跡のそれぞれに隣接する。調査地北側では安定した山を形成していたと考えられる5層を確認したが、遺構は確認できなかった。調査地東側は粗砂層が分



厚く堆積しており、流路が存在すると考えられる。

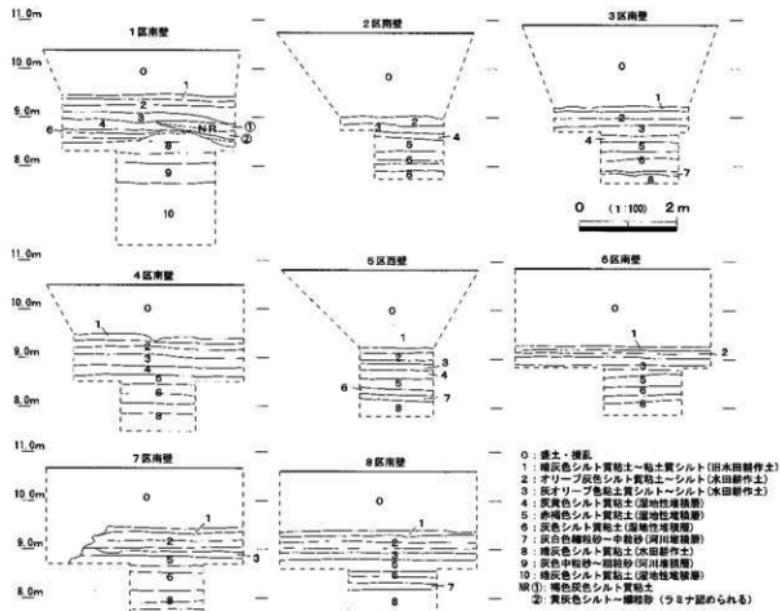
18) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-237) の調査

(1) 調査概要：平面規模約 $4.0 \times 4.0\text{m}$ 、面積約 16.0m^2 8ヶ所について、現地表(T.P.+10.4~10.9m前後)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市作成1/2500地図記載の標高値(調査地北部を東西に伸びる市道中央: T.P.+10.1m)である。

【地層】現地表下0.9~1.7m前後までは、盛土・擾乱(0層)である。以下1.3~2.1mの間において10層の基本層序を確認した。1層は旧水田耕作上(T.P.+9.2~9.4m)である。2・3層は中世以降の水田耕作上の可能性が高い。4・5層は酸化の顕著なシルト質粘土で湿地性堆積層である。1区では4層上面を切り込む自然流路(NR)を確認した。6層はグライ化の著しいシルト質粘土で湿地性堆積層である。7層は層厚10cm前後の砂礫優勢層で一時期の河川堆積層である。8層は暗色を呈したシルト質粘土で水田耕作上である。1区では、複数に細分可能で畦畔状の高まりも確認できた。9層は河川堆積層である。10層はシルト質粘土で湿地性堆積層である。

【検出遺構・出土遺物】ともになし。

(2)まとめ：今回の調査地は、10層に代表されるように、一帯が後背湿地のような地形に位置することが明らかになった。また、このような環境を基盤とした擾拌層(8層)が、調査地一帯に広く分布している可能性が高い。遺物の出土が認められなかつたため、地層の形成時期は不明であるが、概ね弥生時代以降から近世まで、生産域として利用されていたことが推測される。



第71図 断面図

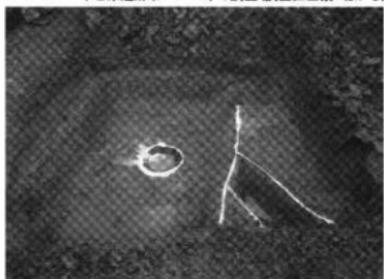
図 版



3-1) 老原遺跡(2007-383)の調査(調査区全景:北から)



3-1) 老原遺跡(2007-383)の調査(1区西壁:東から)



3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査(1区遺構完掘状況:西から)



3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査(1区東壁:西から)



3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査(2区北壁:南から)



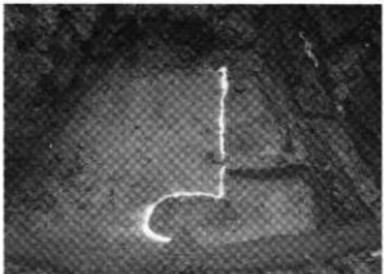
3-2) 太田遺跡(2007-360)の調査(3区南壁:北から)



3-3) 恵智遺跡(2007-460)の調査(1区南壁:北から)



3-3) 恵智遺跡(2007-460)の調査(2区南壁:北から)



3-4 東郷遺跡(2007-344)の調査(1区遺構完掘状況:西から)



3-4 東郷遺跡(2007-344)の調査(1区西壁:東から)



3-4 東郷遺跡(2007-344)の調査(2区北壁:南から)



3-4 東郷遺跡(2007-344)の調査(出土遺物)



3-5 東郷遺跡(2007-414)の調査(調査地全景:北東から)



3-5 東郷遺跡(2007-414)の調査(1区北壁:南から)



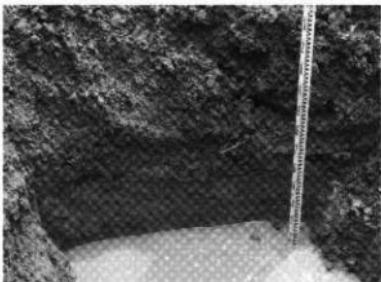
3-5 東郷遺跡(2007-414)の調査(2区北壁:南から)



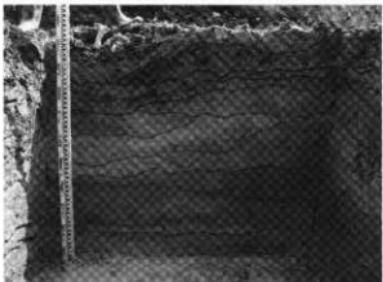
3-5 東郷遺跡(2007-414)の調査(3区北壁:南から)



3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査(調査地風景:南東から)



3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査(2区東壁:西から)



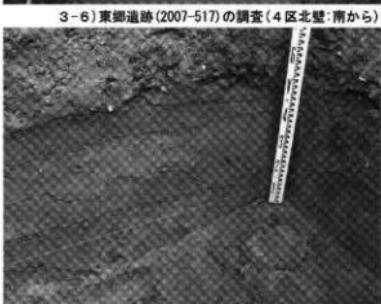
3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査(3区西壁:東から)



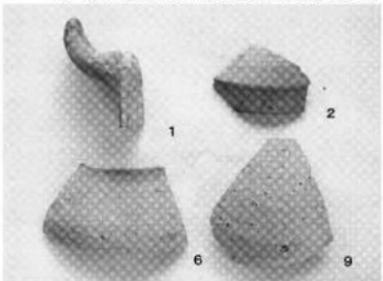
3-6) 東郷遺跡(2007-517)の調査(4区北壁:南から)



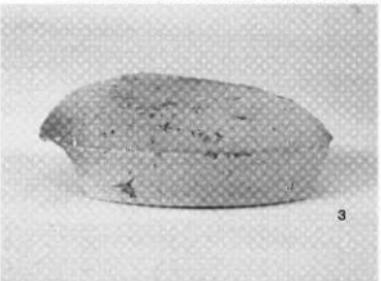
3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(1区全景:南から)



3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(1区北壁:南から)



3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(出土遺物)



3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(出土遺物)



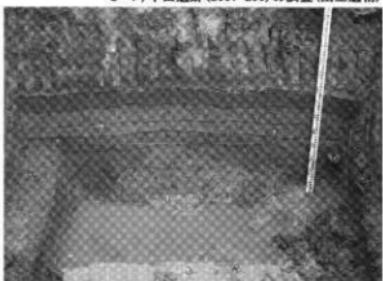
7

3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(出土遺物)



8

3-7) 中田遺跡(2007-290)の調査(出土遺物)



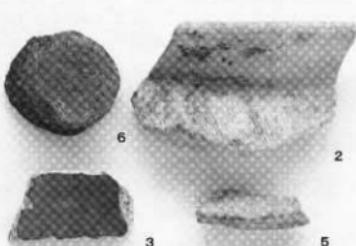
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査(1区北壁:南から)



3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査(2区南壁:北から)



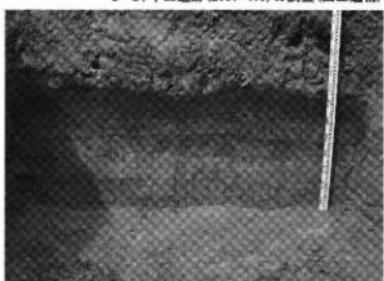
3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査(3区南壁:北から)



3-8) 中田遺跡(2007-419)の調査(出土遺物)



3-9) 中田遺跡(2007-502)の調査(1区北壁:南から)



3-9) 中田遺跡(2007-502)の調査(2区北壁:南から)



3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査(調査区全景:南から)



3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査(2区北壁:南から)



3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査(4区西壁:東から)



3-1) 莢振遺跡(2008-40)の調査(出土遺物)



3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査(第1面:東から)



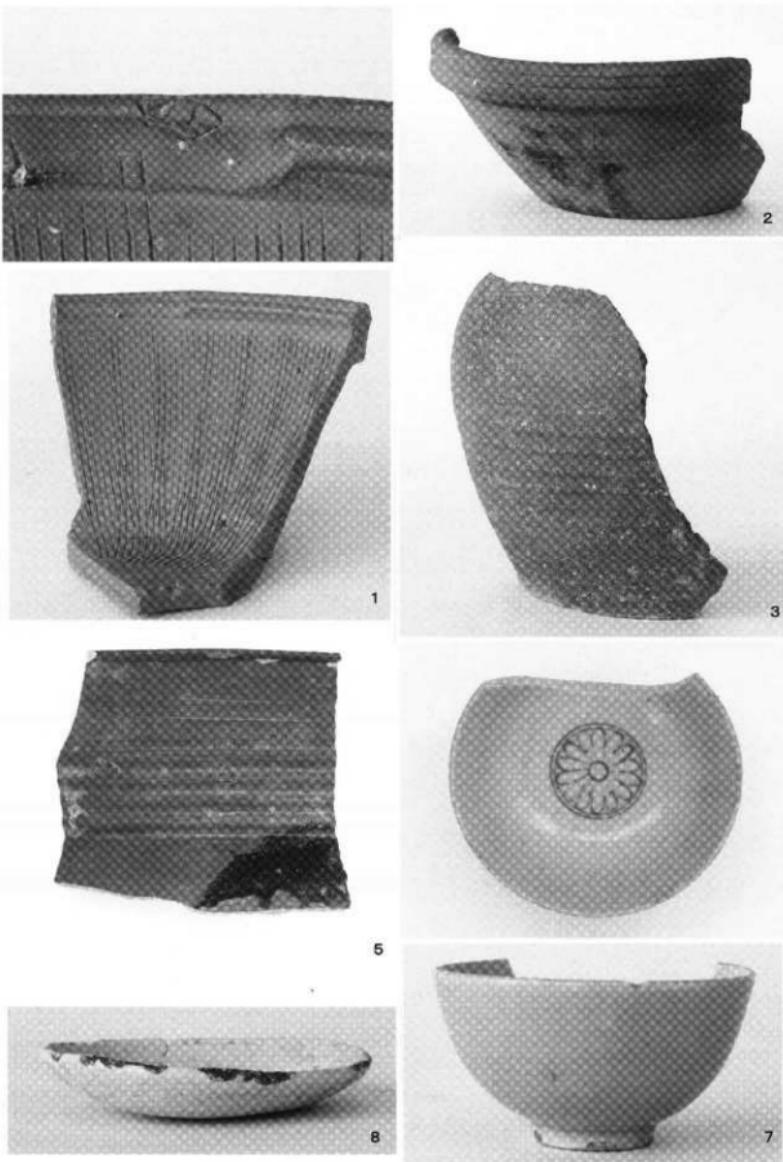
3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査(第3面:東から)



3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査(西壁:東から)



3-2) 莢振遺跡(2008-323)の調査(北壁:南から)



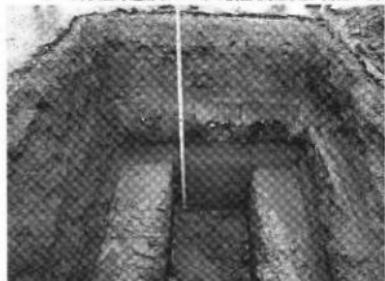
3-2) 萱振遺跡(2008-323)の調査(出土遺物)



3-3)久宝寺遺跡(2008-8)の調査(周辺状況:南西から)



3-3)久宝寺遺跡(2008-8)の調査(2区西壁:東から)



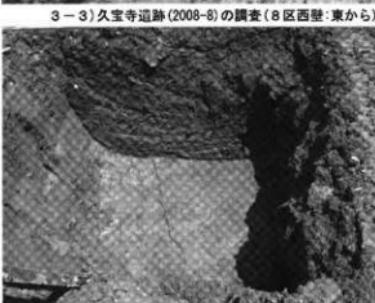
3-3)久宝寺遺跡(2008-8)の調査(7区西壁:東から)



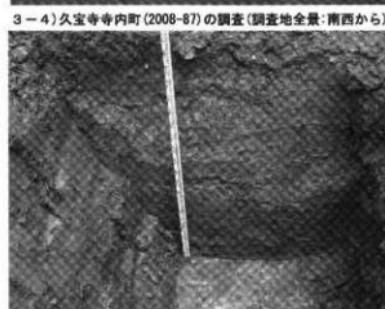
3-3)久宝寺遺跡(2008-8)の調査(8区西壁:東から)



3-4)久宝寺寺内町(2008-87)の調査(調査地全景:南西から)



3-4)久宝寺寺内町(2008-87)の調査(1区検出状況:南から)



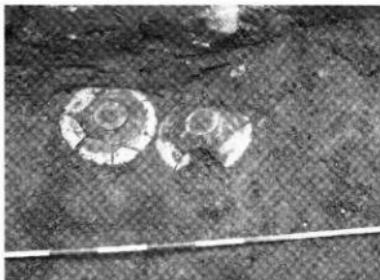
3-4)久宝寺寺内町(2008-87)の調査(1区北壁:南から)



3-4)久宝寺寺内町(2008-87)の調査(2区北壁:南から)



3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(第1面:南から)



3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(第6層上面出土状況)



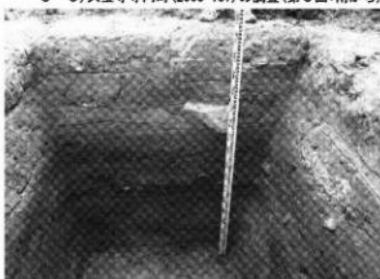
3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(第2面:南から)



3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(第3面:南から)



3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(第4面:南から)



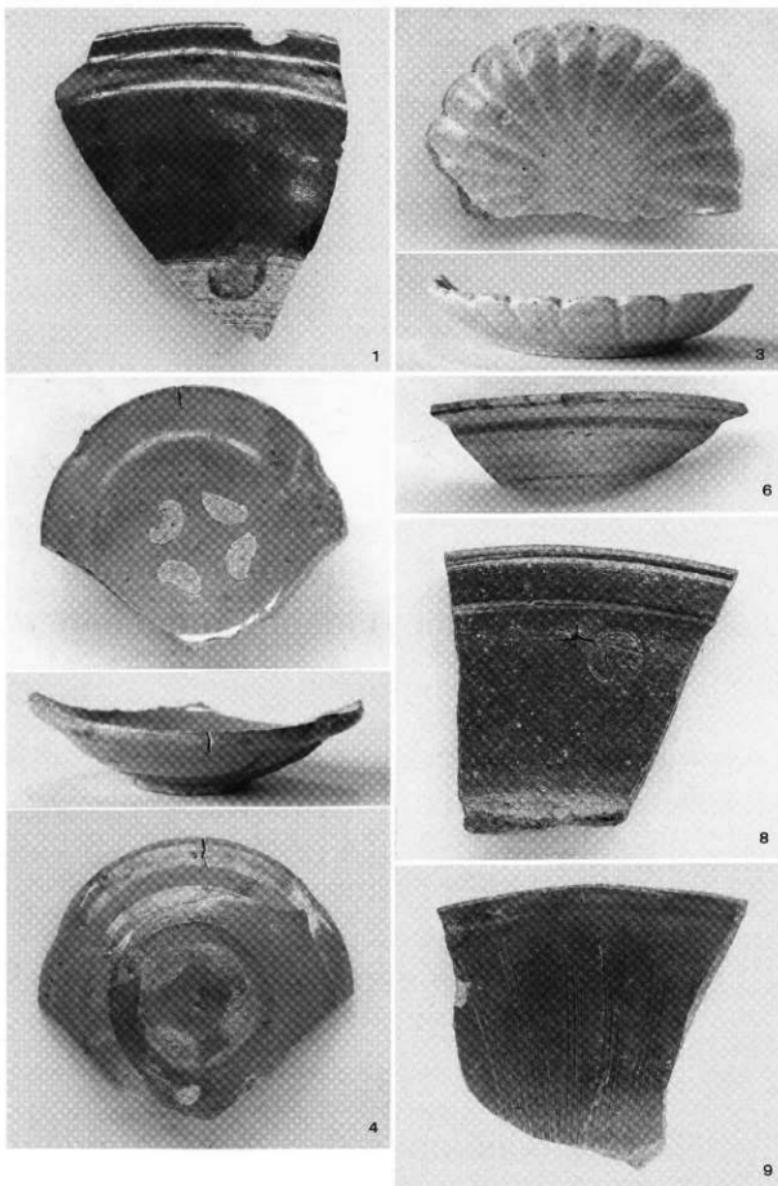
3-5)久宝寺寺内町(2008-137)の調査(南壁:北から)



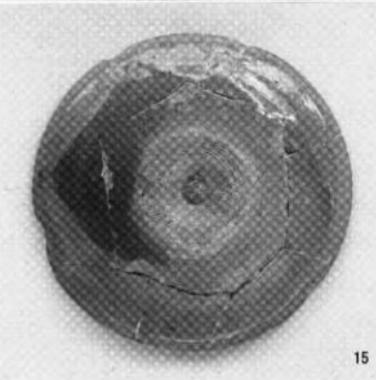
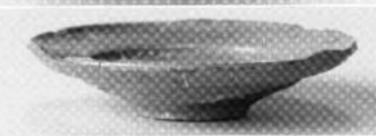
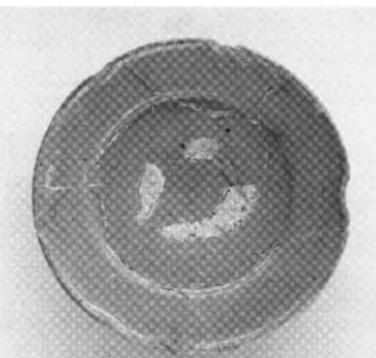
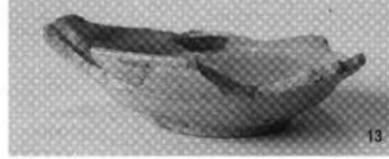
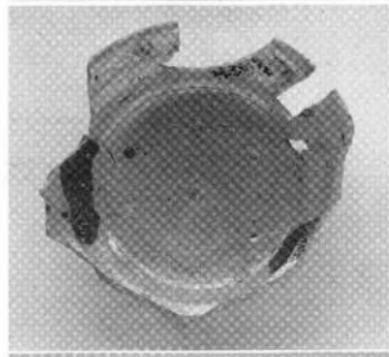
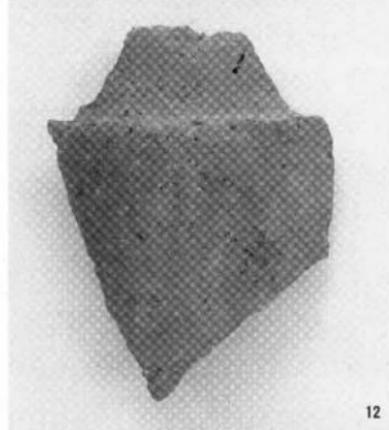
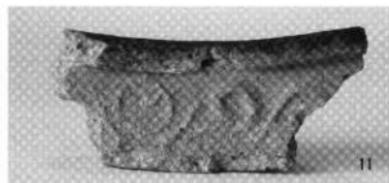
3-6)小阪合遺跡(2008-117)の調査(1区西壁:東から)



3-6)小阪合遺跡(2008-117)の調査(3区南壁:北から)



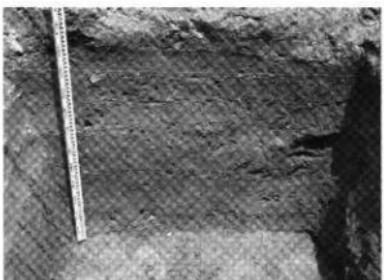
3-5) 久宝寺内町(2008-137)の調査(出土遺物 1)



3-5)久宝寺寺内町(200-137)の調査(出土遺物2)



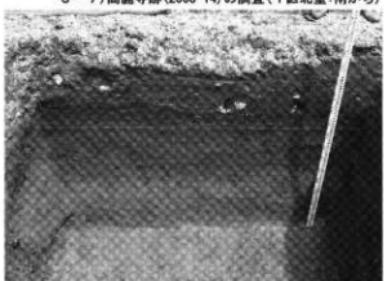
3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(調査区全景:南西から)



3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(1区北壁:南から)



3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(2区北壁:南から)



3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(3区北壁:南から)



3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(6区北壁:南から)



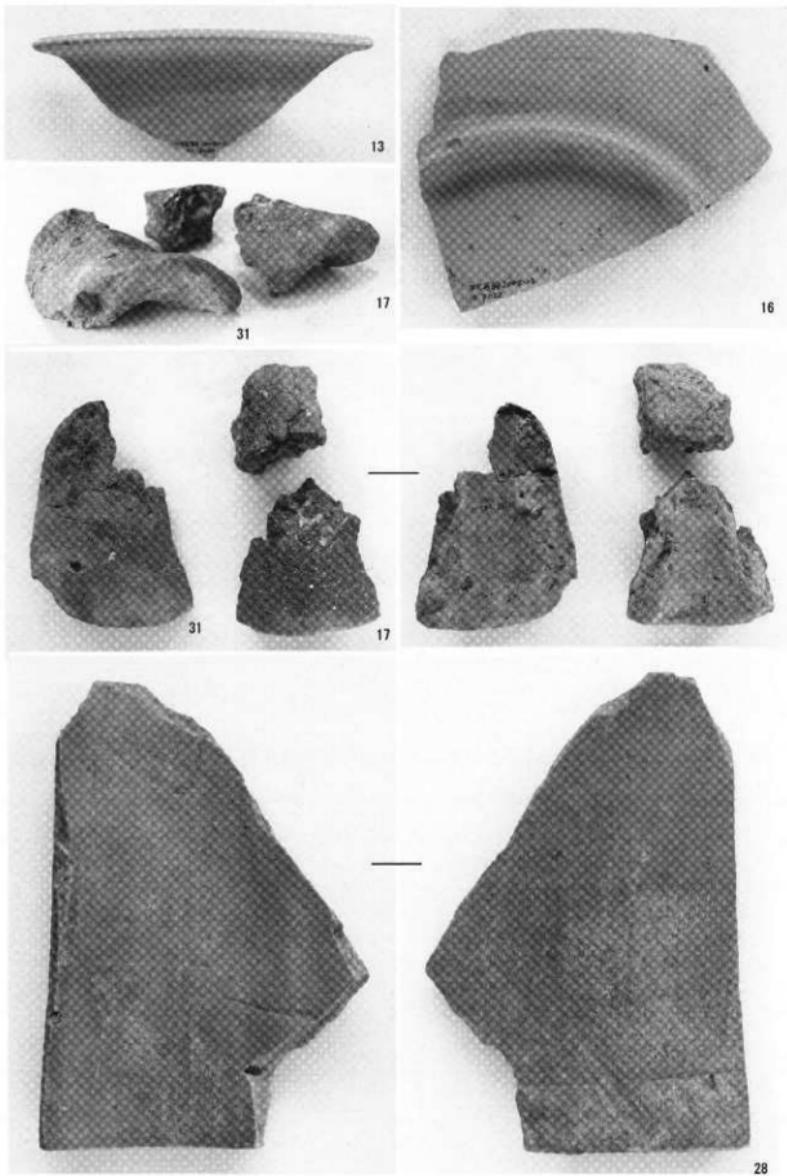
3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(7区SP2:東から)



3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(7区SP1・2:北から)



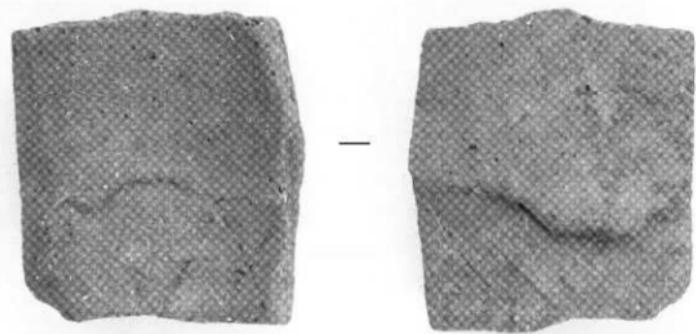
3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(8区北壁:南から)



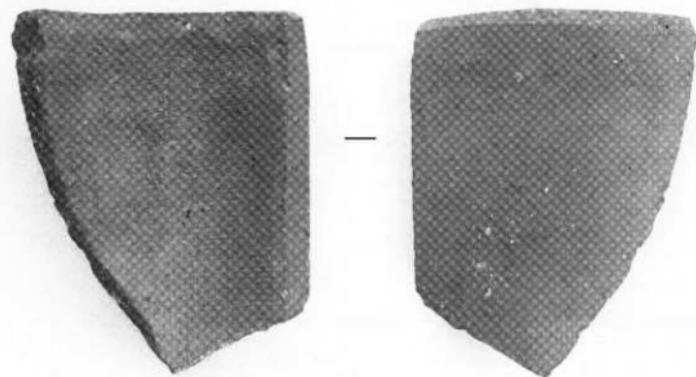
3-7) 高麗寺跡(2008-14)の調査(出土遺物 1)



20



21



23

3-7)高麗寺跡(2008-14)の調査(出土遺物2)



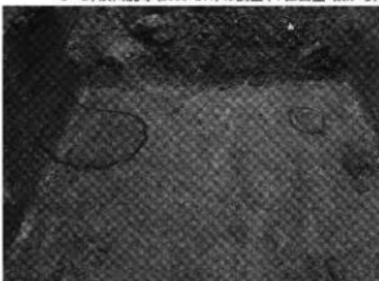
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(調査地全景:西から)



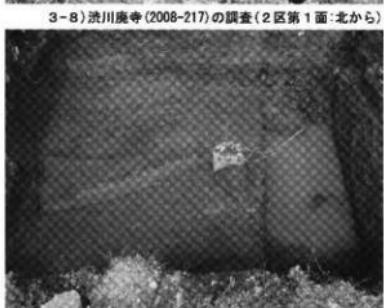
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(1区西壁:東から)



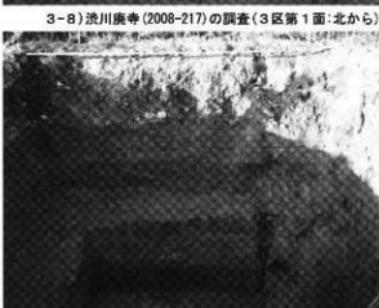
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(2区第1面:北から)



3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(3区第1面:北から)



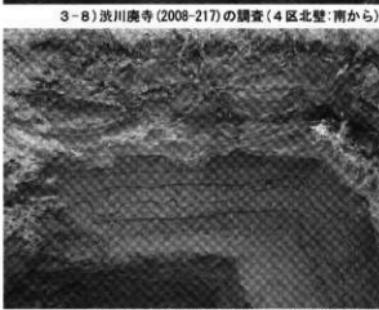
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(4区第1面:南から)



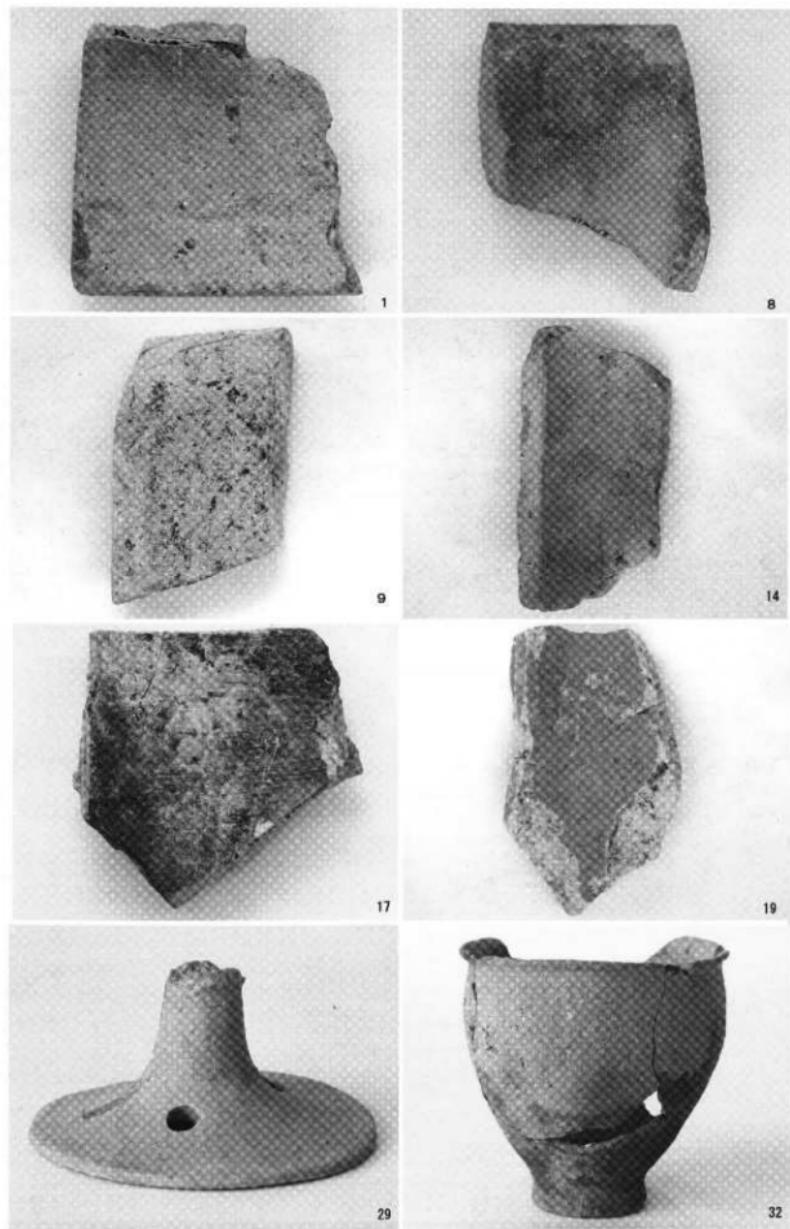
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(4区北壁:南から)



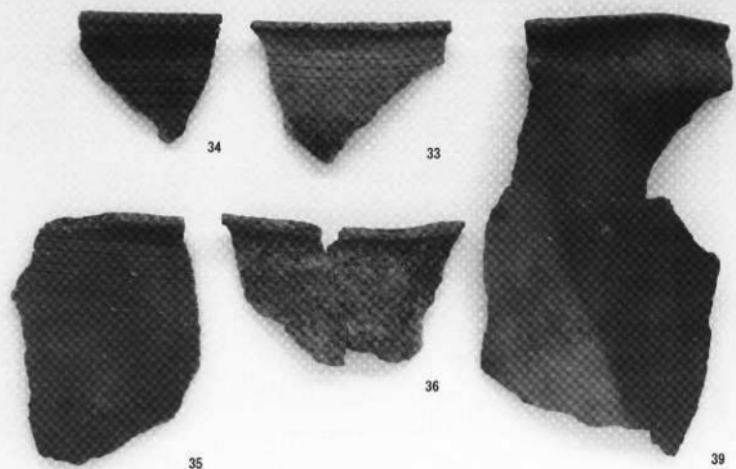
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(5区西壁:東から)



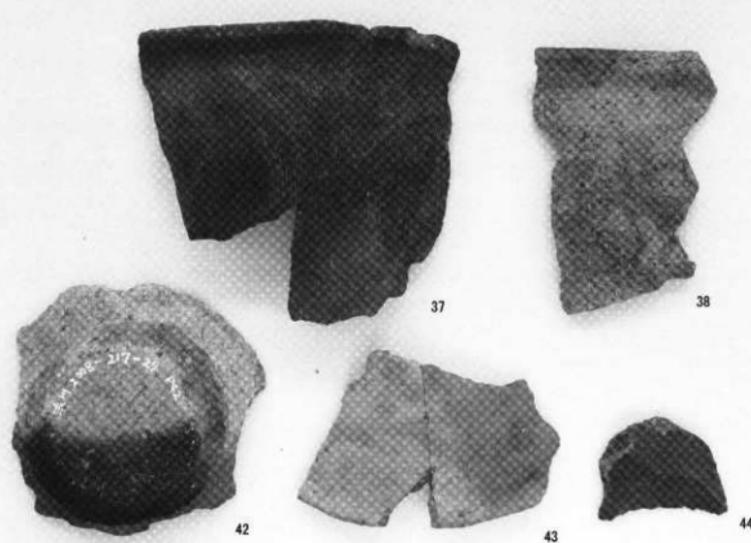
3-8) 渋川廃寺(2008-217)の調査(7区西壁:東から)



3-8) 津川庵寺(2008-217)の調査(出土遺物 1)



3-8) 渋川庵寺(2008-217)の調査(S K701出土遺物1)



3-8) 渋川庵寺(2008-217)の調査(S K701出土遺物2)



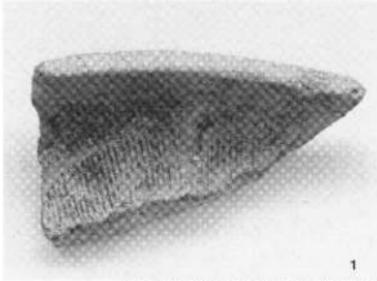
3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(調査地近景:東から)



3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(2区南壁:北から)



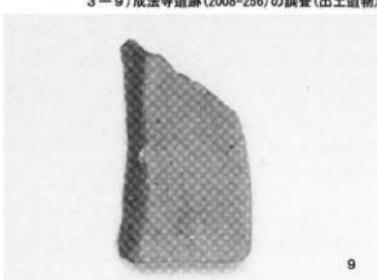
3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(1区南壁:北から)



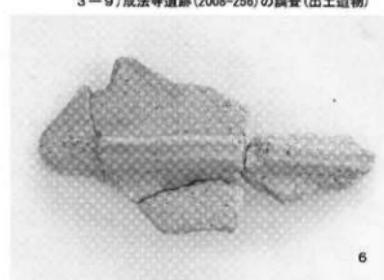
3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(出土遺物)



3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(出土遺物)



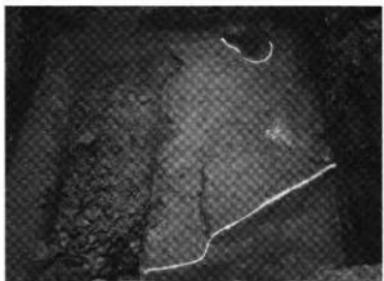
3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(出土遺物)



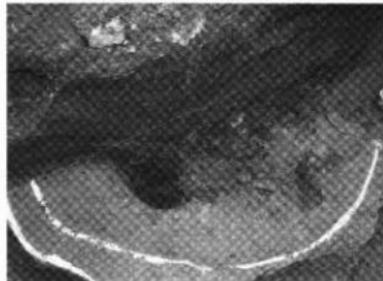
3-9 成法寺遺跡(2008-256)の調査(出土遺物)



3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(調査地全景・西から)



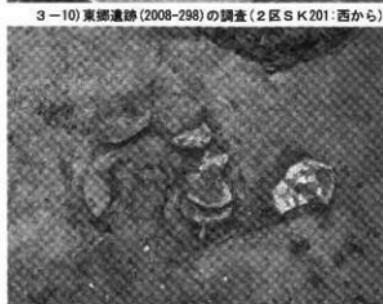
3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(1区第1面・北から)



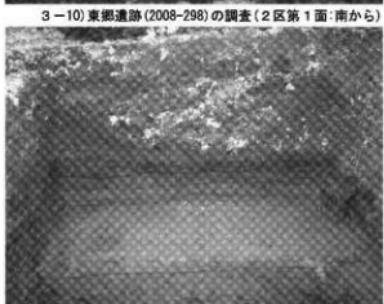
3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(2区SK201・西から)



3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(2区第1面・南から)



3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(3区遺物出土状況・西から)



3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(3区西壁: 東から)



2

3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(出土遺物)



4

3-10) 東郷遺跡(2008-298)の調査(出土遺物)



8

3-10 東郷遺跡(2008-298)の調査(出土遺物)



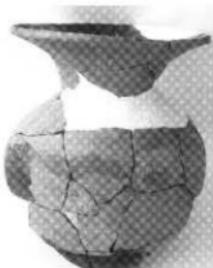
3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(調査区近景:南から)



3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(1区北壁:南から)

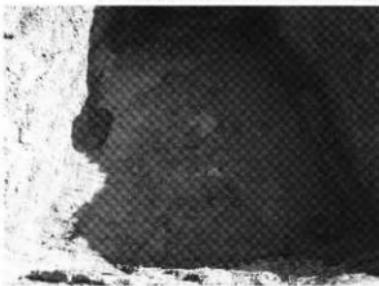


3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(2区東壁:西から)



11

3-10 東郷遺跡(2008-298)の調査(出土遺物)



3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(1区第1面:西から)



3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(2区第1面:東から)



3-11 東郷遺跡(2008-344)の調査(2区北壁:南から)



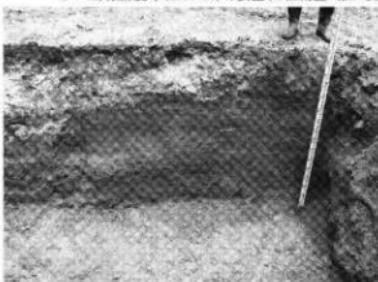
3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査(調査地近景:西から)



3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査(2区南壁:北から)



3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査(2区瓦出土状況:北から)



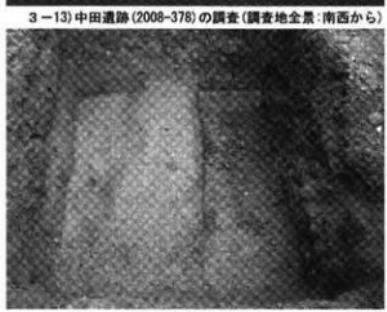
3-12) 東郷廃寺(2008-96)の調査(3区東壁:西から)



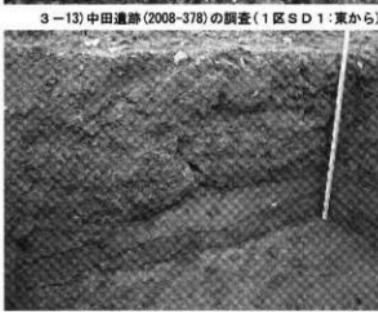
3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(調査地全景:南西から)



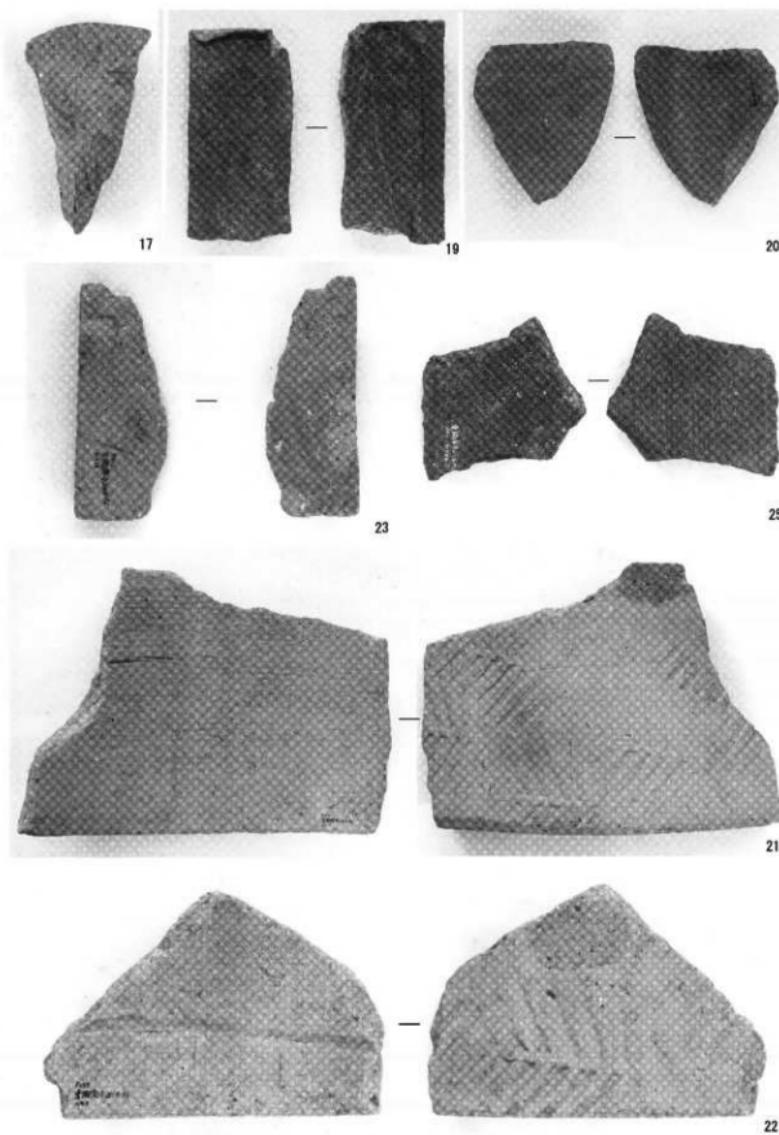
3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(1区S D 1:東から)



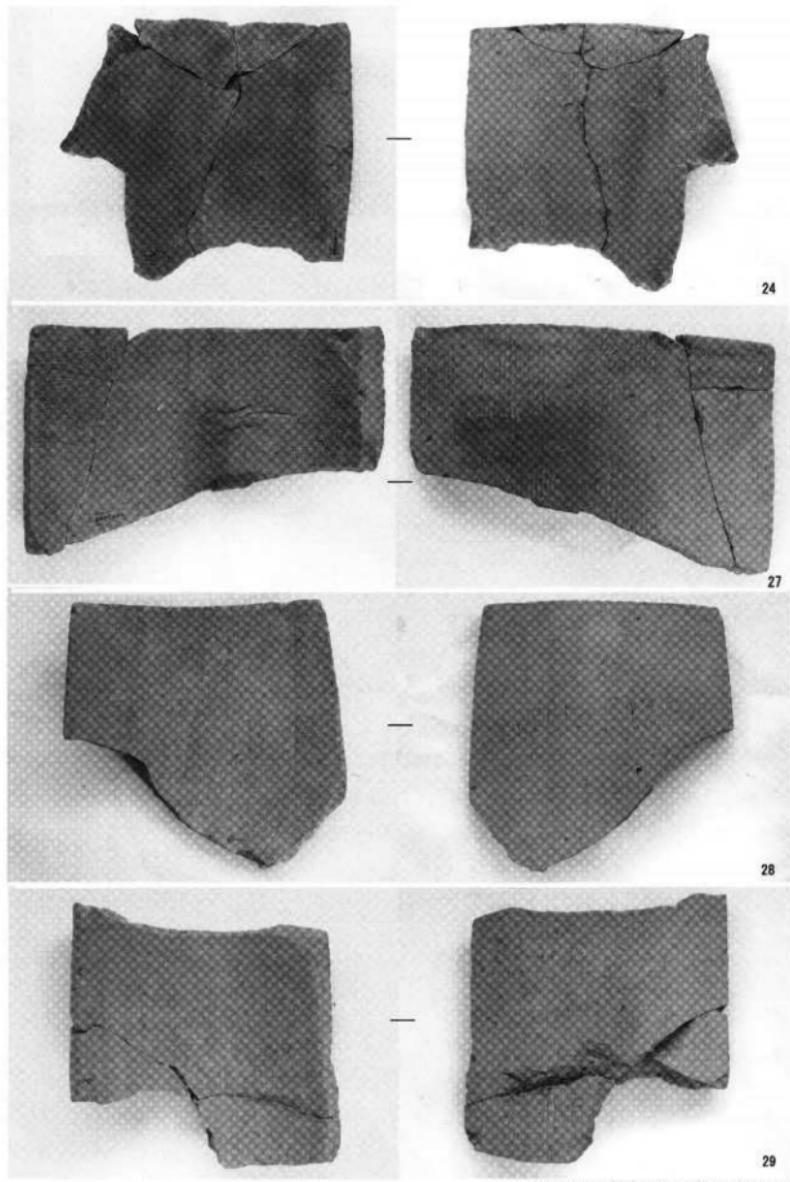
3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(2区S D 2:北から)



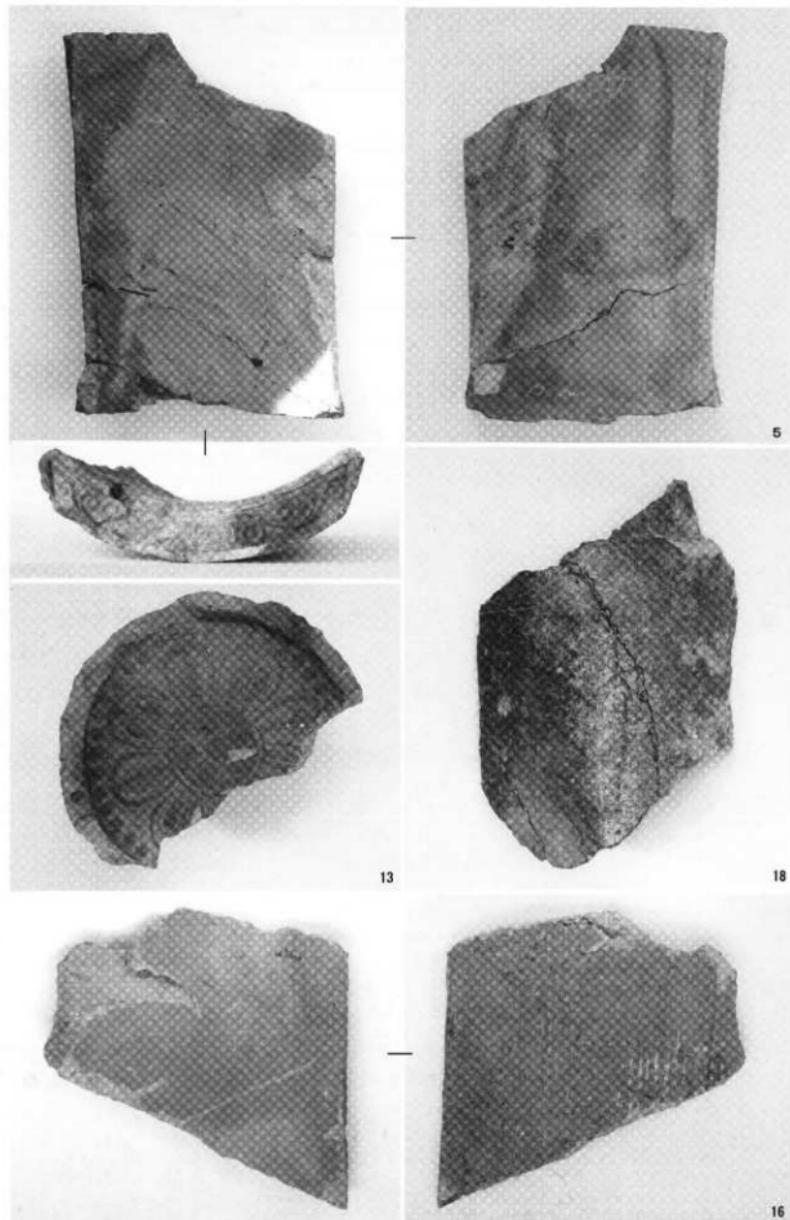
3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(2区東壁:西から)



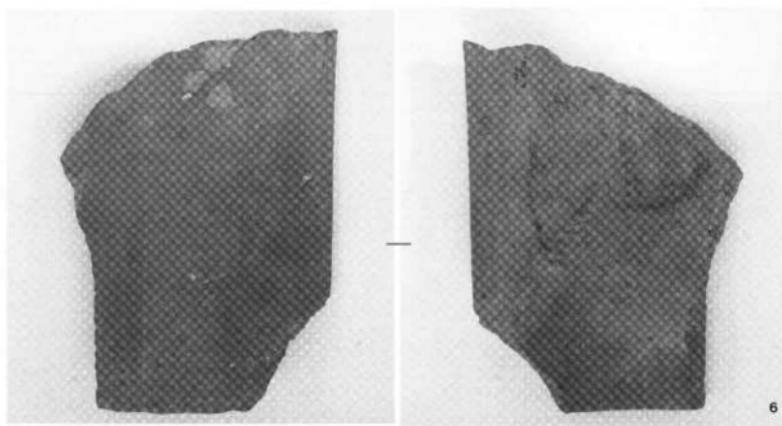
3-12) 東郷庵寺(2008-96)の調査(出土遺物 1)



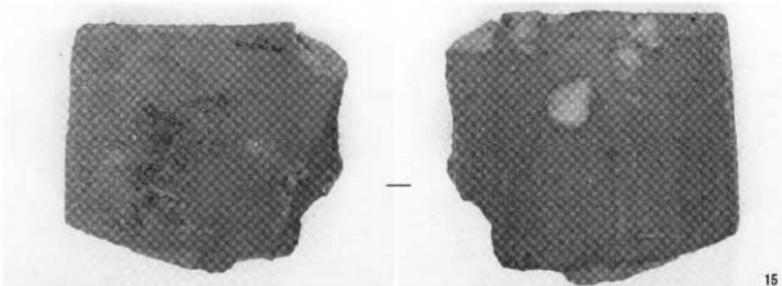
3-12) 東寺廃寺(2008-96)の調査(出土遺物2)



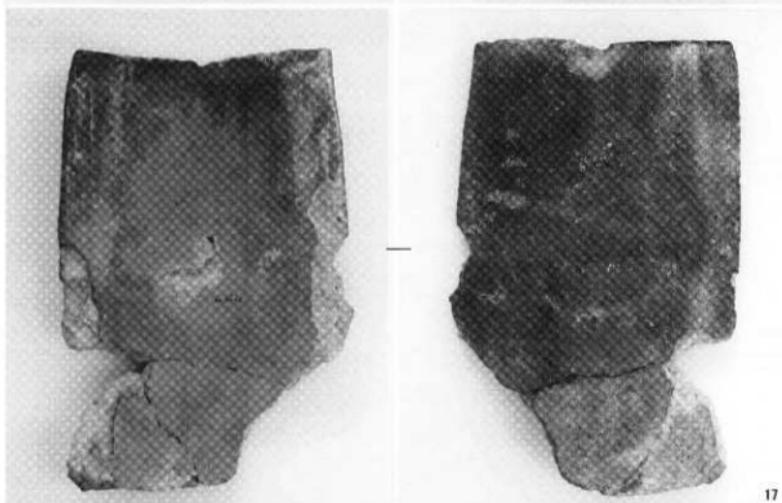
3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(出土遺物)



6



15



17

3-13) 中田遺跡(2008-378)の調査(出土遺物)



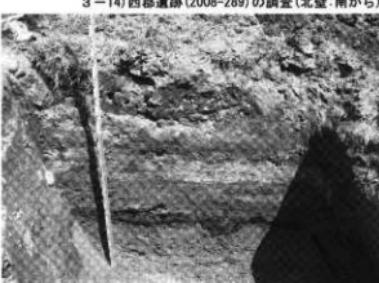
3-14) 西都遺跡(2008-289)の調査(調査地全景:南東から)



3-14) 西都遺跡(2008-289)の調査(北壁:南から)



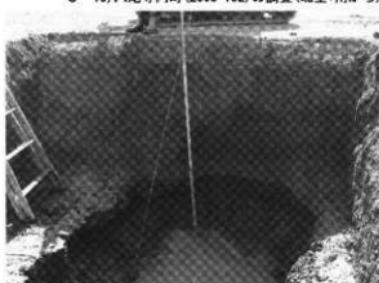
3-15) 八尾寺内町(2008-152)の調査(第1面:南から)



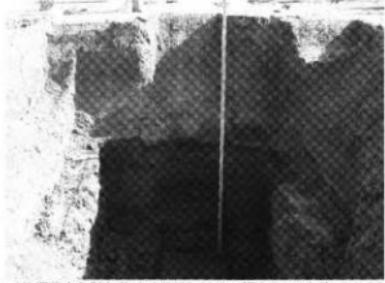
3-15) 八尾寺内町(2008-152)の調査(北壁:南から)



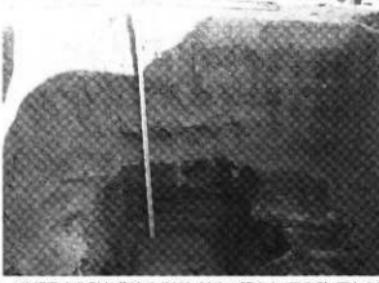
3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査(調査地全景:北から)



3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査(2区南壁:北から)

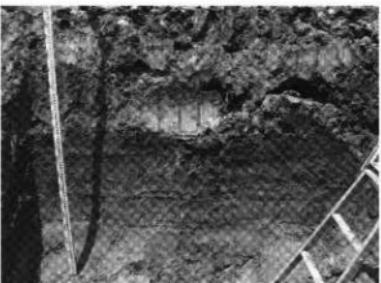


3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査(4区東壁:西から) 3-16) 埋蔵文化財包蔵地外(2008-361)の調査(5区東壁:西から)





3-17) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-95) の調査 (調査地全景: 西から)



3-17) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-95) の調査 (2区西壁: 東から)



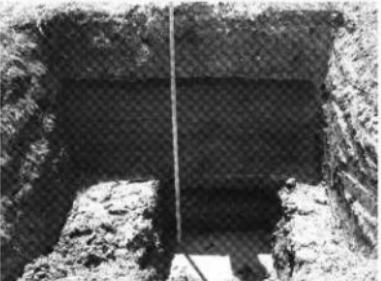
3-17) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-95) の調査 (4区西壁: 東から)



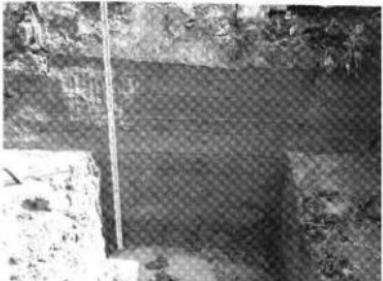
3-17) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-95) の調査 (5区東壁: 西から)



3-18) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-237) の調査 (調査地全景: 東から)



3-18) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-237) の調査 (1区南壁: 北から)



3-18) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-237) の調査 (7区南壁: 北から)



3-18) 埋蔵文化財包蔵地外 (2008-237) の調査 (8区南壁: 北から)

III 平成19年度保存処理事業報告

III 平成19年度保存処理事業報告

1. 保存処理事業の概要

八尾市教育委員会では、平成18年度から、国庫補助事業である埋蔵文化財調査事業の一環として、民間開発事業等に伴う発掘調査で出土した木製品や金属製品などの脆弱遺物について、順次保存処理を実施し、埋蔵文化財の活用に資することにした。

平成19年度の保存処理事業は、八尾市内遺跡で出土した各種の金属製品について、保存処理を行うこととした。その内訳は、(財)八尾市文化財調査研究会が平成18年度に発掘調査した小阪合遺跡第40次調査で出土した奈良時代から平安時代にかけての皇朝十二錢29点(種類・点数内訳は「3. 小阪合遺跡第40次調査出土古代銭貨の出土状況について」を参照)と銅製鉈尾・小阪合遺跡第29次遺跡出土の皇朝十二錢1点(貞觀永寶)、八尾市教育委員会が平成13年度に調査した郡川東塚古墳で出土した馬具類、昭和41年に大阪府教育委員会が調査し、平成19年度に八尾市に移管され、再整理を実施している高安古墳群の出土遺物のうち、郡川16号墳や二室塚古墳等で出土した主要な金属製品(耳環・鉄釘・棒状鉄製品・不明鉄製品)である(表1)。保存処理業務は、平成19年6月から平成20年1月まで(財)大阪市文化財協会へ委託し、実施した。

本報告は、上記の事業成果を収録したもので、保存処理の方法と分析結果、保存処理を実施した各資料の詳細について記載している。

金属製品の保存処理の方法及び成分分析の結果についての「2. 金属製品の保存処理について」は、保存処理を実施した(財)大阪市文化財協会の担当者 伊藤幸司が執筆している。小阪合遺跡第40次調査の金属製品の出土遺構等の概要については、「3. 小阪合遺跡第40次調査出土古代銭貨の出土状況について」で、(財)八尾市文化財調査研究会の調査担当者 菊井佳弥が執筆を行った。「4. 郡川東塚古墳出土の馬具について」は、1) 馬具の出土状況を藤井が、2) 馬具の概要を、実測を行った金澤雄太(大阪大学大学院博士前期課程)が執筆を行った。

なお、その他合わせて保存処理を行った小阪合遺跡第29次調査の貞觀永寶の出土遺構等の詳細については、「II 小阪合遺跡(第29次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告116』(2008年)に、高安古墳群の金属製品の出土した各古墳の概要と金属製品の詳細については、本年度刊行の『高安古墳群平成20年度調査報告書』(八尾市文化財調査報告60・2009年)に掲載しており、合わせて参照いただきたい。

今後、保存処理事業を終えた金属製品については、八尾市内の文化財施設等において、展示・公開等の活用を積極的にはかることにしていく。

(八尾市教育委員会 藤井淳弘)

2. 金属製品の保存処理について

1) 対象

保存処理および成分分析の対象とした資料は表1のとおりである。便宜上、通し番号を付した。

2) 鉄製品の保存処理工程

基本的には以下のとおりであるが、遺存状態によって繰返し回数・使用薬剤を適宜変更した。

2-1 事前調査・記録

保存処理前の状態観察とともに、記録のため外観の写真撮影、X線透過画像撮影をおこなった。

2-2 クリーニング・脱水処理

アルコールに浸漬し、表面に付着している砂などを除去するとともに、水分を除去した。

2-3 銛落とし

資料上、また保存上取り除く必要のある鏽についてはハンドグラインダー・メスなどを用いて物理的に取り除いた。

2-4 脱塩処理

金属が鏽びる原因のひとつである塩分を除去した。

高温高圧脱酸素水法による。

2-5 樹脂含浸処理

酸素との接触を出来る限り防ぎ、傷んでいる遺物自体の強度を向上させるため、減圧下で合成樹脂含浸をおこなった。

使用した合成樹脂は非水溶性アクリル樹脂（バラロイドB72）、非水溶性アクリルエマルジョン（バラロイドNAD10）である。

2-6 接合・復元

協議の上、必要なものに限り接合・復元をおこなった。

接合復元には非水溶性アクリル樹脂（バラロイドB72）、セルロース系接着剤（セメダインC）などを用いた。欠失箇所の補填にはエポキシ系合成樹脂（クイック5）などを使用した。

2-7 処理後記録・保管

処理後の記録のため写真撮影をおこない、低湿度状態で経過観察をおこなった。

3) 銅および銅合金製品の保存処理工程

処理工程は以下のとおりであるが、前記鉄製品と同様、遺存状態によって繰返し回数・使用薬剤を適宜変更した。耳環については、ベンゾトリアゾール処理を行っていない。

3-1 事前調査・記録

保存処理前の状態観察とともに、記録のため外観の写真撮影、X線透過画像撮影（写真1）をおこなった。

3-2 クリーニング・脱水処理

アルコールに浸漬し、表面に付着している砂などを除去するとともに水分を除去した。

3-3 銛落とし

資料上、また保存上取り除く鏽についてはハンドグラインダー・メスなどを用いて物理的に取り除いた。

3-4 ベンゾトリアゾール処理

塩化物イオンによる鏽化を防ぐため、ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に浸漬した。

3-5 樹脂含浸処理

酸素との接触を出来る限り防ぐとともに傷んでいる遺物自体の強度を向上させるため、減圧下で合成樹脂含浸をおこなった。使用した合成樹脂は非水溶性アクリル樹脂（バラロイドB72）、非水溶性アクリルエマルジョン（バラロイドNAD10）である。

3-6 接合・復元

協議の上、必要なものに限り接合・復元をおこなった。

接合・復元には非水溶性アクリル樹脂（バラロイドB72）、セルロース系接着剤（セメダインC）などを用いた。欠失箇所の補填にはエポキシ系合成樹脂（クイック5）などを使用した。

3-7 処理後記録・保管

処理後の記録のため写真撮影をおこない、低湿度状態で経過観察した。

処理番号	遺物名	遺物番号	縦径(mm)	横径(mm)	厚み(mm)	重量(g)	備考
YOS07001	隆平永寶	1433	25.27	25.14	1.47	2.69	小阪合遺跡第40次調査
YOS07002	富壽神寶	1434	22.95	22.89	1.39	3.44	(以下YOS07029まで)
YOS07003	富壽神寶	1435	23.09	22.91	1.52	2.53	
YOS07004	神功開寶	1436	24.87	24.51	1.73	4.61	
YOS07005	承和昌寶	1437	20.51	20.45	1.42	2.07	
YOS07006	承和昌寶	1438	20.97	21.02	1.17	1.61	
YOS07007	富壽神寶	1439	23.23	22.94	1.84	3.6	
YOS07008	神功開寶	1440	25.03	25.43	1.73	4.34	
YOS07009	隆平永寶	1441	24.25	24.12	1.42	3.15	
YOS07010	隆平永寶	1442	25.7	25.46	1.63	4.14	
YOS07011	神功開寶	1443	24.62	24.78	1.53	4.39	
YOS07012	隆平永寶	1444	26.15	26.15	1.32	3.46	
YOS07013	富壽神寶	1445	23.48	23.47	1.74	2.97	
YOS07014	神功開寶	1446	24.7	24.64	1.74	3.74	
YOS07015	承和昌寶	1447	17.73	20.4	1.39	0.91	2/3残存
YOS07016	承和昌寶	1448	20.77	20.77	1.45	2.44	
YOS07017	承和昌寶	1449	21.5	21.13	1.26	1.37	5分割 測定は接合後
YOS07018	和同開珎	1450	20.14	23.09	1.36	2.12	2/3残存
YOS07019	陸平永寶	1451	24.84	24.96	1.6	3.06	
YOS07020	承和昌寶	1452	20.71	20.72	1.41	2.56	
YOS07021	承和昌寶	1453	20.68	20.83	1.22	1.93	
YOS07022	長年人宍	1454	19.47	19.49	1.12	1.74	
YOS07023	貞觀永寶	1455	19.21	19.44	1.5	1.71	
YOS07024	承和昌寶	1388	20.87	20.76	1.14	1.98	
YOS07025	承和昌寶	1389	20.93	20.65	1.42	2.62	
YOS07026	和同開珎	1456	25.03	24.78	1.09	2.07	
YOS07027	承和昌寶	1457	20.47	20.39	1.37	1.8	
YOS07028	承和昌寶	1458	20.55	20.46	1.28	1.91	
YOS07029	和同開珎	1459	11.66	18.79	1.36	0.86	1/3残存
YOS07039	貞觀永寶	451	19.07	19.38	1.26	1.83	小阪合遺跡第29次調査
YOS07030	鉈尾						小阪合遺跡第40次調査
YOS07036	馬具(鞍金具)						郡川東塚古墳
YOS07037	馬具(鞍具)						郡川東塚古墳
YOS07034	耳環						郡川16号墳
YOS07035	耳環						郡部川37号墳
YOS07031	棒状鉄製品						郡川16号墳
YOS07032	鉄釘						二室塚古墳
YOS07033	鉄釘						二室塚古墳
YOS07038	不明鉄製品						愛宕塚古墳

表1 保存処理・成分分析等対象資料一覧

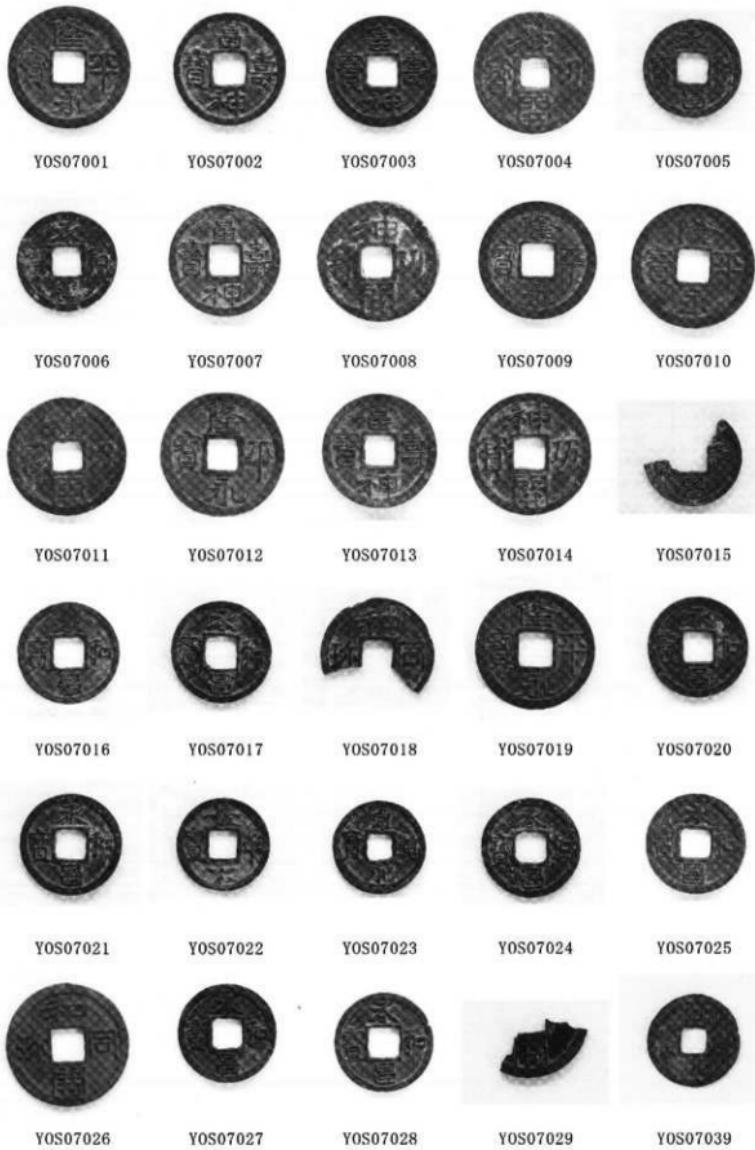


写真1 皇朝十二銭(YOS07001～YOS07029・YOS07039)



YOS07001



YOS07002



YOS07003



YOS07004



YOS07005



YOS07006



YOS07007



YOS07008



YOS07009



YOS07010



YOS07011



YOS07012



YOS07013



YOS07014



YOS07015



YOS07016



YOS07017



YOS07018



YOS07019



YOS07020



YOS07021



YOS07022



YOS07023



YOS07024



YOS07025



YOS07026



YOS07027



YOS07028



YOS07029



YOS07039

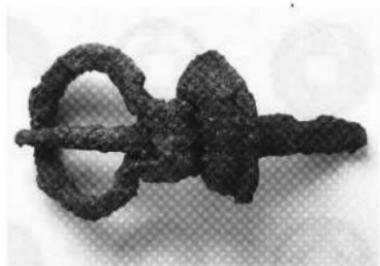
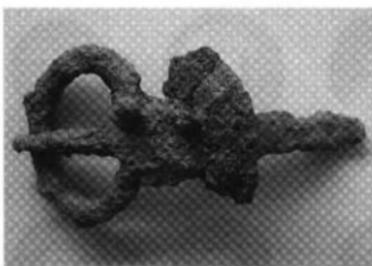
写真2 皇朝十二銭 X線写真



鋼製鉈尾 (YOS0730) 表・裏:保存処理後



耳環 (左:YOS0734・右:YOS07035):保存処理後

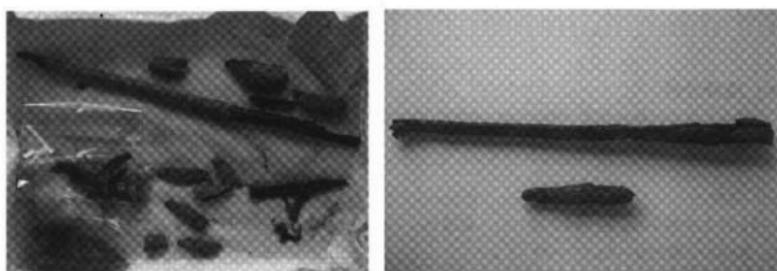


馬具(鞍金屬・YOS07035):保存処理前(左)・処理後(右上・右下)

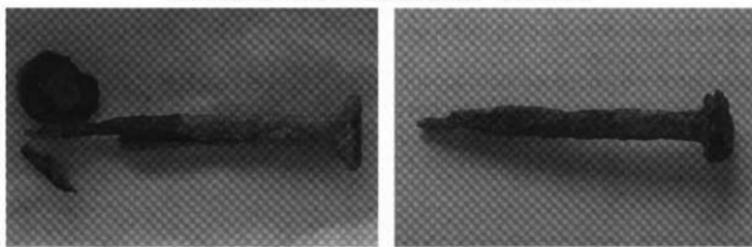
写真3 保存処理資料(その1)



馬具(鉸具・YOS70036)：保存処理前(左)・処理後(右上・右下)

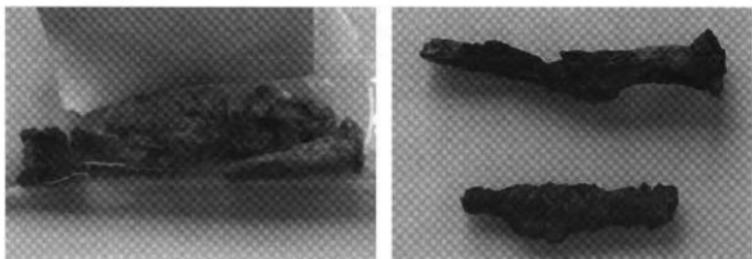


棒状鉄製品(YOS07031)：保存処理前(左)・処理後(右)

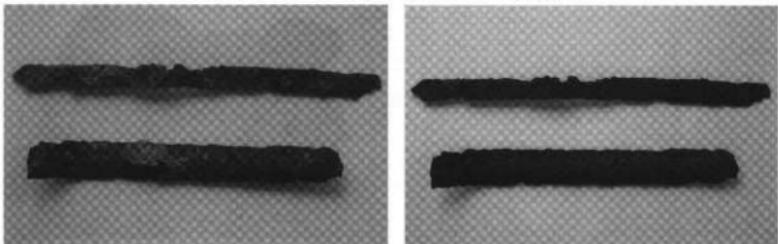


鉄釘(YOS7032)：保存処理前(左)・処理後(右)

写真4 保存処理資料(その2)



鉄釘 (YOS7033)：保存処理前（左）・処理後（右）



不明鉄製品 (YOS07038)：保存処理前（左）・処理後（右）

写真5 保存処理資料（その3）

4) 成分分析

対象としたのは錢貨30点 (YOS07001~07029・07039) と耳環2点である。エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて資料表面を非破壊で分析した（註1）。

4-1 錢貨

得られた結果から、銅(Cu)・鉛(Pb)・砒素(As)・銀(Ag)・錫(Sn)・アンチモン(Sb)の6元素に着目した。結果の一覧を表に掲げた（註2）。

X線透過写真的觀察から、鉛の偏析が認められることが多いことが判った（註3）。特に和同開珎 (YOS07018)、神功開寶 (YOS07004-07008・07011)、富壽神寶 (YOS07007)、承和昌寶 (YOS07017-07020-07021・07024-07025) は顕著である。和同開珎 (YOS07018) は他のものとは異なる状況で、何らかの熱を受けて鉛が表面に溶出したかのように見える。

蛍光X線分析で得られた結果の中から錫の量比を概観すると、その多寡と製作（初鋤）年代とが相關することが判った。具体的には、8世紀代に初鋤された和同開珎・神功開寶・隆平永寶の3銭種が錫を多く含有するグループとしてまとまる（註4）。検出量が少ないため比較対象とするには不確実な要素も含まれるが、アンチモンについても同様の傾向がある。

4-2 耳環

YOS07034は銀製、YOS07035は金製であることが予想されていた。

分析の結果、YOS07034からは銀(Ag)が多量に検出されてはいるが、比較的多量の金(Au)と少量ではあるが水銀(Hg)も確認した。現状では損傷（変色）が激しいために外観からは確認できないが、金色を呈し

ていた可能性が高い。つくりとしては、①造形した銀素地の上に鍍金が施されていた、②金と銀の合金を用いて造形した、というふたつが考えられる。水銀が確認できていることから①の可能性が高い。しかし、②についても銀の量比が高い場合、その影響から表面が銀～黒紫色に変色することもあるのでその可能性を否定することはできない。

YOS07035は、多量の金と、銀・銅を検出した。この結果が表面の金色を呈している地金の組成を示しているのか、鍍金層とその下の素地の地金成分を示しているのかは判じ難いが、損傷部分の観察などから判断すれば、前者であると思われる。

4.3まとめ

錢貨について非常に興味深い結果が得られた。文化財を対象にする場合、非破壊で表面の分析を行うことが多く、その表面の状態によって結果が左右される。今回は、遺存状態の良い資料が多かったことが幸いしたと思われる。

耳環については、他の分析事例とその製作技法に関する解釈がいかなるものであるのか当方の見識が十分ではないため、当該資料の製作方法を断言することは差し控えた。これまでの分析例を精査すれば製作技法について判断できるのかもしれない。

註1) 使用した機器は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置DX95(エダックス社製、大阪歴史博物館設置)である。測定条件は次のとおりである。

対陰極 ロジウム(Rh)、検出器 半導体検出器、管電圧 40kV、管電流 20μA、測定雰囲気 真空、測定範囲 5mmφ、測定時間 1000sec (デッドタイム補正有)

註2) 半定量的な含有量(wt%)の算出について、使用したソフトウェアはDX95に装備されている「NSTD32」である。測定試料の成分組成に近い標準試料を1点測定し、その結果からノンスタンダード法で用いる係数テーブルを補正して使用する手法をとった。よって表中の数値は、必ずしも真の含有量を示しているものではなく、同一条件で測定・算出した試料間での量比の比較についてのみ有効である。標準試料は、錢貨にはCu-Sn-Pb系合金、耳環にはAu-Ag-Cu系合金を用いた。

註3) エネルギー分散型微小部測定用蛍光X線分析装置Eagle II (エダックス社製、大阪歴史博物館設置) を用いて成分の分布を調べ、X線透過写真に見られる偏析が鉛のものであることを確認した。

註4) 和同開珎(YOS07026)は錫の含有量が異常に多い。これはX線透過写真からもうかがえるように、資料の構み具合が影響しており、本来の含有量よりも多い値を示していると思われる。

番号	銭種	Cu %	As %	Pb %	Ag %	Sn %	Sb %	(wt%) その他成分
YOS07001	隆平永寶	67.97	0.26	29.48	0.47	0.38	0.40	1.04
YOS07002	富壽神寶	76.77	0.13	21.06	0.35	0.23	0.10	1.36
YOS07003	富壽神寶	70.92	0.31	26.91	0.37	0.35	0.46	0.68
YOS07004	神功開寶	57.92	0.40	37.87	0.36	0.71	0.30	2.44
YOS07005	永和昌寶	60.63	0.25	37.50	0.32	0.23	0.19	0.88
YOS07006	永和昌寶	65.11	0.26	33.21	0.47	0.15	0.18	0.62
YOS07007	富志神寶	70.81	0.14	27.11	0.53	0.36	0.12	0.93
YOS07008	神功開寶	62.73	0.31	34.32	0.16	0.35	0.35	1.78
YOS07009	隆平永寶	76.59	0.22	21.40	0.32	0.43	0.31	0.73
YOS07010	隆平永寶	76.68	0.16	21.22	0.25	0.61	0.38	0.70
YOS07011	神功開寶	65.54	0.31	30.74	0.19	0.82	0.33	2.07
YOS07012	隆平永寶	72.67	0.23	24.80	0.28	0.88	0.29	0.85
YOS07013	富壽神寶	70.72	0.24	27.51	0.28	0.15	0.37	0.73
YOS07014	神功開寶	79.62	0.27	16.76	0.26	1.44	0.34	1.31
YOS07015	永和昌寶	56.07	0.31	41.40	0.64	-	0.24	1.34
YOS07016	永和昌寶	90.11	0.09	8.51	0.35	-	0.17	0.77
YOS07017	永和昌寶	41.36	0.20	56.21	0.32	0.22	0.27	1.42
YOS07018	和同開珍	59.69	0.21	37.87	0.14	0.40	0.47	1.22
YOS07019	隆平永寶	74.93	0.22	23.07	0.25	0.44	0.40	0.69
YOS07020	永和昌寶	76.97	0.18	21.42	0.45	0.16	0.20	0.62
YOS07021	永和昌寶	58.98	0.16	38.52	0.40	0.24	0.26	1.44
YOS07022	長年大寶	73.90	0.11	24.57	0.40	-	0.15	0.87
YOS07023	直觀永寶	81.57	0.09	17.02	0.47	-	0.11	0.74
YOS07024	永和昌寶	59.30	0.14	39.01	0.32	-	0.23	1.00
YOS07025	永和昌寶	78.93	0.12	19.58	0.41	-	0.27	0.69
YOS07026	和同開珍	51.86	0.32	36.83	0.46	8.84	0.41	1.28
YOS07027	永和昌寶	80.83	0.11	17.67	0.36	0.21	0.17	0.65
YOS07028	永和昌寶	81.32	0.11	17.17	0.40	0.17	0.16	0.67
YOS07029	和同開珍	73.90	0.19	24.78	0.40	0.43	0.30	0.00
YOS07039	直觀永寶	64.71	0.21	31.97	0.61	1.36	0.52	0.62

表2 銭貨分析結果一覧

(wt%)

番号	銭種	Sn k
YOS07023	貞觀永寶	-
YOS07022	長年大寶	-
YOS07016	承和昌寶	-
YOS07024	承和昌寶	-
YOS07015	承和昌寶	-
YOS07025	承和昌寶	-
YOS07006	承和昌寶	0.15
YOS07013	富壽神寶	0.15
YOS07020	承和昌寶	0.16
YOS07028	承和昌寶	0.17
YOS07027	承和昌寶	0.21
YOS07017	承和昌寶	0.22
YOS07002	富壽神寶	0.23
YOS07005	承和昌寶	0.23
YOS07021	承和昌寶	0.24
YOS07003	富壽神寶	0.35
YOS07008	神功開寶	0.35
YOS07007	富壽神寶	0.36
YOS07001	隆平永寶	0.38
YOS07018	和同開珎	0.4
YOS07029	和同開珎	0.43
YOS07009	隆平永寶	0.43
YOS07019	隆平永寶	0.44
YOS07010	隆平永寶	0.61
YOS07004	神功開寶	0.71
YOS07011	神功開寶	0.82
YOS07012	隆平永寶	0.88
YOS07039	貞觀永寶	1.36
YOS07014	神功開寶	1.44
YOS07026	和同開珎	8.84

表3 錫含有量の多寡
(ゴシック体は8世紀代铸造の銭種)

Elem	YOS034	YOS035
AlK	0.03	
SiK	0.21	0.08
P K	0.11	
S K	0.22	
K K	0.08	
CaK	0.1	0.04
TiK	0.03	
MnK	0.02	
FeK	0.31	0.05
CuK	7.4	13.94
AuL	26.14	52.17
AsK		0.01
PbL	0.05	
BrK	0.39	0.12
RbK	0.13	
HgL	2.59	0.15
AgK	62.19	33.43

表4 耳環の成分分析結果(wt%)

3. 小阪合遺跡第40次調査出土古代銭貨の出土状況について

1)はじめに

小阪合遺跡は、大阪府八尾市の中央に位置し、現地表の標高は、T.P.+8.0~9.0mを測る。北に東郷廃寺、北東に東郷遺跡、西に成法寺遺跡、南西に矢作遺跡、南に中田遺跡が隣接する。当遺跡発見の契機は、昭和30年に今回の調査地の西側で実施された大阪府営住宅建設工事中に古墳時代の遺物が多量に見つかったことによる。その後、昭和56年から当遺跡内で区画整理事業および楠根川改修工事が施工されることになり、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、(財)八尾市文化財調査研究会によって多くの調査が行われ、旧大和川の支流であり、小阪合分流路と呼ばれる楠根川の旧流路によって形成された自然堤防上に弥生時代~近世まで遺構が多く分布することが明らかになっている。1997~1998年に実行なわれた(財)大阪府文化財センターによる調査(98-5・7回)で、縁錢を含む69枚の皇朝十二錢が出土した奈良時代~平安時代前半の河川が検出され、注目を集めました。

2) 調査概要

第40次調査地は、八尾市若草町に所在し、病院建設に伴い、2005年9月から2006年3月まで約5,230m²を調査した。本調査では、以下の遺構面を5面と検出した。

第1面は、中世～近世の島畑と掘り込み水田、灌漑用井戸を検出した。この時期は、耕作地として利用されていた。調査区東端では、室町期の溝や井戸を検出した。居住域であった。

第2面は、調査区の西側で平安時代後期の溝、その西側で井戸2基、東側で耕作溝を検出した。この溝は西の居住域と東の耕作地を区画するためのものと考えられる。これらの遺構からは、尾上編年の1-Ⅱ期の瓦器陶器が出土した。

第3面は、奈良～平安時代の大溝1、飛鳥～奈良時代の大溝2、古墳時代後期の土坑、ミニチュア土器と滑石模造品が出土した古墳時代中期の河川を検出した。

第4面は、古墳時代前期の堅穴住居、舟材を井戸枠に転用した井戸、居住域の東を限る溝や河川を検出した。弥生時代後期後半の土坑からは、土器が多数出土した。

第5面は、弥生時代中期末から後期初頭の水路と水田を検出した。

3) 遺構概要

古代錢貨は、第3面で検出した奈良～平安時代の大溝1から出土した。大溝1は、98-5・7区で皇朝十二銭が出土した河川と同一遺構である。詳細は後述するが、自然河川ではなく人工的に掘削されたものと考えたので、大溝1と呼称する。検出幅が8.0～15.0m、深さが0.8mを測るが、岸が氾濫により大きく削かれているため、南側は幅が広くなる。底面の高低差より、南から北へ流れていたことがわかる。

埋土は、第4図に示したように大きく3つに分けられ、上層の堆積は、攪拌した土(粗砂～中礫が混じる極細砂)や弱い流れによる堆積(細砂～極粗砂)が互層状に堆積し、上層から踏み込みも見られた。中層は、激しい流れで堆積した砂疊層を呈していた。砂疊層を除いた下層は、幅3.0m、深さ0.1～0.6mで、溝状に一段窪み、ブロック土や弱い流れを示すシルト～細砂で埋まっていた。大溝1は、当初自然河川と考えていたが、堆積状況から最終的に人工的に掘削された溝であったと判断し、下層の溝状の窪みは、最初に掘削された溝の痕跡と考える。溝の両岸を大溝1検出面の高さまで延長すると、本来の幅は、5.0～6.0m、深さは、0.8～1.0mに復原できる。調査区南側で、この痕跡に沿って並ぶ3本の杭を検出した。大阪府文化財センターが調査した98-5・7区でも、土坑と報告されているが、痕跡が見つかっており、西法面には、杭と石で構成された護岸施設が部分的に検出されている。大溝1は、本調査区から98-7区まで南北方向に直線的に進み、98-5区の北側からやや西に軸が傾く。その続きは、東郷遺跡第52次調査で検出されていないので、北西方向に伸びるのではなく、その後、再び北へ直進するを考える。

4) 出土状況

錢貨は、和同開珎3枚、神功開寶4枚、隆平永寶5枚、富壽神寶4枚、承和昌寶11枚、長年大寶1枚、貞觀永寶1枚の計29枚が新たに出土した(表5)。98-5・7区で出土しなかった神功開寶と貞觀永寶が出土し、大溝1から出土した錢貨が8種類となった。饒益神寶の出土や錯銭状態で出土したものはなかった。研磨痕が残るもの(4・6)が存在したが、98-5・7区出土錢貨のように未使用もしくは、それに近い状態と言えるものがほとんどなかった。鋳型の劣化のため、文字がやや肉になったもの(2・14)、文字に傷があるもの(2・3・14・20)、湯口部分が欠損したもの(23)、湯口の痕跡を残すものの(18)、鑄不足のもの(25)もあった。破片で出土したもの(10・13・22)も含まれたが、すべての錢貨は、腐蝕もなく、良好な状態で出土した。

すべての錢貨は、中層の砂疊層を除去した下層の直上、下層上面に流れによってできた極小さな窪みから出土した。錢貨の出土した地点は、下層の溝痕跡に沿って分布する(第2図)。中層の強い流れにより原位置を保っていない可能性を考えるが、洪水により上流から流されてきたものではなく、溝の岸付近から投げ入れられたか、溝に入って置かれたものであろう。錢貨は、単独で出土する場合と数枚が比

鉢的まとまって出土する場合があった。まとまって出土した地点は、投棄場もしくは祭祀場かと思われたが推測の域を出ない。錢貨が集中する地点は、本調査区では3箇所あり、98-5・7区では2箇所が確認されている（第3図）。

錢貨の共伴遺物は、中層の砂礫層から墨書き土器「富」「歌」「根口」、鎌、横櫛、鉄斧、須恵器壺・杯、転用硯、上師器碗・鍋、獸骨が出土し、砂礫層を除去した下層の直上で、墨書き土器と、縁付陶器碗、須恵器三耳壺、上師器碗、十師器鍋、銅製鉈尾（保存処理実施分）、讃岐門分寺同窓瓦（軒丸瓦・軒平瓦）、獸骨が出土した。銅製鉈尾は、98-5・7区で出土した巡方と同じ規格のもので、表面には研磨痕が残り、黒漆がわずかに確認できる。②グループとした一群に近い位置で出土し、今回出土した錢貨の使用者を考える上に重要な遺物である。祭祀遺物やその可能性が考えられる遺物が多く出土しているが、錢貨9（長年大寶）が、馬の下顎骨の直下から出土したことを除くと錢貨と一緒に投棄された可能性のある遺物はみられなかった。

大溝1からは、以上のような弥生時代後期～10世紀前半までの土器が出土している。大溝1から出土した錢貨は、和同開珎（初鑄708年）～貞觀永寶（初鑄870年）で、その年代は、他の遺物の年代とも矛盾しない。弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、大溝1の流れにより下層の遺構を削り出したため、混入したものと考える。大溝1に切られる大溝2からは少量であるが、飛鳥～奈良時代の土器が出土している。このことから、カーブを描くように流れていた大溝2が、奈良時代中頃に埋まつた後、大溝1が直線的に新たに掘削された。その後10世紀前半まで存続し、洪水により埋没した。

5)まとめ

今回の成果を周辺の調査成果と照らし合わせて、大溝1の性格をのべてまとめてかえたい。本調査区の北西に接する東郷遺跡では、多次にわたる調査が実施されており、第33・43・47・48・52・64次調査において、奈良時代～平安時代前半の掘立柱建物や井戸、土坑、溝が検出され、当該期の居住域が広がっていたことが明らかになっている。また、北側には、東郷廃寺が所在する。約500m南に所在する第1次調査地では、幅14.0m、深さ0.6mを測る奈良～平安時代の河川が検出されている。大溝1を真っ直ぐ南に延長した所にあり、規模も時期も大溝1と似ており、同一遺構の可能性がある。先ほど述べたが、第52次調査では、大溝は検出されておらず、北に東郷廃寺が所在することも踏まると北側では、集落と寺域を区画している可能性も考えられる。本調査での大溝1からの出土した遺物は、98-5・7区と同様であったが、北側が質量ともに豊富である。集落の中心や寺院に近いことによるものと考えられる。東郷遺跡第52次調査や小阪合遺跡98-5区では第40次調査と同じ「根口」と書かれた墨書き土器が出土している。これらの資料が分布する範囲は、同一空間であったことを示している。大溝1の東側には、当該期の遺構が存在しておらず、本遺構は、集落の東縁に位置する。排水と区画のための溝であったと考える。

錢貨については、宮都の道路側溝等で祭祀と考えられる出土状況が散見できる。大溝1出土錢貨も計98枚が出土し、他に祭祀遺物が存在することから、祭祀に使われた可能性が十分考えられる。しかし、祭祀の修法については、なお検討が必要で、今後の課題としたい。

【参考文献】

- 岡田清一他2006『16. 小阪合遺跡第40次調査(KS2005-40)』『平成17年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』財團法人八尾市文化財調査研究会
(附)人政府文化財調査研究センター-2000『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第51集 八尾市若草町所在小阪合遺跡 -都市基盤整備公団八尾用地建林地に伴う発掘調査報告書-』
(附)大阪府文化財センター-2004『(財)大阪府文化財センター調査報告書第116集 小阪合遺跡(その2) 八尾用地(連携)埋蔵文化財発掘調査(第2次)』
原山昌則2006『12-1. 小阪合遺跡(2005-44)の調査』『八尾市文化財調査報告33平成17年度国庫補助事業 八尾市内遺跡平成17年度発掘調査

報告書』八尾市教育委員会

(財)八尾市文化財調査研究会1987『(財)八尾市文化財調査研究会報告10 小阪合遺跡・八尾都山町面事業南小阪合土地地区整理事業に伴う発掘調査(昭和57年1月第1次調査報告書)』

岡田清一1993『IV 東郷遺跡(第33次調査)』財団法人八尾市文化財調査研究会報告41『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告書』財団法人八尾市文化財調査研究会

高萩千秋1994『XIV 東郷遺跡第43次調査(TG93-43)』『財団法人八尾市文化財調査研究会報告42』

岡田清一1995『19 東郷遺跡第47次調査(TG94-47)』『20 東郷遺跡第48次調査(TG95-48)』『平成6年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告書』財団法人八尾市文化財調査研究会

高萩千秋『XV 東郷遺跡(第52次調査)』『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』

坪田真一他2006『22.東郷跡第64次調査(TG2005-64)』『平成17年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告書』財団法人八尾市文化財調査研究会

酒 斎1992『9.東郷庵寺(90-531)の調査』『八尾市文化財調査報告25 平成3年度国庫補助事業 八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書』八尾市教育委員会

酒 斎1996『11.東郷庵寺(94-730)の調査』『八尾市文化財調査報告33 平成7年度国庫補助事業 八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告書』八尾市教育委員会

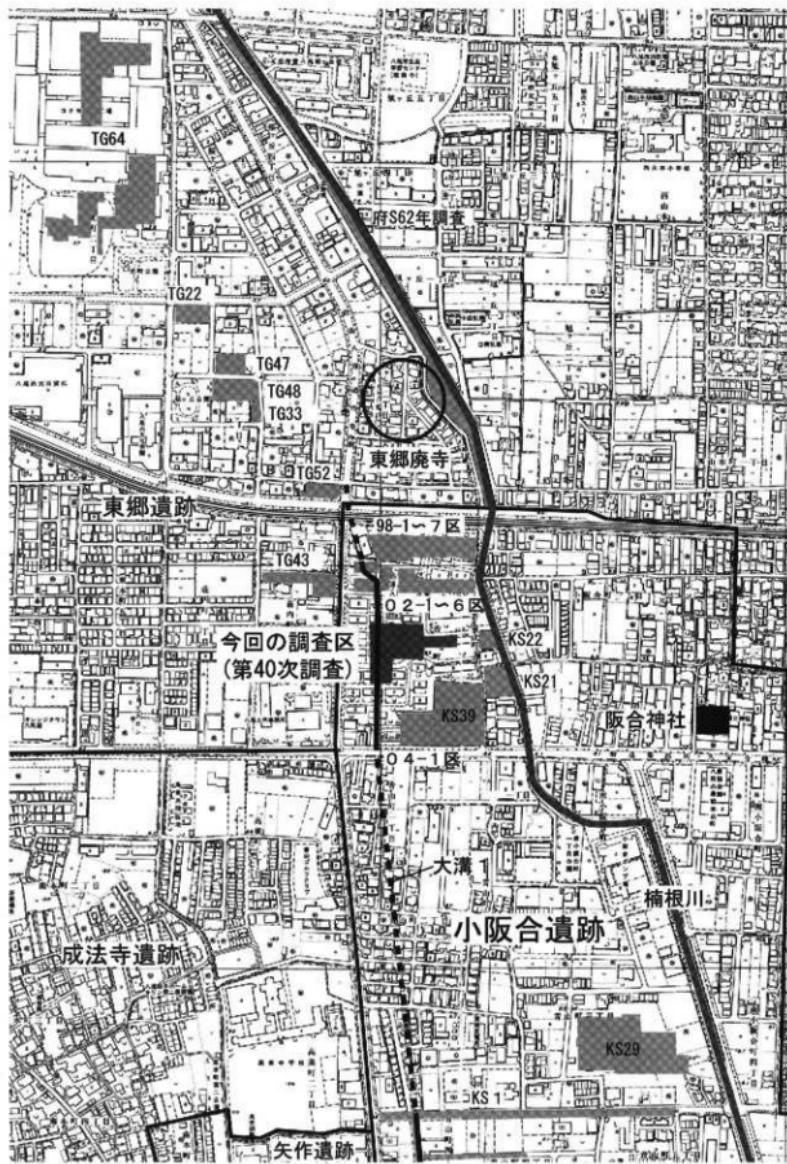
番号(遺物番号)	種類	出土状況
1(YOS07013)	富壽神寶	単独
2(YOS07010)	隆平永寶	③グルーブ
3(YOS07011)	神功開寶	③グルーブ
4(YOS07012)	隆平永寶	③グルーブ
5(YOS07023)	貞觀永寶	単独
6(YOS07002)	富壽神寶	単独
7(YOS07003)	富壽神寶	単独
8(YOS07009)	隆平永寶	単独
9(YOS07022)	長年大寶	単独
10(YOS07018)	和同開珎	単独
11(YOS07001)	隆平永寶	単独
12(YOS07014)	神功開寶	②グルーブ
13(YOS07015)	承和昌寶	②グルーブ
14(YOS07008)	神功開寶	②グルーブ
15(YOS07004)	神功開寶	②グルーブ

番号(遺物番号)	種類	出土状況
16(YOS07017)	承和昌寶	②グルーブ
17(YOS07005)	承和昌寶	②グルーブ
18(YOS07007)	富壽神寶	②グルーブ
19(YOS07006)	承和昌寶	②グルーブ
20(YOS07016)	承和昌寶	①グルーブ
21(YOS07024)	承和昌寶	①グルーブ
22(YOS07029)	和同開珎	①グルーブ
23(YOS07028)	承和昌寶	①グルーブ
24(YOS07025)	承和昌寶	①グルーブ
25(YOS07020)	承和昌寶	①グルーブ
26(YOS07021)	承和昌寶	①グルーブ
27(YOS07027)	承和昌寶	①グルーブ
28(YOS07019)	隆平永寶	単独
29(YOS07026)	和同開珎	単独

1908	利同開珎	④グルーブ
1909	和同開珎	④グルーブ
1910	和同開珎	単独
1911	隆平永寶	④グルーブ
1912	隆平永寶	④グルーブ
1913	富壽神寶	④グルーブ

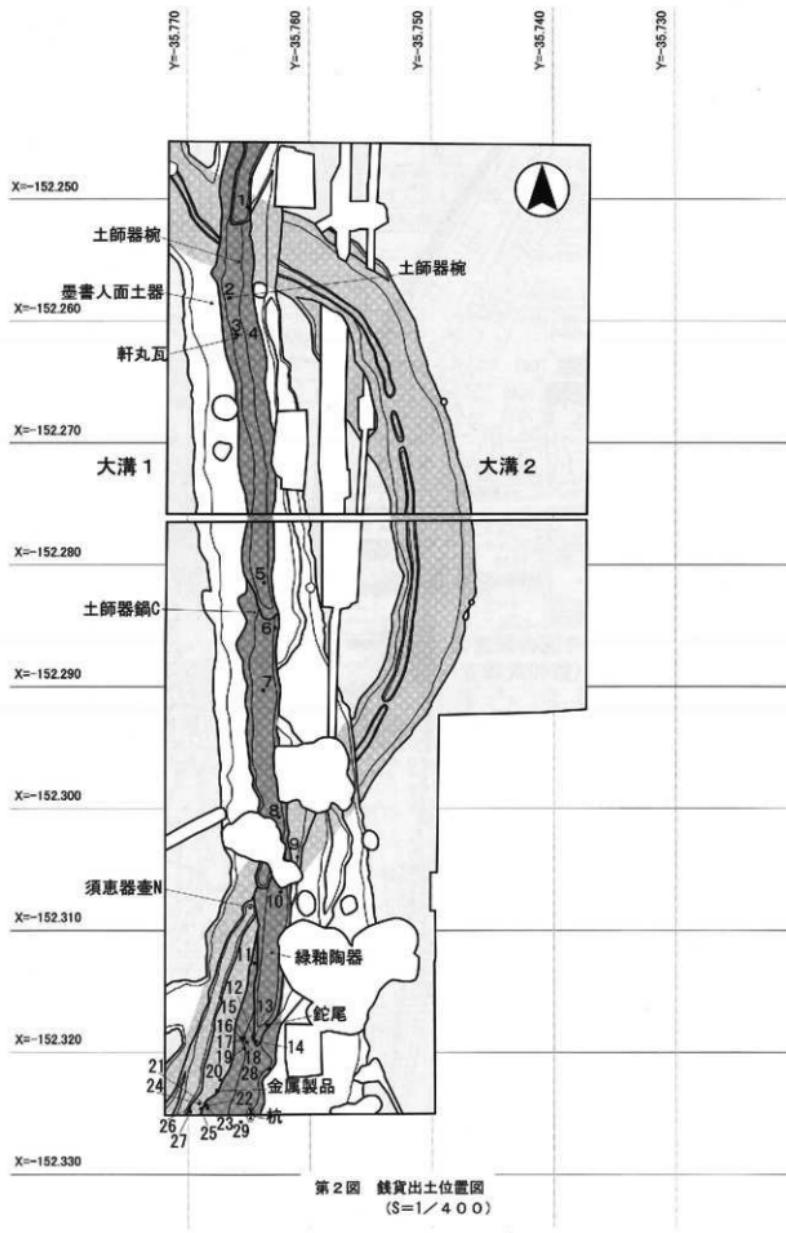
1914	富壽神寶	④グルーブ
1915	承和昌寶	④グルーブ
1916	長年大寶	④グルーブ
1917	饒益神寶	④グルーブ
1918	饒益神寶	④グルーブ
1850~1907	和同開珎	⑤グルーブ

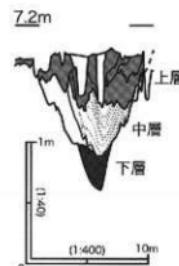
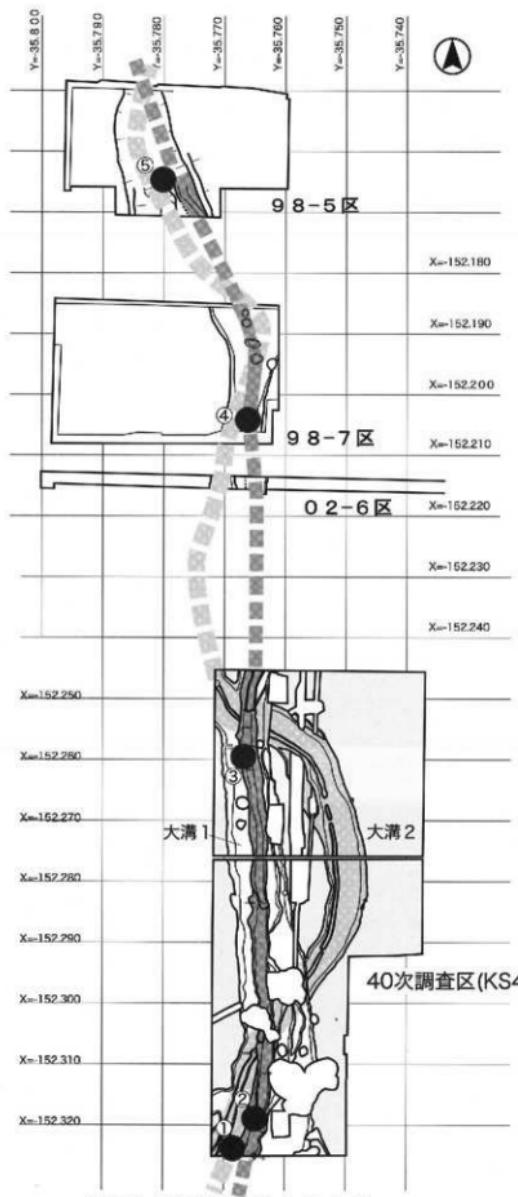
表5 出土錢貨一覧



第1図 調査区位置図
(S=1/6000)

0 100m





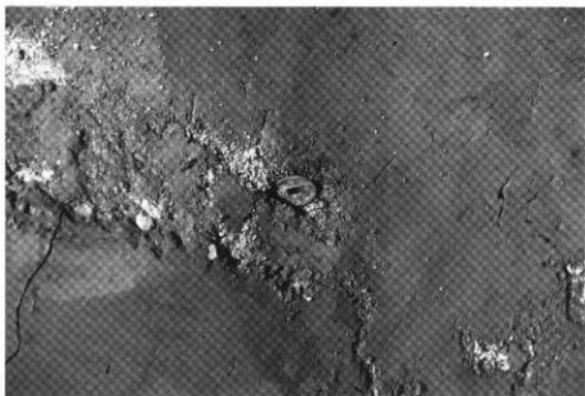
第5図「根口」の墨書き土器



大溝1・2完掘状況（北より）



大溝1断面（北より）



銭貨1出土状況（南西より）



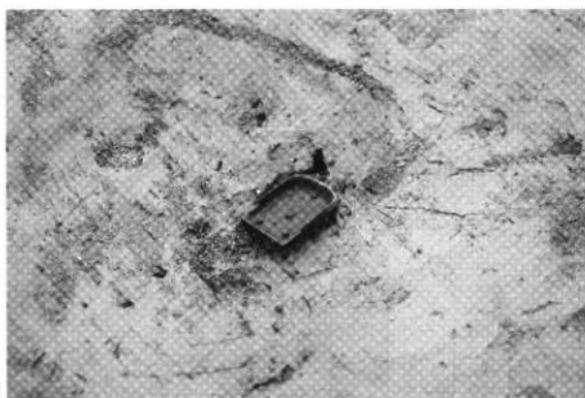
銭貨3・4、軒丸瓦
出土状況（南より）



銭貨22・23出土状況
(南東より)



銭貨9上の下顎骨出土状況
(西より)



銅製鈎尾出土状況 (西より)



墨書き面土器出土状況
(北より)

4. 郡川東塚古墳出土の馬具について

1) 馬具の出土状況

郡川東塚古墳は、郡川3丁目に位置し、前方部を北側に、後円部を南側に向かた古墳時代後期の前方後円墳である。郡川東塚古墳の主体部である横穴式石室が明治30年に開口した時の、木棺や多数の刀剣類や鏡などの副葬品が出土した記録（清原得巖 1976「高安の遺跡と私」『大阪文化誌』第2巻第2号、(財)大阪文化財センター）があるが、副葬品が散逸し、現在、その所在や内容はほとんど明らかでない。近年、開口時に出土した画文帶神獸鏡や金銅製鉢、耳環、勾玉や管玉などの玉類などの装身具等の資料が再検討され、その一端を知ることができる（吉田野々 2004「生駒西籠古墳出土の基礎報告—久保田家所蔵の郡川東塚・西ノ山古墳・うし塚古墳等の出土品の紹介」『八尾市立歴史民俗資料館研究紀要』第15号）。

八尾市教育委員会が実施した郡川東塚古墳の調査概要是、『八尾市内平成13年度発掘調査報告書』（2002年）に記載している。この調査で確認した明治期に破壊された後円部の横穴式石室を埋め戻した搅乱層の中から、これまで明らかとなっていた副葬品と性格の異なる馬具類や武器（鉄鐵・刀剣類）、武具（挂甲小札）などの金属製品が、破片資料ながら出土した。開口時の記録にあった40～50本に及んだという刀剣類を始めとする鉄製品は、開口時の記録にあるだけであった。その構成や種類を知ることは、高安古墳群の出現を考える上でも重要な前方後円墳である郡川東塚古墳の性格を再検討できる資料と考えられる。これら鉄製品を中心とする副葬品の再整理と保存処理を行った後、順次資料化していくことで、今後の活用・研究に備えていくことにしている。

平成19年度に保存処理を実施した馬具類2点のうち、1の鞍金具は、概要報告においても、すでに報告したもの（報告遺物番号29）であるが、今回保存処理を実施し、詳細が明らかとなったため、改めて尖測したものである。また、2の鉢具については、以前の報告では図化しなかったが、再整理の過程で、鉗に覆われていたものを、鉗の除去を行ったところ、鉢具であることが明らかになったため、合わせて保存処理を行い、報告することにした。

（藤井）

2) 馬具の概要（第6図・写真は、写真3・写真4を参照）

1は鉢具、座金具、脚からなる「鞍金具」である。鉢具の輪金は、C字状の両端を明瞭な稜が残らないように折り曲げたもので、その間にT字状の刺金と脚を巻きつけるための軸となる鉄棒をとりつけている。刺金は先端が輪金の外側に突き出さない構造であるが、脚軸に関しては明瞭でない。脚は断面が矩形で、およそ3分の1の長さのところで折り曲げて軸にかける二脚式となる。長軸に直交する方向の木日が観察でき、装着されていた居木の垂下部分の厚さが4.8cm程度であったことがわかる。法量は、輪金長4.2cm、最大幅5.5cm、基部幅2.0cm、脚長6.4cm、幅1.3cmを測る。座金具は径が約4.5cm、高さ0.7cmの円錐状を呈しており、一部が破損しているが鉢の中央に長方形の孔を穿っている。中央の孔は縦0.9cm、幅1.3cm程度に復元できる。座金具が鞍と接していた部分に有機物の付着が認められることから機金具を挿ままで木製の鞍に直接打ち込んでいたと考えられる。1個体のみの出土であるため、鞍にいくつ装着されていたかはわからない。

2は「鉢具」である。輪金の形状は中ほどで若干くびれる馬蹄形に折り曲げたもので、その間に棒を挟み込み、そこに刺金の先端を折り曲げて掛ける構造になっている。錆化が激しいため輪金と棒の接合方法は判然としない。法量は、全長6.8cm、最大幅4.7cm、下辺幅3.1cm、刺金長6.8cmを測る。

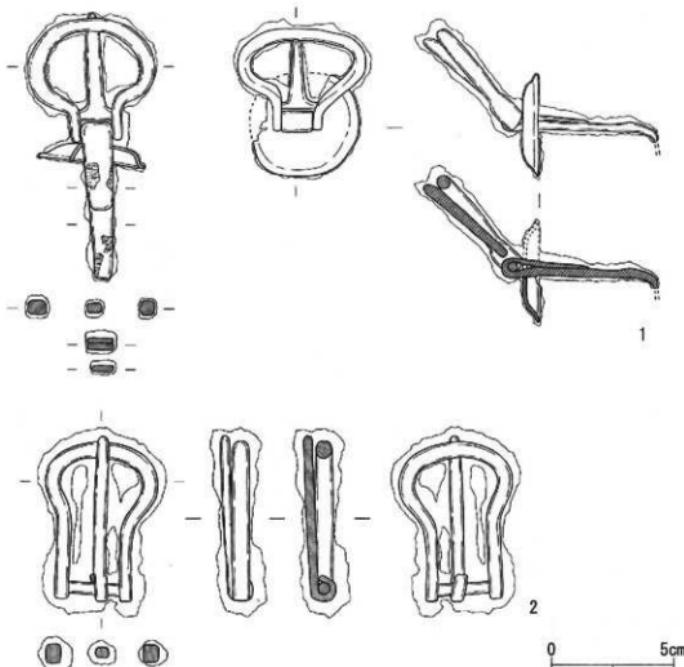
官代采一は金属装軸の検討を行う中で鞍金具の構造とその時期的変遷に関して触れ、脚部の形態により脚と輪金を一体造りにするものと、別造りにするものの2つに大別している（官代1996）。それらをさらに形状と打ち込み方法によって細別しており、その分類によるとこの鞍金具は「脚を不均等にからめて同一方向に曲げるもの」という範疇に含められるが、この型式の存続時期はMT15型式期～TK217型

式期と長く、細かい時期まで絞り込むことは難しい。ただし「輪金が左右に張り出するものは時期が下るにつれて輪金が長くなる」傾向があり、その点からみると輪金長の短いこの鞍金具は比較的古い時期に位置づけられ、当古墳から出土している須恵器の年代観とも大きく齟齬をきたさないといえる。

(金澤)

【参考文献】

- 旗野吉則1988「古墳時代馬鞍の再検討一木製鞍と金銅装の鞍一」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズIV 同刊行会
旗野吉則1990「鞍の構造」『鹿嶋藤ノ木古墳 第一次調査報告書』鹿嶋町・鹿嶋町教育委員会
鳥取県古代文化センター1999『上塙古墳山古墳の研究』
増田精一1965「古墳出土鞍の構造」『考古学雑誌』第50巻第4号
宮代栄一1996「古墳時代の金属装鞍の研究—鉄地金銅装鞍を中心に—」『日本考古学』第3号 日本考古学協会
山田良三1975「古墳時代馬鞍とその構造への試考」『青陵』第27号 奈良県立橿原考古学研究所



第6図 馬具(1・2) 実測図(S=1/2)

報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい20ねんどはつくつちょうさほうこくしょ
書名	八尾市内遺跡平成20年度発掘調査報告書
副書名	平成20年度国庫補助事業
巻次	
シリーズ名	八尾市文化財調査報告
シリーズ番号	59
編著者名	藤井洋弘/坪田真一/西村公助/樋口 薫/河村志理/米井友美/木村健明/菊井住弥/伊藤幸司/金澤雄太
編集機関	八尾市教育委員会
所在地	〒581-0003 大阪府八尾市本町一丁目1番1号 TEL072-924-8555
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	***				
3-1) <small>あらきわらしき</small> 老原遺跡 (2007-389)	<small>八尾市老原1</small>	27212	38	34 36 16	135 36 9	2008.1.9	18.75	倉庫住宅 (遺構確認調査)
3-2) <small>おおたのわらしき</small> 太田遺跡 (2007-360)	<small>八尾市太田3</small>	27212	68	34 35 32	135 35 16	2008.2.5	12.0	宅地造成 (遺構確認調査)
3-3) <small>ひじりわらしき</small> 恵智遺跡 (2007-460)	<small>八尾市恵智中町1</small>	27212	30	34 36 37	135 37 38	2008.3.14	8.0	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-4) <small>とうべくわらしき</small> 東郷遺跡 (2007-344)	<small>八尾市本町7</small>	27212	37	34 37 49	135 36 2	2008.2.13	24.5	共同住宅 (遺構確認調査)
3-5) <small>とうべくわらしき</small> 東郷遺跡 (2007-414)	<small>八尾市北本町2</small>	27212	37	34 37 59	135 36 11	2008.3.3	27.0	病院 (遺構確認調査)
3-6) <small>とうべくわらしき</small> 東郷遺跡 (2007-517)	<small>八尾市北本町2</small>	27212	37	34 37 59	135 36 8	2008.3.27 - 28	73.5	分譲共同住宅 (遺構確認調査)
3-7) <small>ちゆうわらしき</small> 中田遺跡 (2007-290)	<small>八尾市八尾木北3</small>	27212	28	34 36 54	135 36 56	2008.1.17	9.5	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-8) <small>ちゆうわらしき</small> 中田遺跡 (2007-419)	<small>八尾市刑部3</small>	27212	28	34 36 51	135 37 10	2008.2.4	18.75	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-9) <small>ちゆうわらしき</small> 中田遺跡 (2007-502)	<small>八尾市八尾木北3</small>	27212	28	34 36 54	135 36 57	2008.3.13	18.0	店舗付住戸 (遺構確認調査)
3-1) <small>あづまわらしき</small> 茨坂遺跡 (2008-40)	<small>八尾市豊後町2</small>	27212	65	34 38 16	135 36 27	2008.6.4	16.0	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-2) <small>あづまわらしき</small> 茨坂遺跡 (2008-323)	<small>八尾市茨坂町3</small>	27212	65	34 38 19	135 36 20	2008.11.6	6.25	個人住宅 (発掘調査)
3-3) <small>くにじやくわらしき</small> 久立寺遺跡 (2008-8)	<small>八尾市北龜井町3</small>	27212	23	34 37 17	135 34 36	2008.4.16 - 18	72.0	工場 (遺構確認調査)
3-4) <small>くにじやくわらしき</small> 久立寺内町 (2008-87)	<small>八尾市久立寺6</small>	27212	79	34 37 46	135 35 7	2008.6.16	15.0	共同住宅 (遺構確認調査)

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	***	***			
3-5) 久立寺寺内町 (2008-137)	八尾市久立寺3	27212	79	34 37 42	135 35 14	2008.8.7・8	4.0	個人住宅 (発掘調査)
3-6) 小坂合道跡 (2008-117)	八尾市青山町4	27212	40	34 37 15	135 36 37	2008.7.2	14.25	店舗 (遺構確認調査)
3-7) 高麗寺跡 (2008-14)	八尾市服部川2	27212	36	34 37 31	135 38 18	2008.7.30・31	37.02	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-8) 渋川廃寺 (2008-217)	八尾市東日町1	27212	75	34 37 8	135 35 26	2008.9.1~8	102.0	店舗 (遺構確認調査)
3-9) 成法寺遺跡 (2008-256)	八尾市南木町3	27212	73	34 37 24	135 36 27	2008.10.16	8.0	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-10) 東郷遺跡 (2008-298)	八尾市光町1	27212	37	34 37 51	135 36 13	2008.11.10・11	27.0	店舗付共同住宅 (遺構確認調査)
3-11) 東郷遺跡 (2008-344)	八尾市光町2	27212	37	34 37 50	135 36 22	2008.11.26	18.0	共同住宅 (遺構確認調査)
3-12) 東郷先寺 (2008-96)	八尾市桜ヶ丘2	27212	86	34 37 47	135 36 35	2008.6.6・9	36.0	個人住宅 (発掘調査)
3-13) 中田遺跡 (2008-378)	八尾市中田4	27212	28	34 37 3	135 36 49	2008.12.8	18.05	分譲住宅 (遺構確認調査)
3-14) 西郷遺跡 (2008-298)	八尾市伴町2	27212	46	34 38 47	135 36 22	2008.10.15	6.25	個人住宅 (発掘調査)
3-15) 八尾寺内町 (2008-152)	八尾市本町2	27212	80	34 37 39	135 35 54	2008.8.12	4.0	個人住宅 (発掘調査)
3-16) 墓藏文化財 包蔵地外(2008-361)	八尾市南極松町4	27212		34 36 34	135 35 35	2008.12.2・3	143.5	葬祭場建設 (試掘調査)
3-17) 墓藏文化財 包蔵地外(2008-95)	八尾市吉町3・4	27212		34 38 6	135 35 47	2008.6.17	45.0	工場 (試掘調査)
3-18) 墓藏文化財 包蔵地外(2008-237)	八尾市老原9	27212		34 36 15	135 35 47	2008.9.8・10	128.0	工場・倉庫 (試掘調査)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
3-1) 老原遺跡 (2007-383)	集落			板状木製品	
3-2) 太田遺跡 (2007-360)	集落	古墳時代前期～平安時代末	落込み・溝・ピット		
3-3) 恩智遺跡 (2007-460)	集落	弥生時代中期		弥生土器	
3-4) 東郷遺跡 (2007-344)	集落	飛鳥時代・近世	溝	土師器	本調査実施 (TG 2007-70次)
3-5) 東郷遺跡 (2007-414)	集落	古墳時代初頭			
3-6) 東郷遺跡 (2007-517)	集落	中世～近世	溝	土師器	
3-7) 中田遺跡 (2007-290)	集落	古墳時代中期	溝	上部器・須恵器・管玉	周辺に古墳の存在が考えられる
3-8) 中田遺跡 (2007-419)	集落	弥生時代後期～古墳時代初頭・中世	土坑	弥生土器・土師器・黒色土器・瓦器	
3-9) 中田遺跡 (2007-502)	集落	古墳時代中期		土師器・須恵器	
3-1) 岩振遺跡 (2008-40)	集落	中世～近世	落込み	瓦器	
3-2) 岩振遺跡 (2008-323)	集落	近世	水田・井戸	陶磁器・土師器	
3-3) 久立寺遺跡 (2008-8)	集落	古墳時代前期			
3-4) 久立寺寺内町 (2008-87)	集落	弥生時代後期・近世	溝	弥生土器・陶磁器・瓦	
3-5) 久宝寺寺内町 (2008-137)	集落	近世	土坑	陶磁器・土師器・瓦	
3-6) 小阪合遺跡 (2008-117)	集落	古墳時代中期・古代～中世	土坑・溝	埴輪	
3-7) 高闘寺跡 (2008-14)	寺院	古代	ピット	土師器・須恵器・輪羽口・瓦	講堂の柱列の可能性がある
3-8) 沢川庵寺 (2008-217)	寺院	弥生時代前期～中世	ピット・土坑・溝	弥生土器・土師器・瓦	弥生時代前期の集落の広がりを確認
3-9) 成法寺遺跡 (2008-256)	集落	弥生時代後期～古墳時代中期	溝・落込み	埴輪	溝は方墳の一帯の可能性がある
3-10) 東郷遺跡 (2008-298)	集落	弥生時代中期・古墳時代前期	ピット・土坑	弥生土器・土師器	本調査実施 (TG 2008-71次)
3-11) 東郷遺跡 (2008-344)	集落	古代～中世	ピット・土坑	須恵器	本調査実施 (TG 2008-72次)

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
3-12) 東郷庵寺 (2008-96)	寺院	古代		土師器・須恵器・瓦	
3-13) 中山遺跡 (2008-378)	集落	中世	溝	土師器・瓦器・瓦	中世寺院に関わる 構の可能性がある
3-14) 西都遺跡 (2008-298)	集落	古代～中世	溝・土坑	土師器	
3-15) 八尾寺内町 (2008-152)	集落	近世	土坑		
3-16) 埋蔵文化財包 藏地外(2008-361)					
3-17) 埋蔵文化財包 藏地外(2008-95)					
3-18) 埋蔵文化財包 藏地外(2008-237)					



八尾市文化財調査報告59
平成20年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成20年度発掘調査報告書

発行日 2009年3月31日
編集・発行 八尾市教育委員会
〒581-0003 八尾市本町一丁目一番一号
TEL(072)924-8555(直通)
印 刷 日広株式会社

〈八尾市刊行物番号 H20-137〉